



甲状腺細胞診 顕微鏡実習 in OKINAWA

2023.05.27 (土)

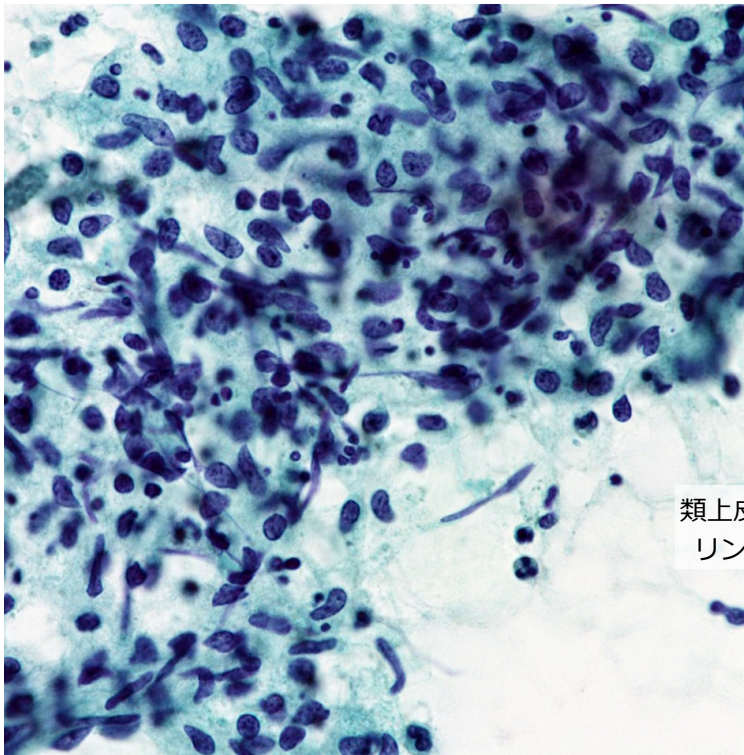
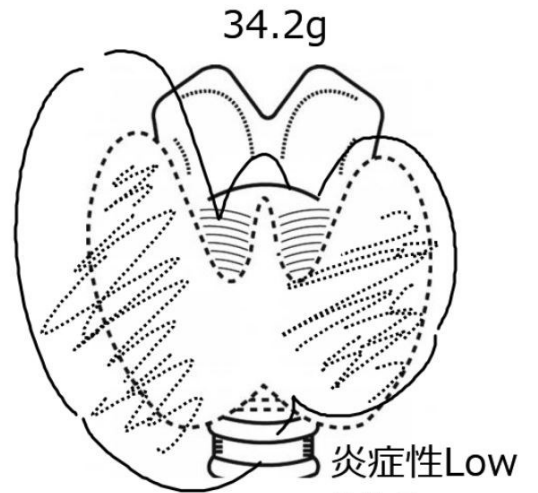
沖縄県臨床検査技師会・沖縄県臨床細胞学会共催

@琉球大学医学部基礎講義実習棟 2階206

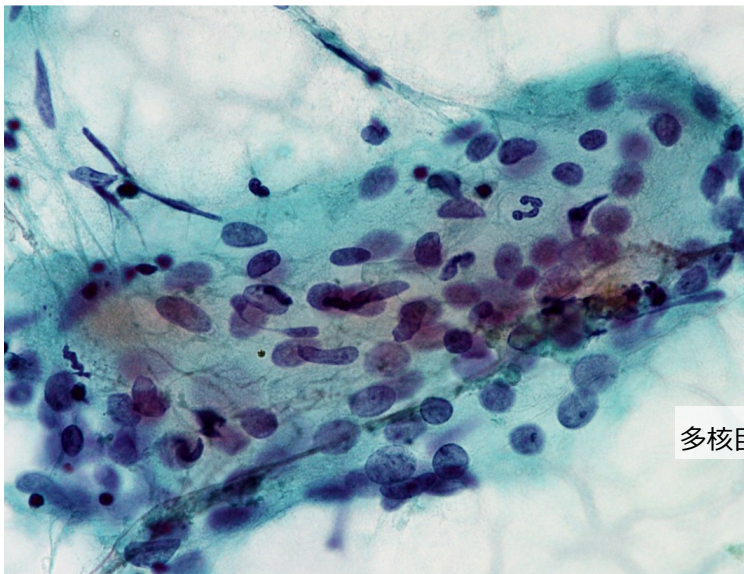
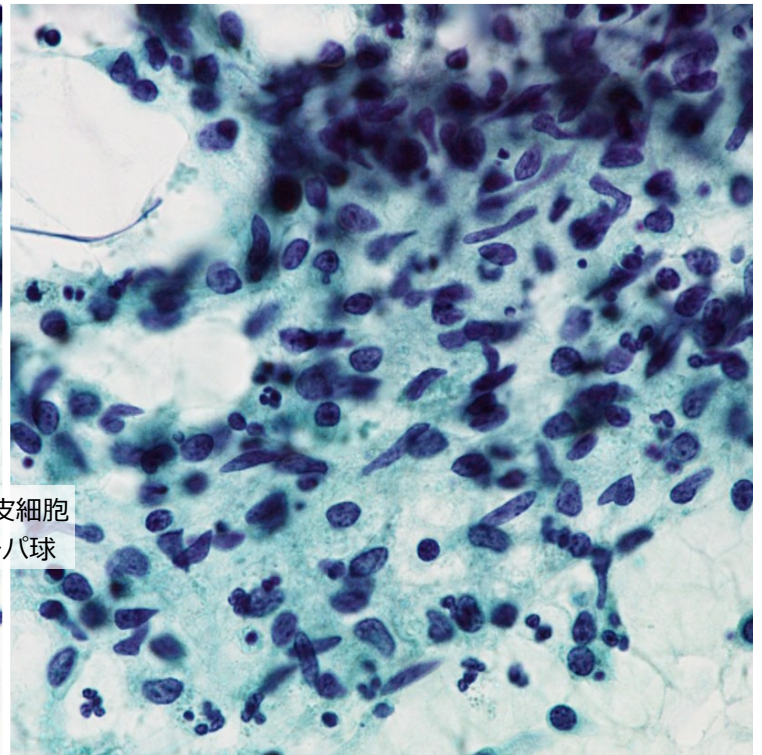
鏡 検 症 例 リ ス ト

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1-1. 亜急性甲状腺炎 | 16. 乳頭癌 穿刺経路再発 |
| 1-2. 慢性甲状腺炎 | 17. 円柱細胞癌 |
| 2. 腺腫様結節 | 18. 篩状モルラ癌 |
| 3. 腺腫様結節 乳頭状 | 19. 低分化癌 |
| 4. 濾胞腺腫 | 20. 未分化癌 |
| 5. 膨大細胞腺腫 | 21. 未分化癌 |
| 6. 濾胞癌 | 22. 髓様癌 |
| 7. 膨大細胞癌 | 23. 髓様癌 紡錘形 |
| 8. 硝子化索状腫瘍 | 24. MALTリンパ腫 |
| 9. N I F T P | 25. MALTリンパ腫 形質細胞への分化 |
| 10. 乳頭癌 被包化 濾胞型 | 26. リンパ腫 大細胞型 |
| 11. 乳頭癌 | 27. 甲状腺内胸腺癌 |
| 12. 乳頭癌 被包化 大濾胞型 | 28. 甲状腺内胸腺癌 |
| 13. 乳頭癌 びまん性硬化型 | 29. 胸腺腫 |
| 14. 乳頭癌 ワルチン腫瘍様 | 30-1. 食道憩室 |
| 15. 乳頭癌 リンパ節転移 | 30-2. 副甲状腺腺腫 |

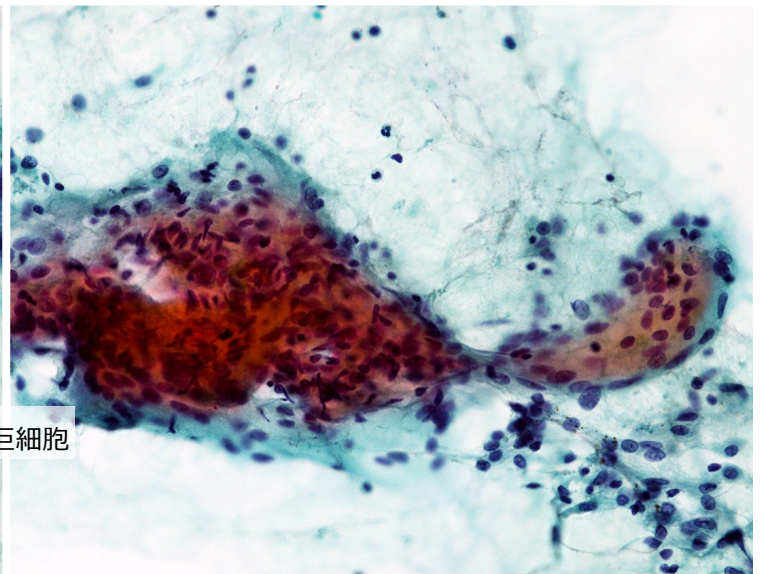
1-1. 亜急性性甲状腺炎



類上皮細胞
リンパ球



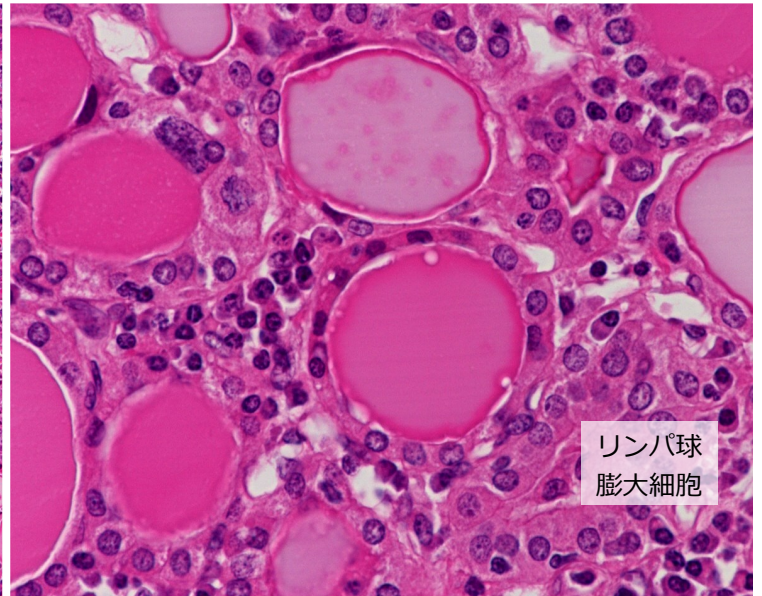
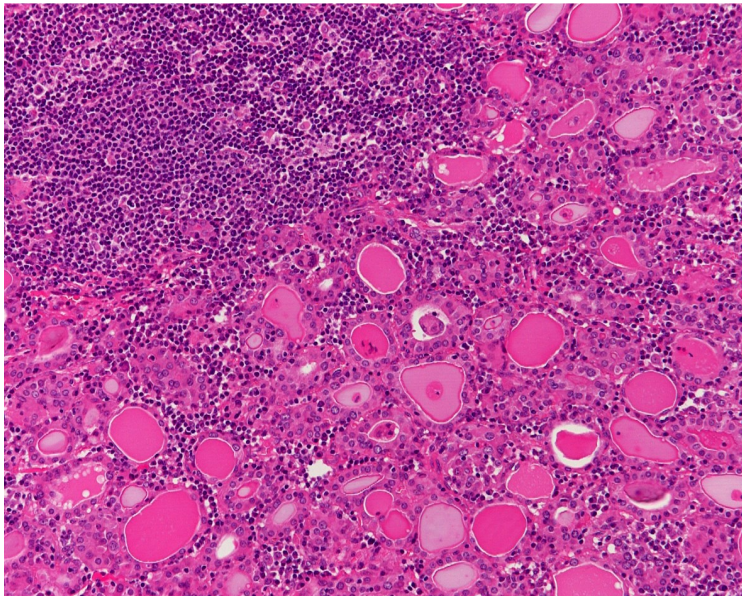
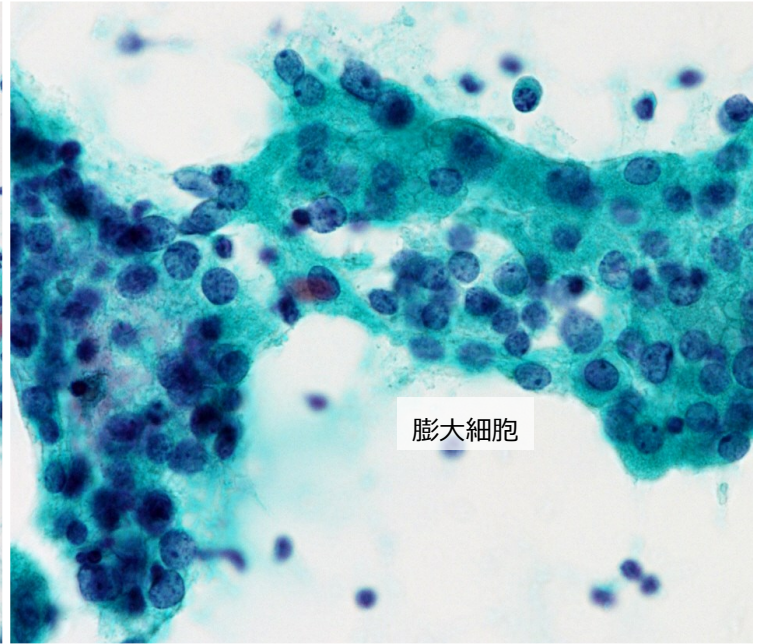
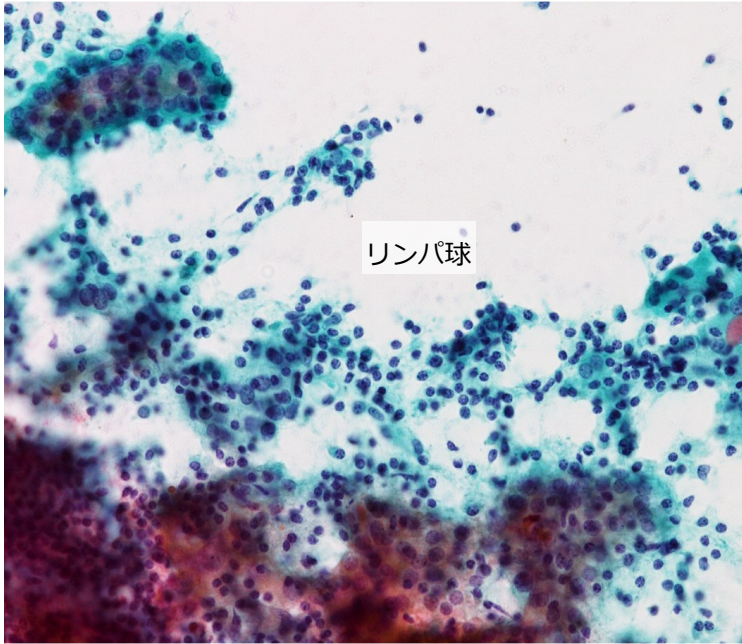
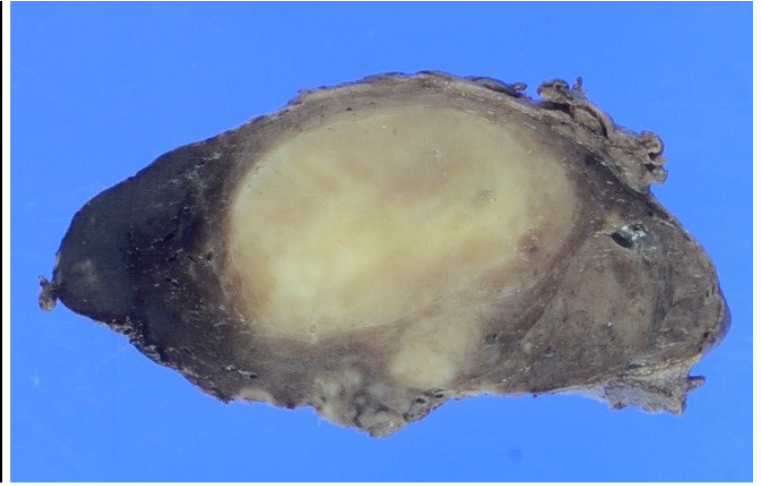
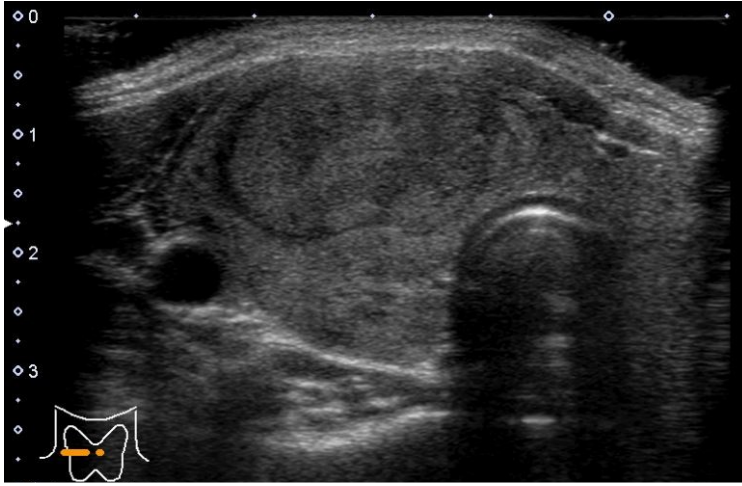
多核巨細胞



超音波：両葉に、圧痛部位と一致した境界不明瞭な低エコー域がみられるため炎症性病変を疑う症例である。

細胞診：背景に濾胞状構造を示す濾胞上皮細胞やコロイドがみられない。リンパ球、類上皮細胞、多核巨細胞などがみられる。

1-2. 慢性甲状腺炎



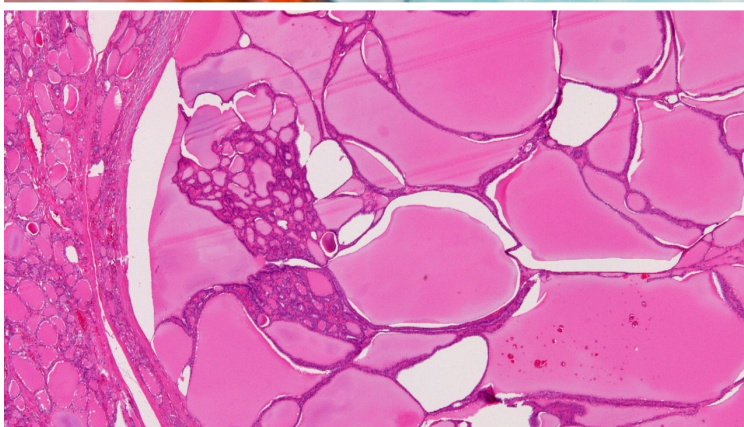
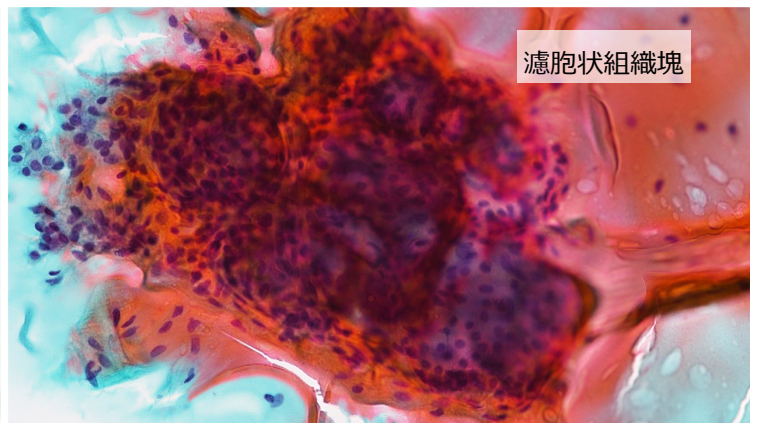
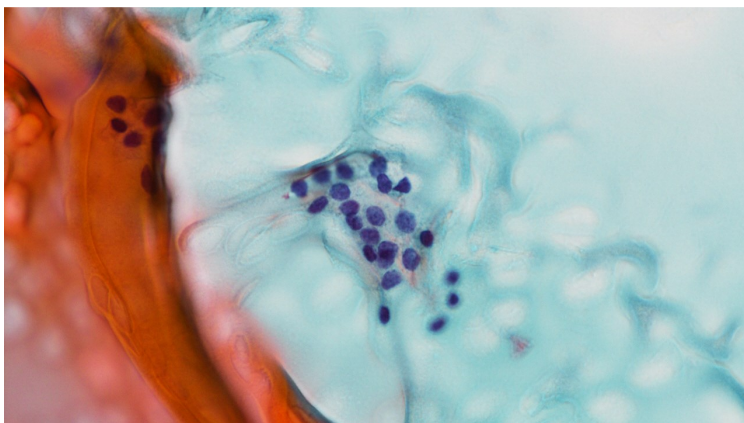
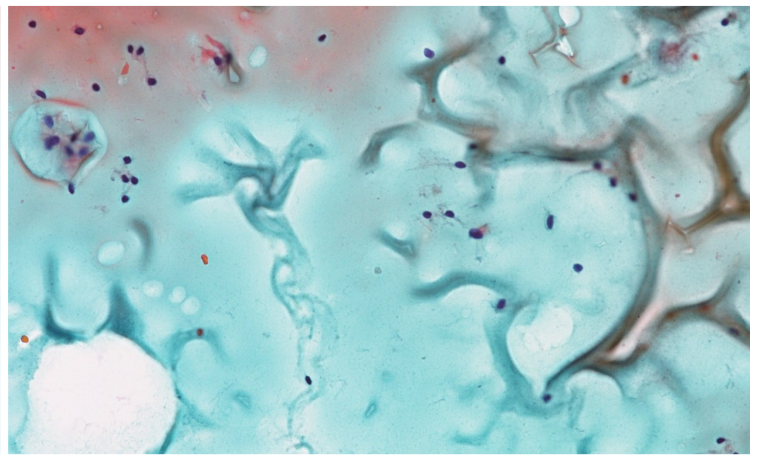
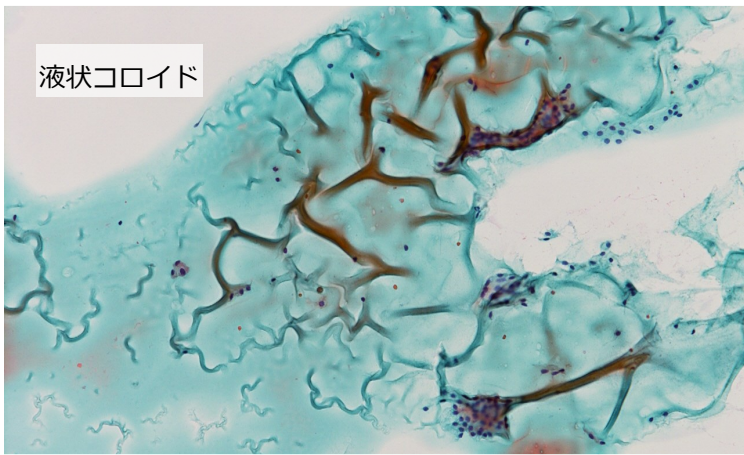
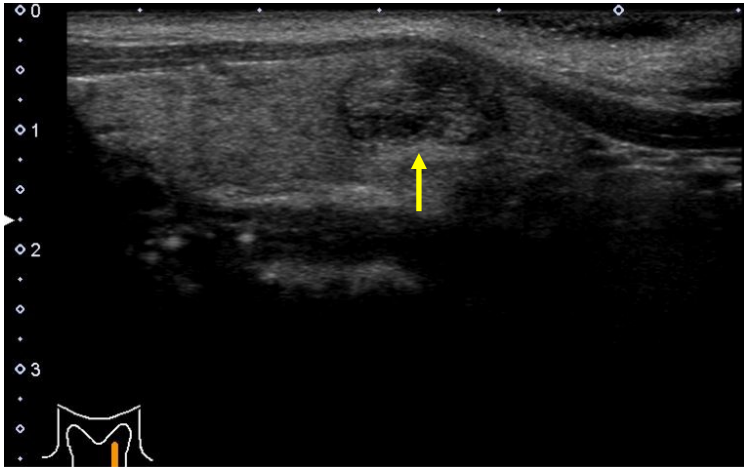
超音波：右葉に形状整、境界がやや不明瞭、内部等エコーの充実性結節がみられる。

肉眼：境界不明瞭な黄白色結節が多発している。

細胞診：背景にリンパ球がみられる。膨大細胞は小濾胞状・索状に出現し、集塊内にもリンパ球がみられる。核の大小不同があるが、N/C比は低く、核内細胞質封入体はない。

組織：境界不明瞭な結節性病変がみられる。結節は小型濾胞を形成する膨大細胞とリンパ球浸潤からなり、慢性甲状腺炎の組織像に一致する。

2. 腺腫様結節



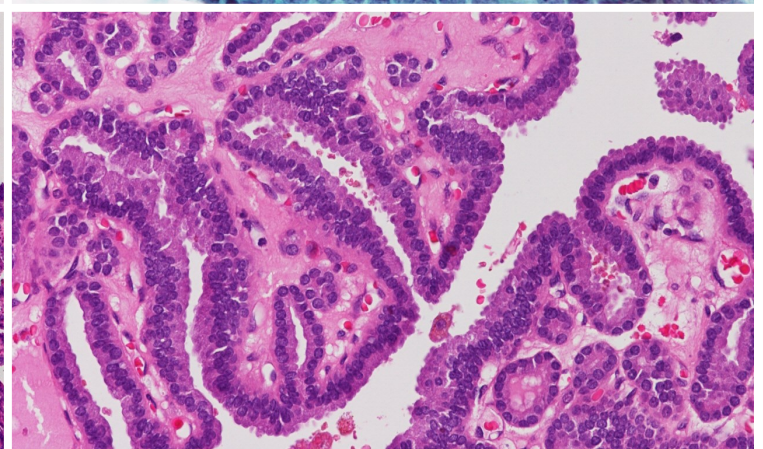
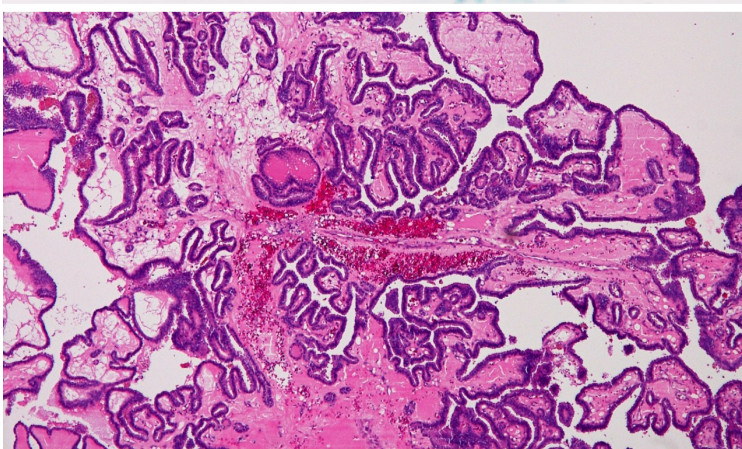
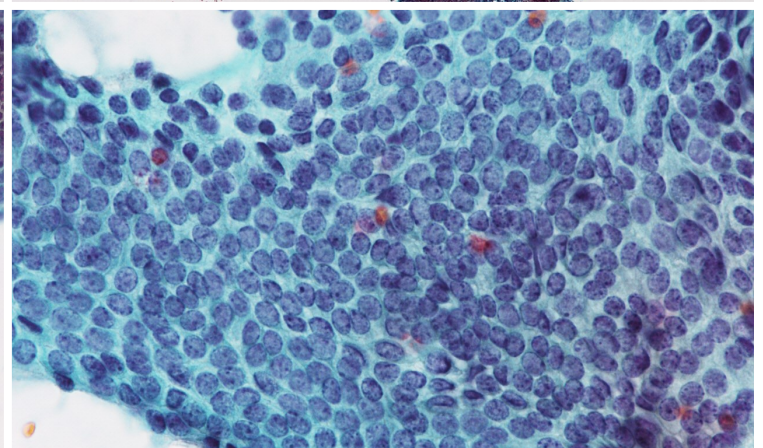
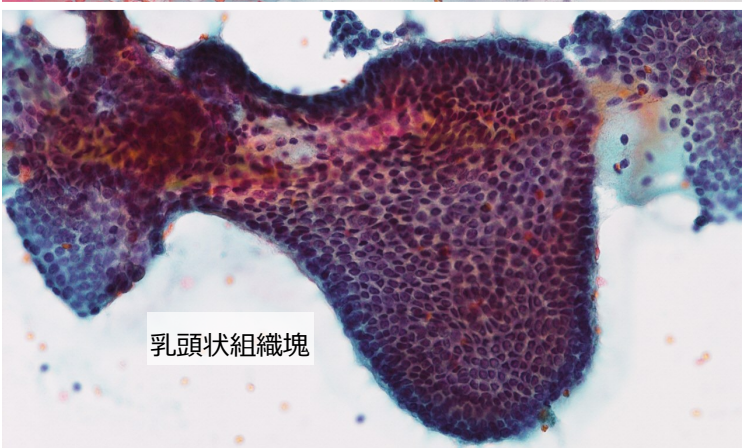
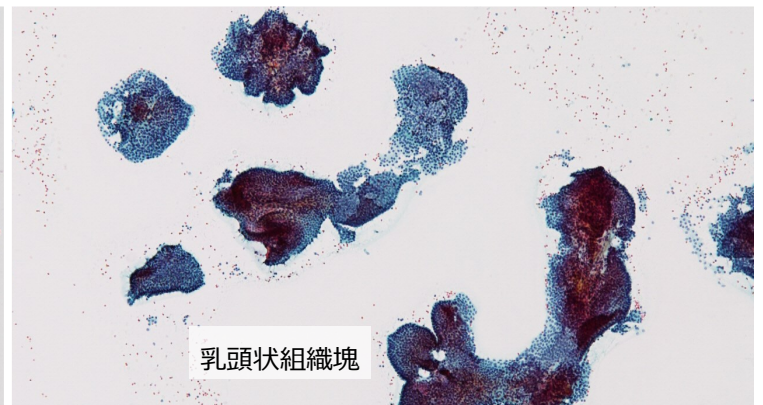
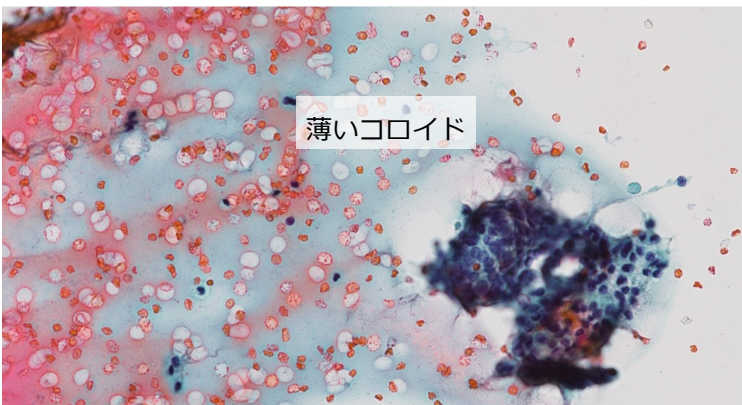
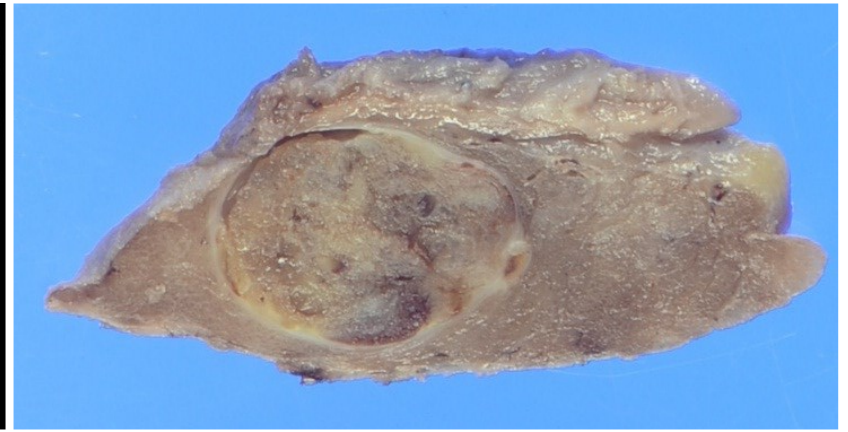
超音波：左葉に形状整、内部の一部に無エコーを伴う結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた結節性病変である。透明感のある剖面は、コロイドが豊富な病変であることを示唆する。上極側に近接した白色結節は、濾胞腺腫である。

細胞診：背景に多量のコロイドがみられる。濾胞上皮細胞は濾胞状、シート状に出現している。核は小型で、N/C比は低い。

組織：被膜に囲まれた結節である。大小不同の濾胞からなり、Sanderson polsterがみられる。

3. 腺腫様結節 乳頭状



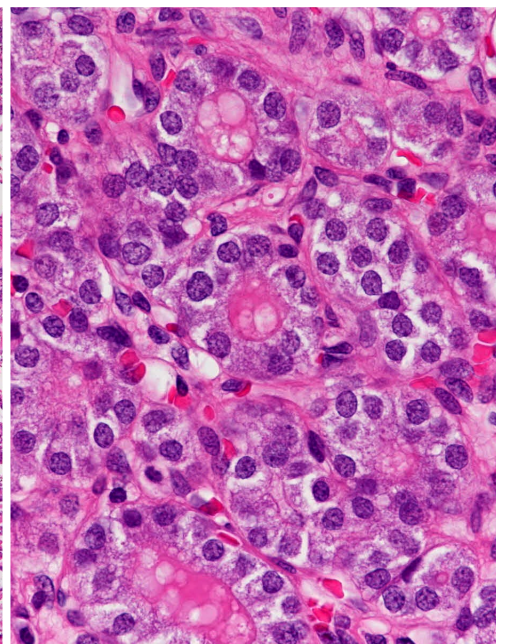
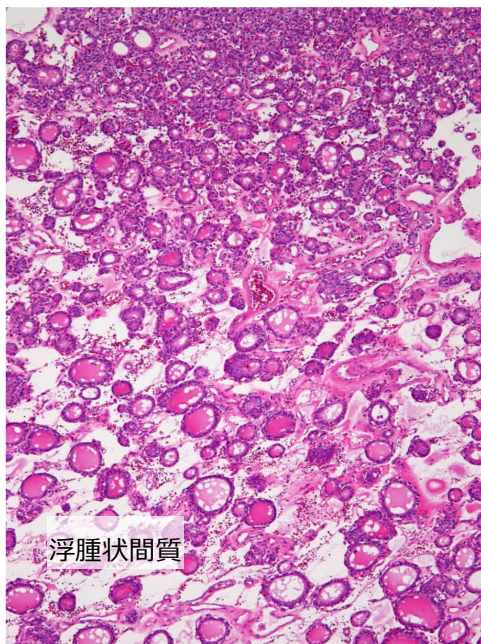
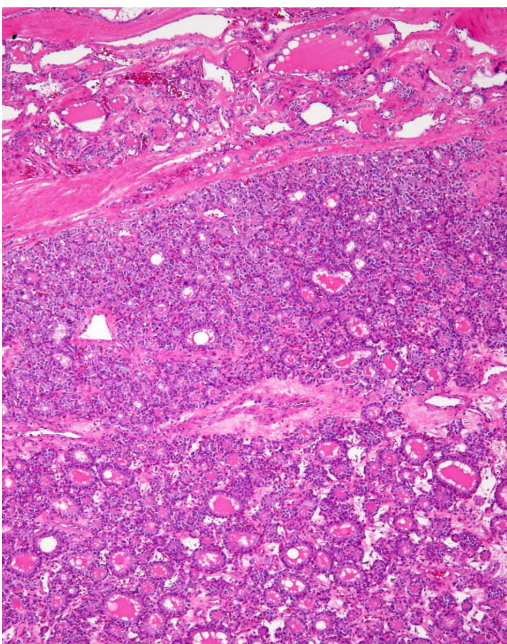
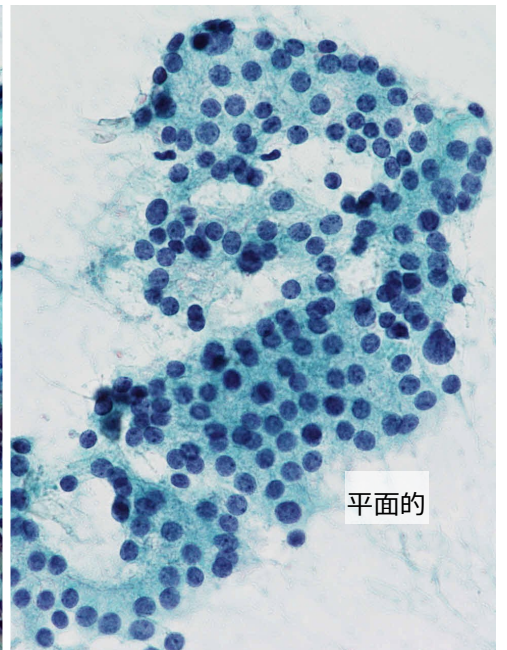
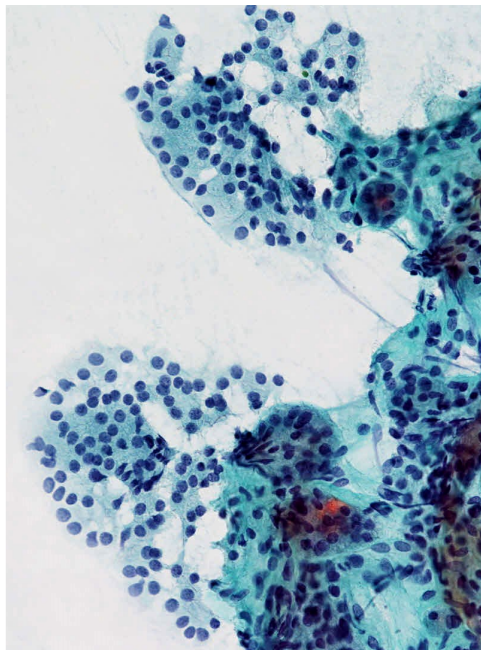
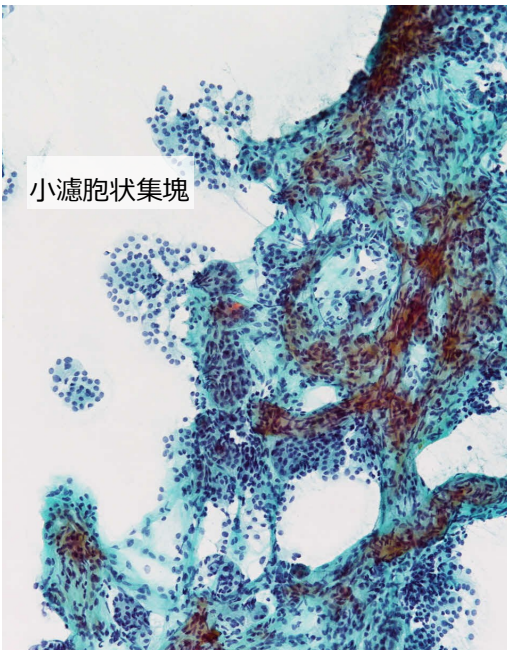
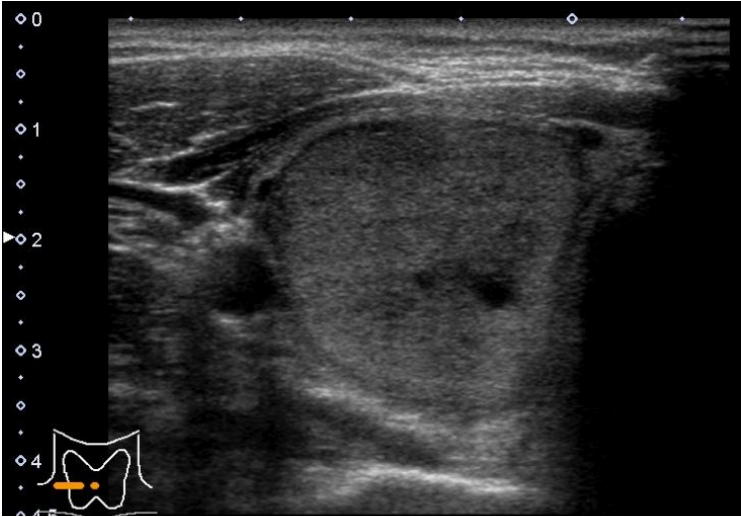
超音波： 峡部の上極寄りに、形状整で内部均質で等エコーの充実性結節がみられる。

肉眼： 被膜に囲まれた、黄白色調の結節である。

細胞診： 背景に薄いコロイドがみられる。濾胞上皮細胞は非常に結合性のよい乳頭状集塊として出現している。乳頭癌の核所見はみられない。

組織： 被膜に囲まれた嚢胞性病変で、濾胞上皮細胞は主として乳頭状に増殖している。核密度は高いが、それ以外の乳頭癌の核所見はみられない。

4. 濾胞腺腫



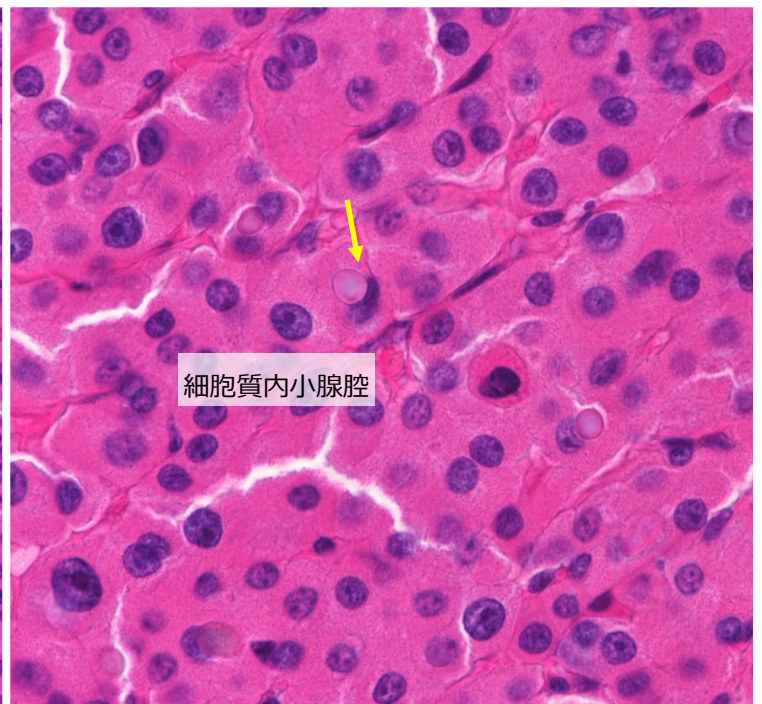
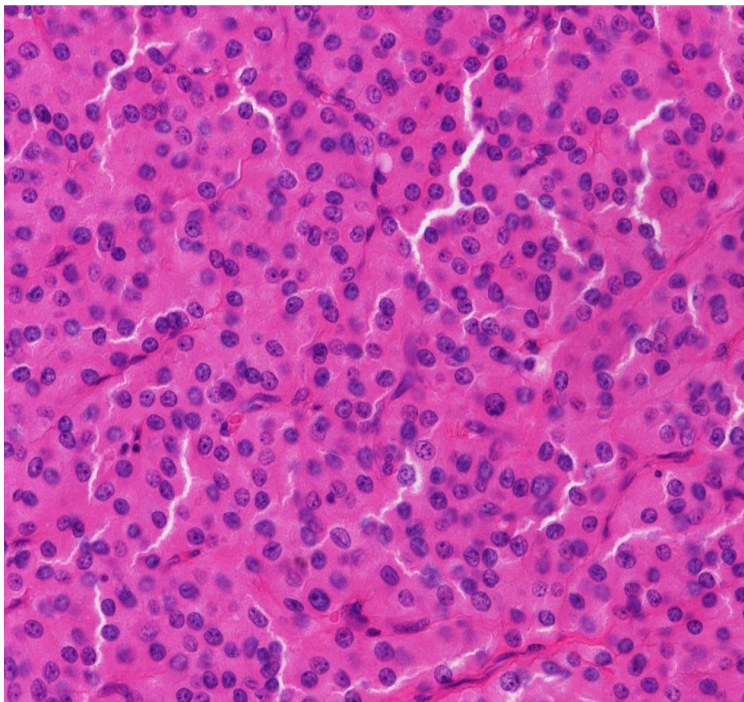
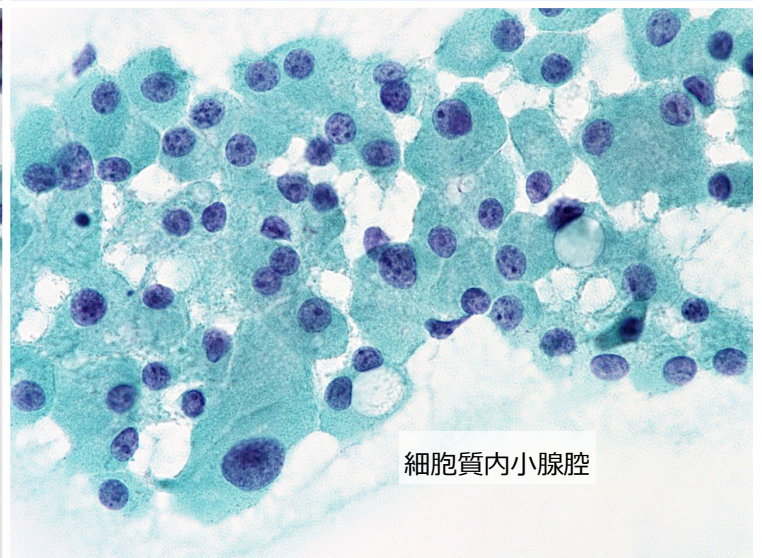
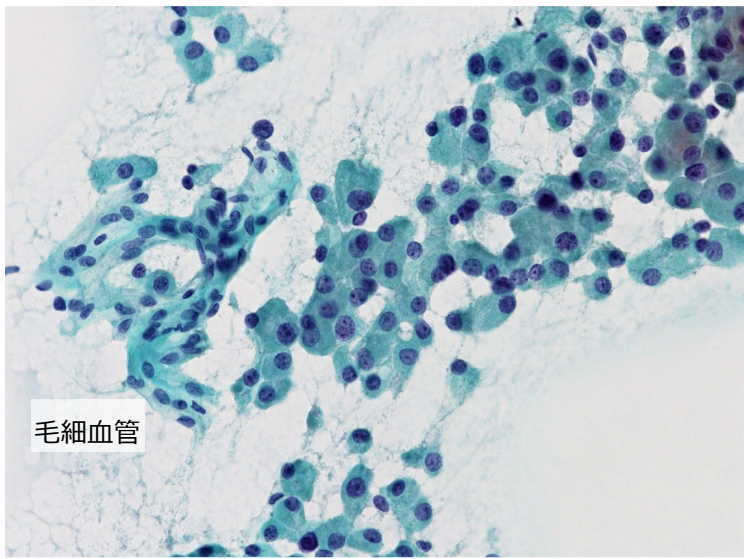
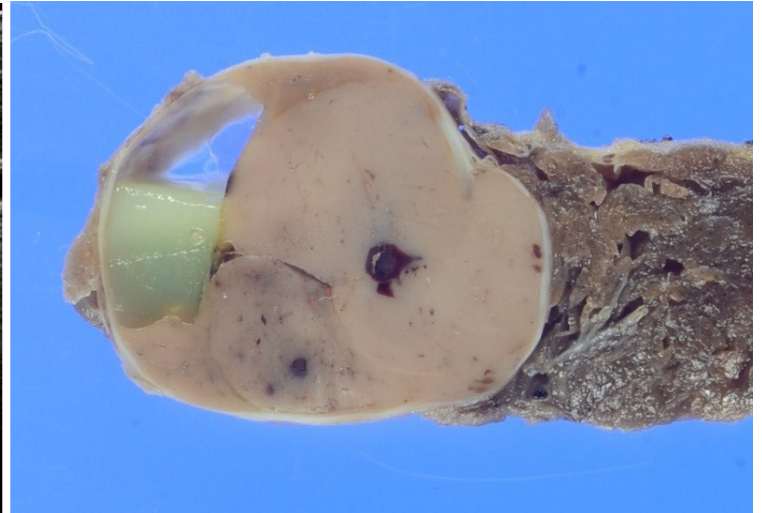
超音波：右葉に形状整、境界明瞭、内部均質で等エコーの充実性結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた充実性結節である。

細胞診：小濾胞状集塊がみられ、構成細胞や濾胞の大きさが均一である。濾胞状集塊は比較的平面的である。

組織：小型から中型の濾胞からなる濾胞腺腫で、部分的に間質の浮腫がみられる。

5. 膨大細胞腺腫



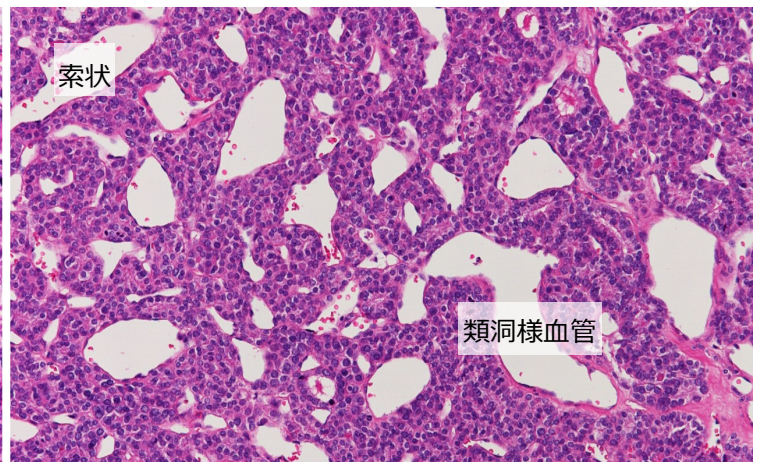
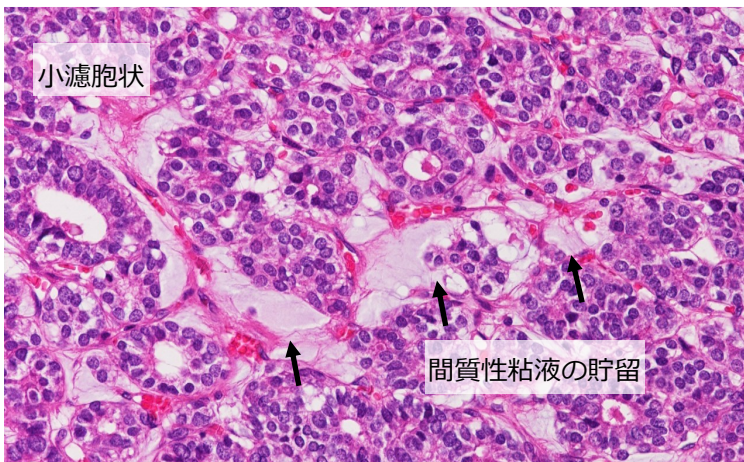
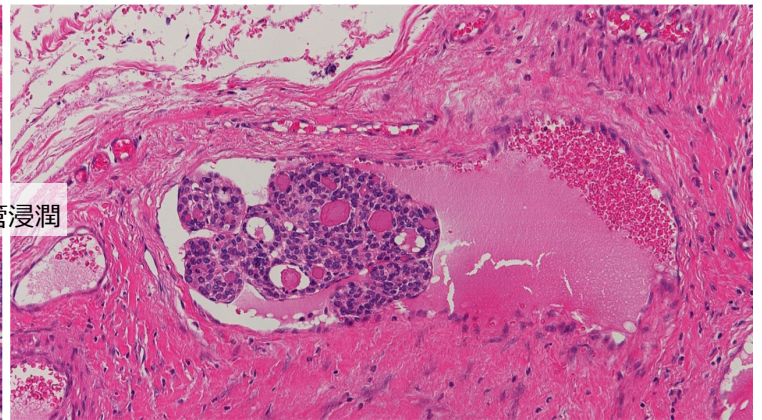
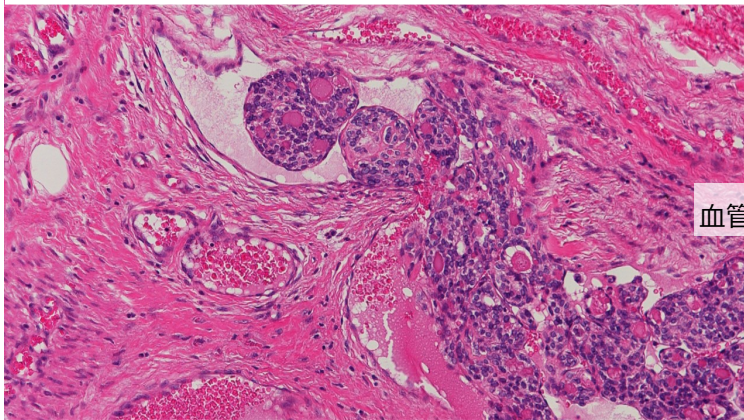
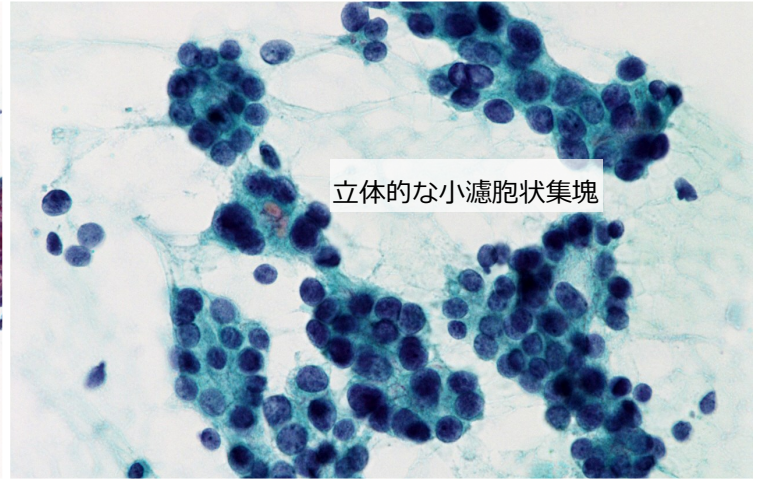
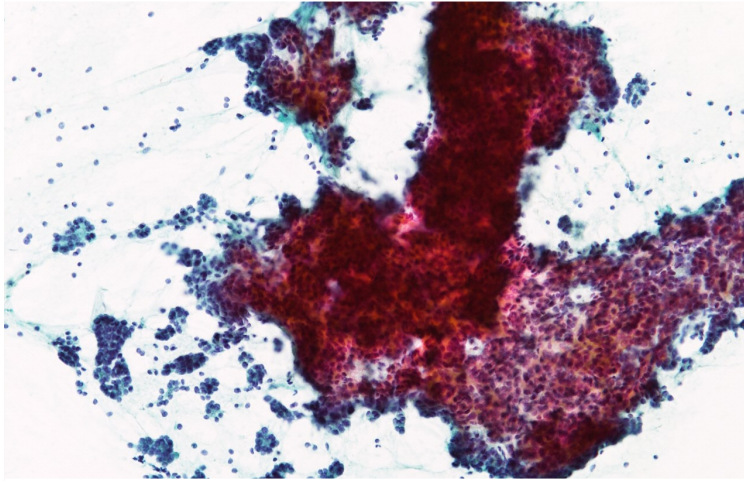
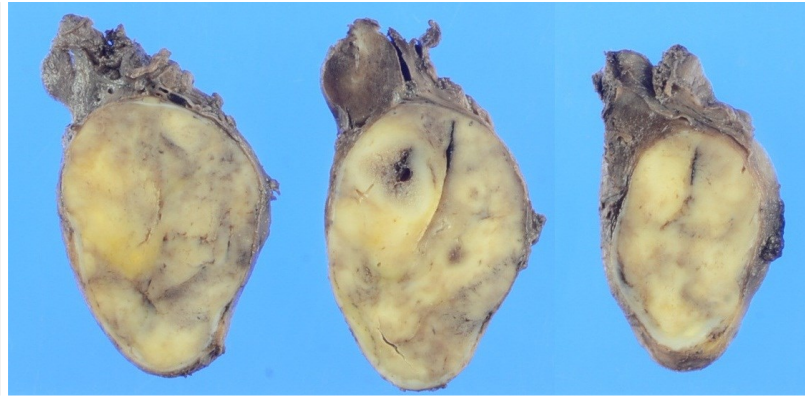
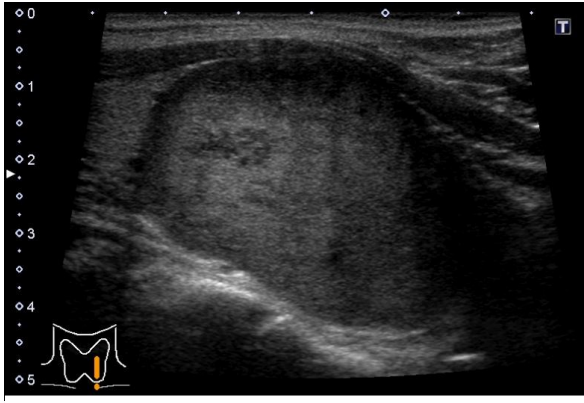
超音波：左葉に形状整、境界明瞭、内部やや低エコーの混合性の結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれ、一部に嚢胞化を伴う充実性結節である。断面は赤褐色調を示す。

細胞診：背景には毛細血管がみられる。膨大細胞（多稜形、広くて顆粒状の厚い細胞質、偏在核）が弱い結合性を示して出現している。二核、細胞質内小腺腔が目立つ。

組織：膨大細胞が索状、小濾胞状に増殖している。被膜浸潤はみられない。細胞質内小腺腔（矢印）がみられる。

6. 濾胞癌（血管浸潤）



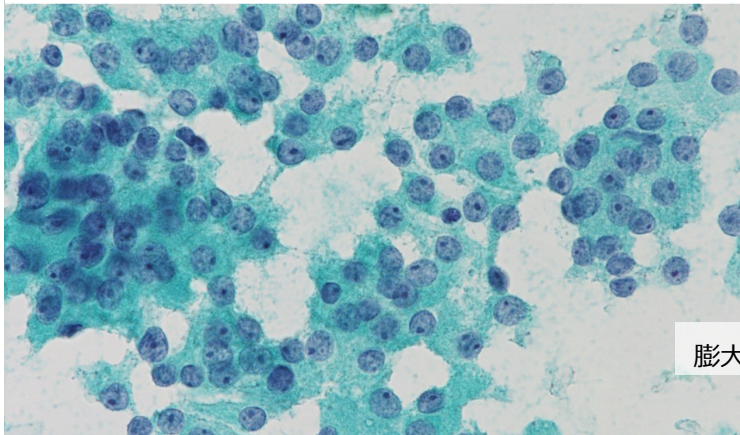
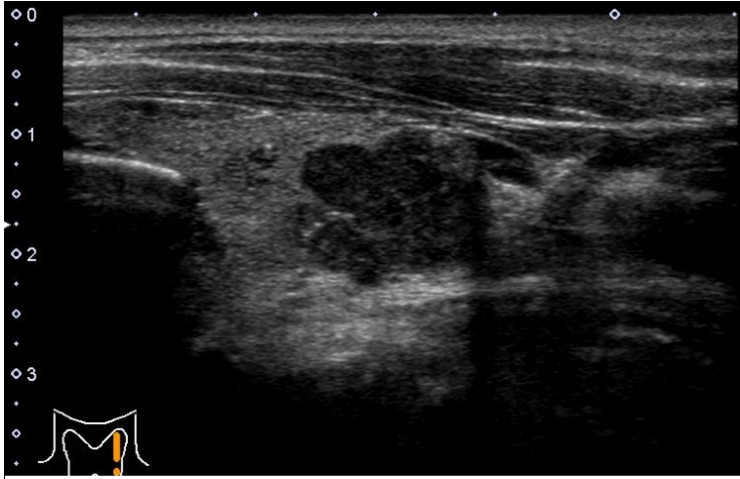
超音波：左葉に形状整、境界明瞭、内部均質でやや低エコー、後方エコーの増強を示す充実性結節がみられる。

肉眼：下極に黄色充実性結節がみられる。肉眼的に被膜浸潤・血管浸潤は認識できない。

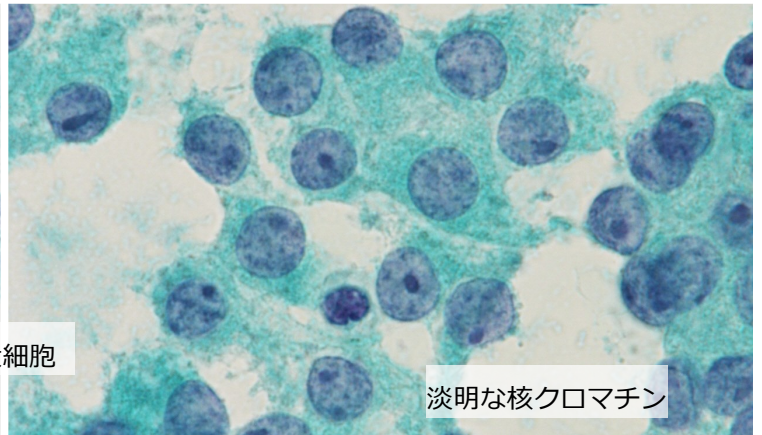
細胞診：立体的な小濾胞状集塊で出現している。核は円形で、核クロマチンは濃い。

組織：血管浸潤がみられる。小濾胞状、索状パターンを示す。間質には間質性粘液の貯留（矢印）や類洞様血管がみられる。

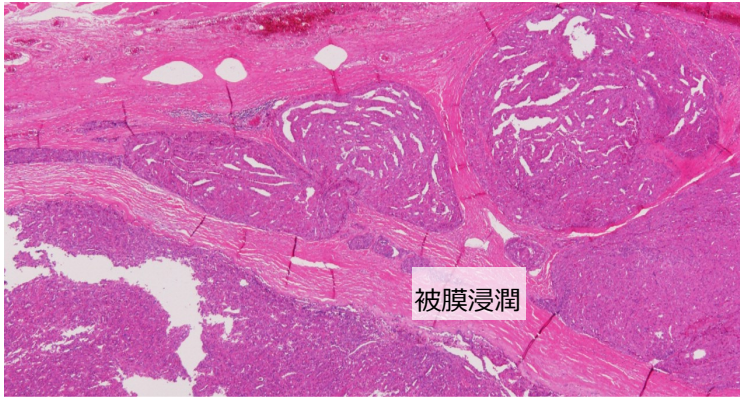
7. 膨大細胞癌



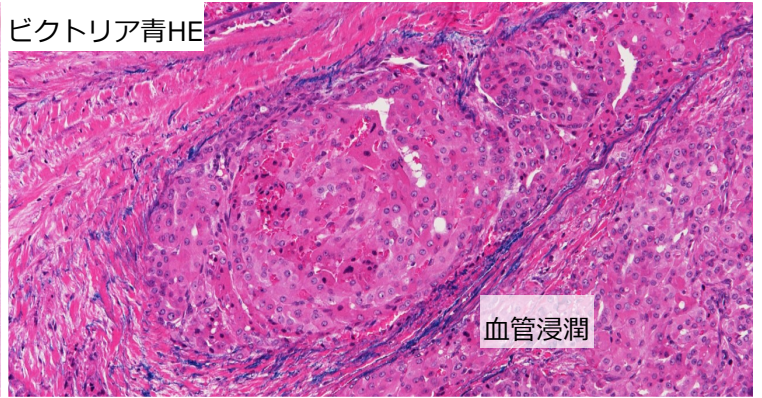
膨大細胞



淡明な核クロマチン

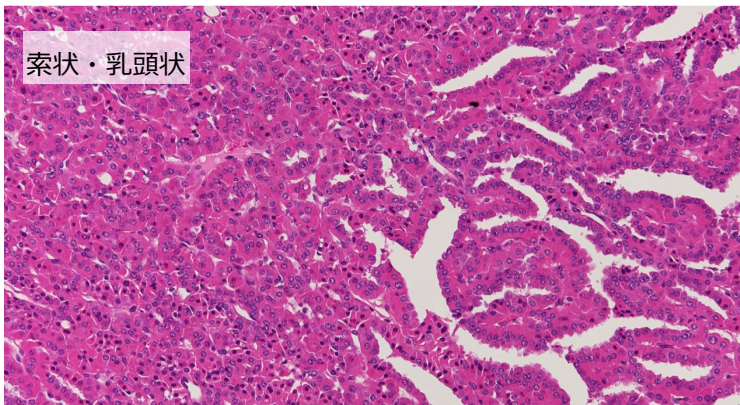


被膜浸潤

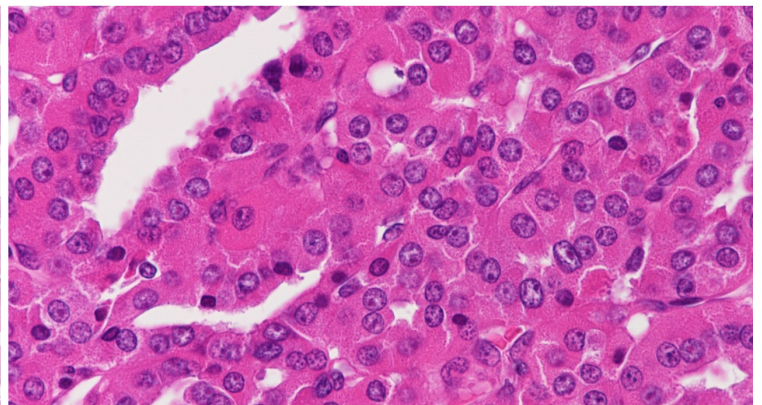


ビクトリア青HE

血管浸潤



索状・乳頭状



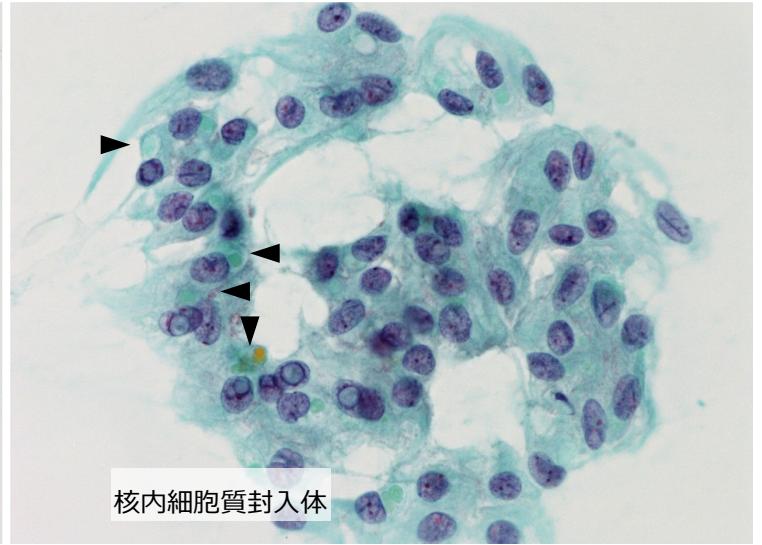
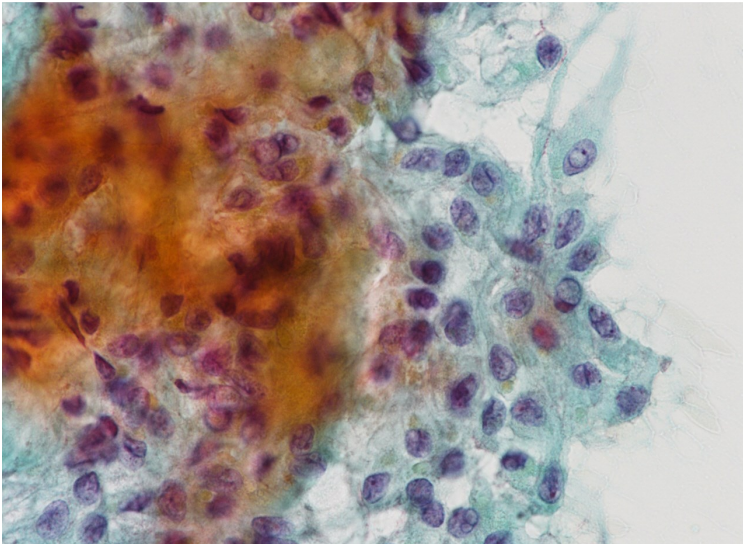
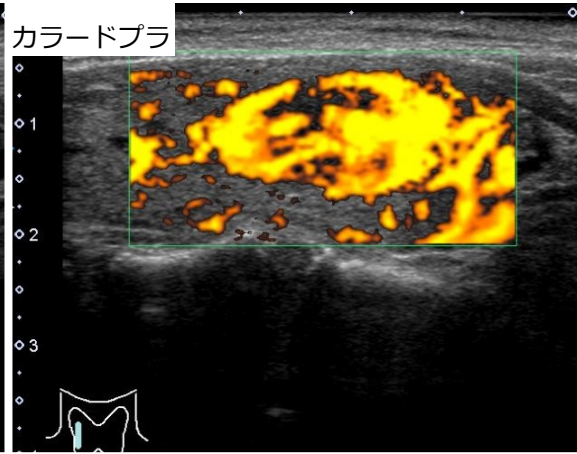
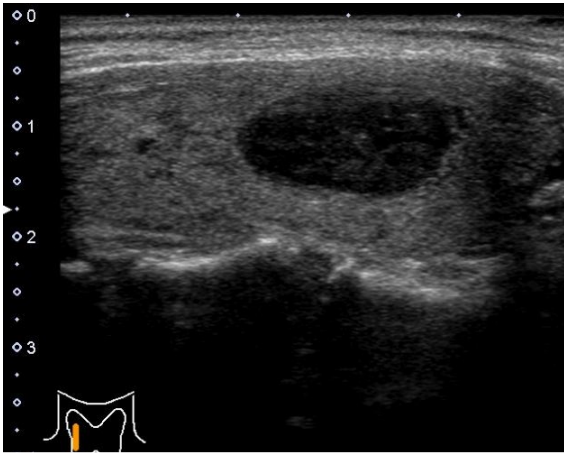
超音波：左葉に複数の突出部をもつ充実性結節がみられる。境界明瞭で、内部は均質・低エコー、後方エコー増強を示す。

肉眼：分葉状の結節である。断面は赤褐色調を呈する。

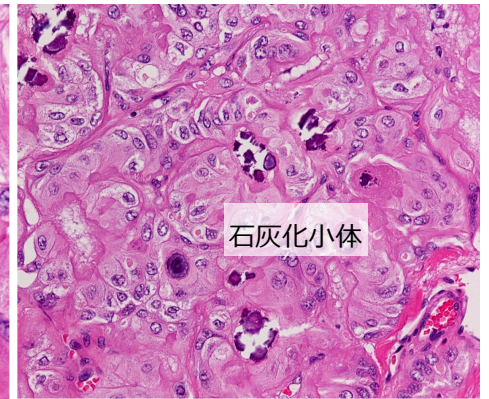
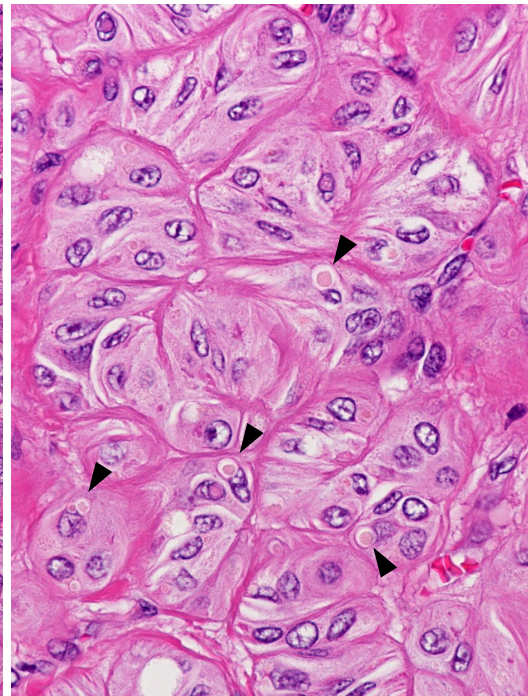
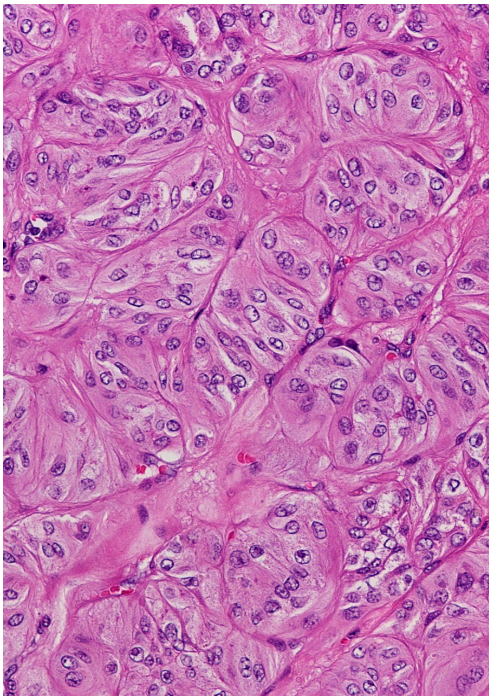
細胞診：結合性の乏しい膨大細胞が出現している。定型的な膨大細胞腫瘍と比べて小型で、核クロマチンが明るく、乳頭癌との鑑別が難しい。

組織：被膜浸潤および血管浸潤（ビクトリア青HE染色で確認）により、分葉状の結節としてみられる。膨大細胞が小濾胞状、索状、乳頭状に増殖している。

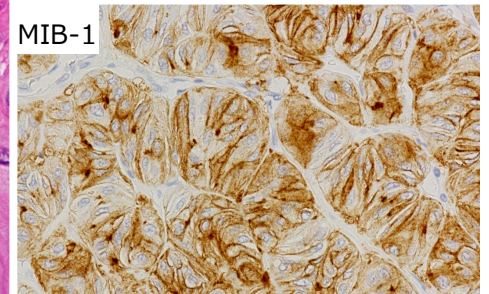
8. 硝子化索状腫瘍



核内細胞質封入体



石灰化小体



MIB-1

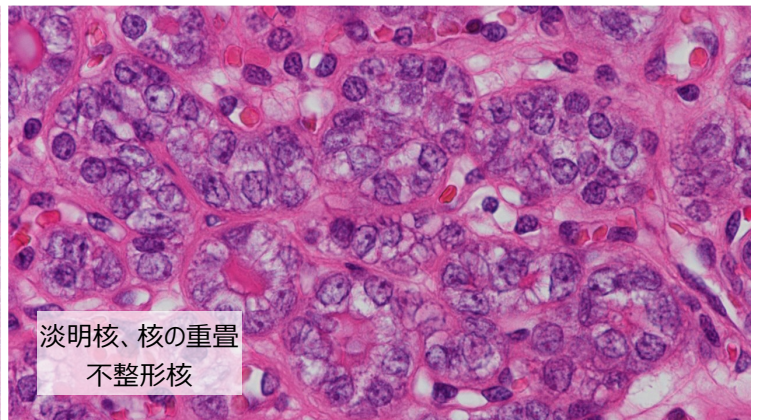
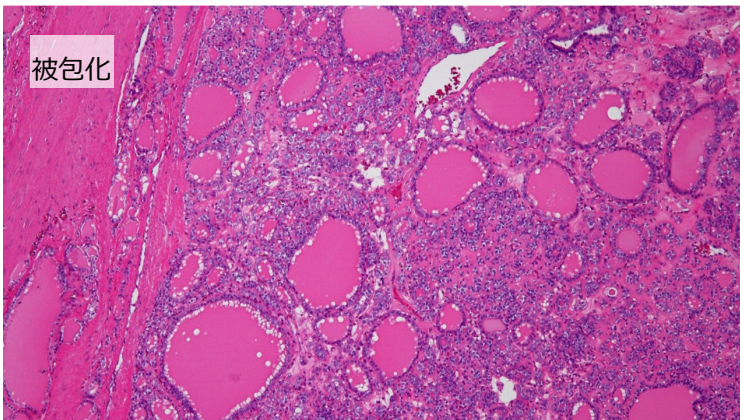
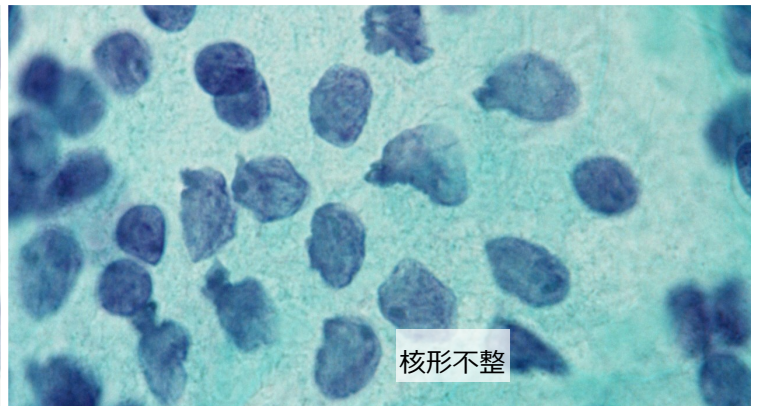
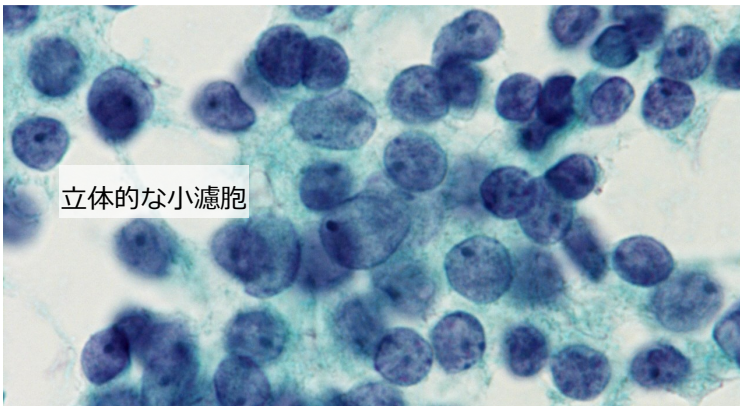
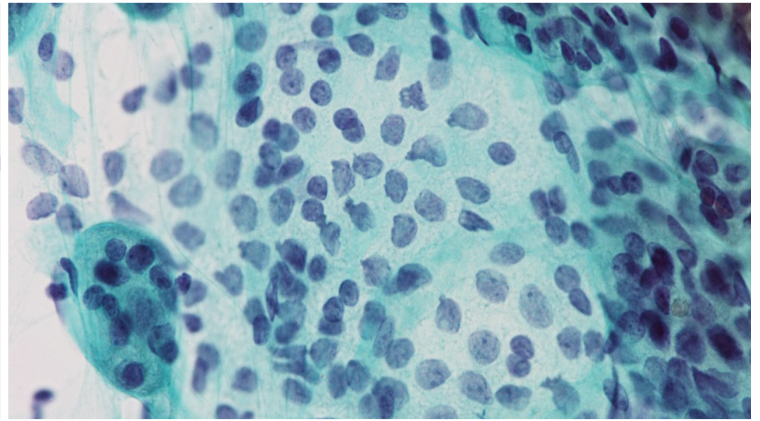
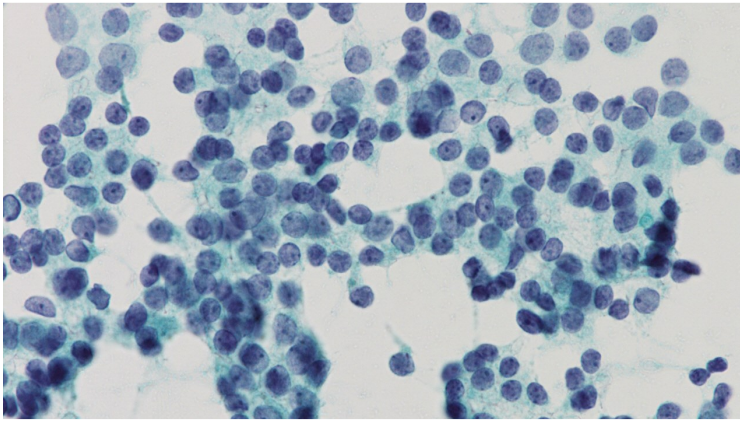
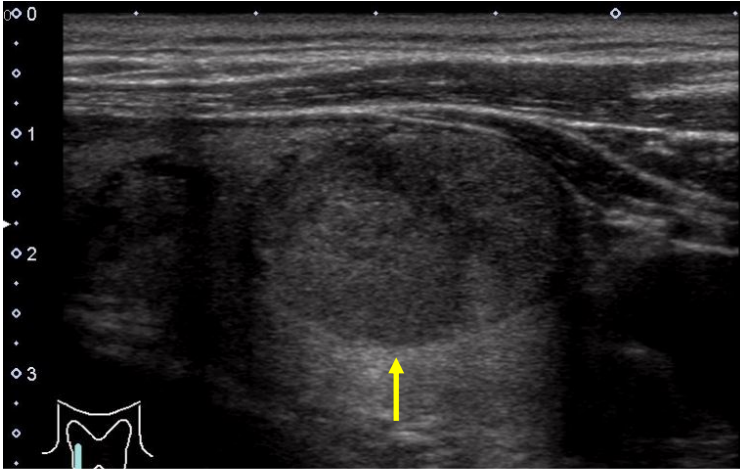
超音波：右葉に形状整、境界明瞭、内部均質・低エコー・血流豊富（tumor inferno）を示す充実性結節がみられる。

肉眼：境界明瞭な黄色調の充実性結節である。

細胞診：腫瘍細胞が間質成分が一塊として出現している、核内細胞質封入体が目立つ、細胞質の染色性が薄い、細胞境界が不明瞭、などの場合は硝子化索状腫瘍を考える。黄色体（矢頭）がみられる。

組織：腫瘍細胞は索状に増殖し、核の長軸は索状方向に対して直角に配列する傾向がある。腫瘍胞巣周囲および胞巣内（細胞間）に基底膜物質が観察される。核内細胞質封入体や黄色体（矢頭）がみられる。腫瘍胞巣内に砂粒体に類似した石灰化小体がみられる。免疫染色では、MIB-1が細胞膜に陽性である。

9. NIFTP



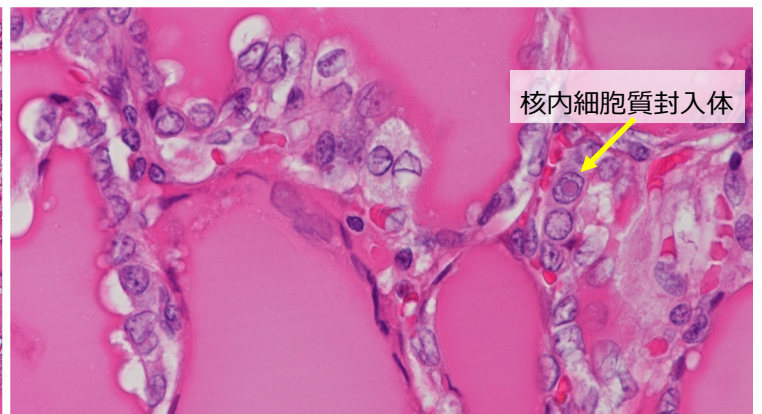
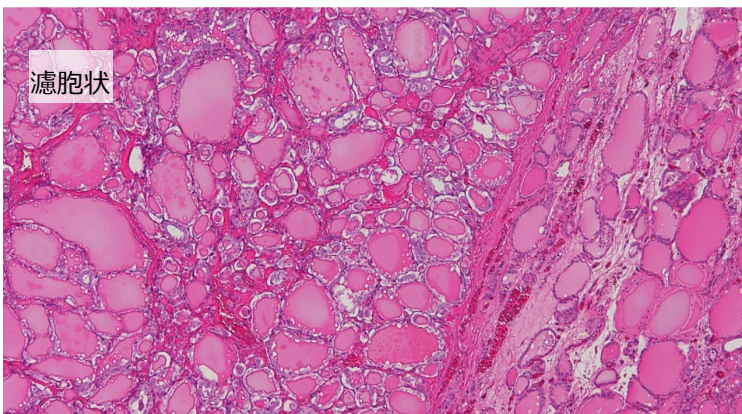
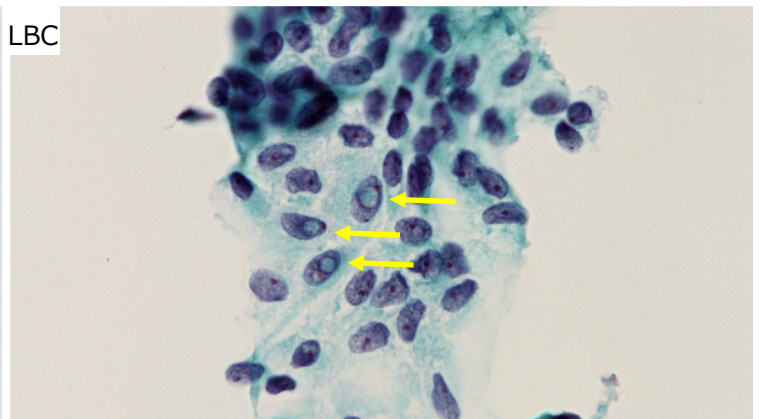
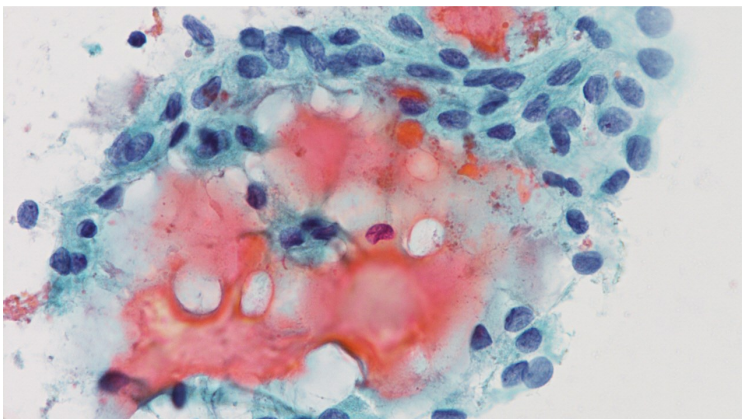
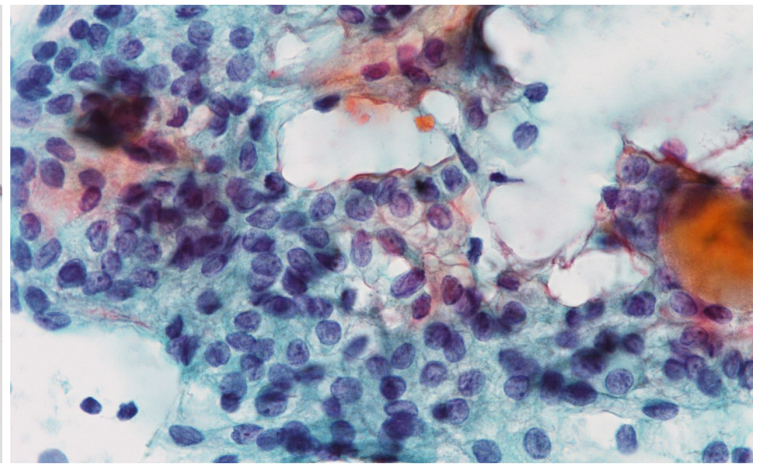
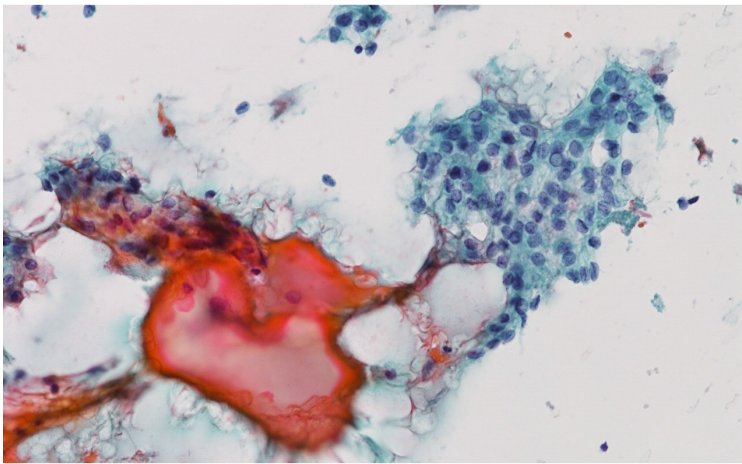
超音波：右葉に形状整、境界明瞭、内部均質でやや低エコー、後方エコーの増強を示す充実性結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた充実性結節である（矢印）。上極の結節は腺腫様結節であった。

細胞診：穿刺吸引細胞診は矢印の結節に対して施行された。立体的な小濾胞状パターンを示す。核はやや腫大し、クロマチンは微細である。核形不整が一部にみられる。

組織：被膜に囲まれた、濾胞性病変である。淡明核、核の重畳、不整形核などがあり、乳頭癌の核所見が存在するが、定型的ではない。

10. 乳頭癌 被包化 濾胞型



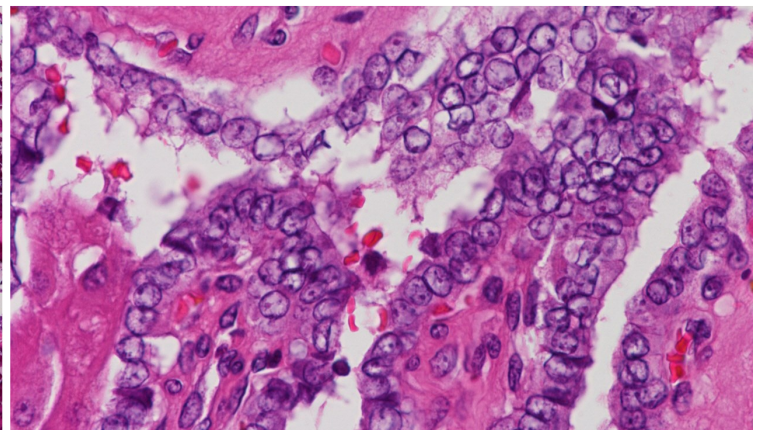
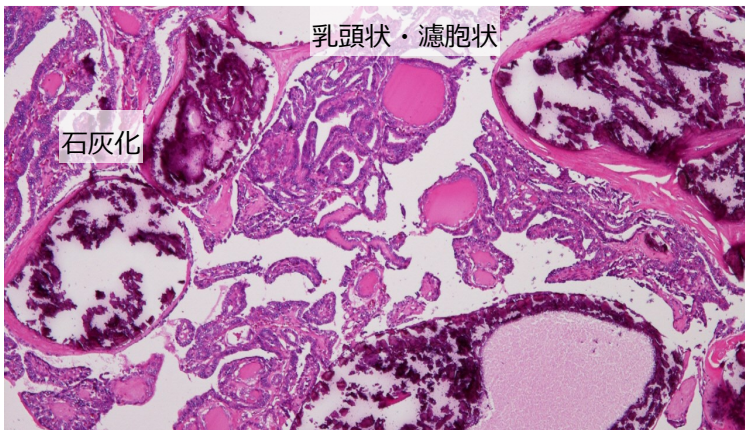
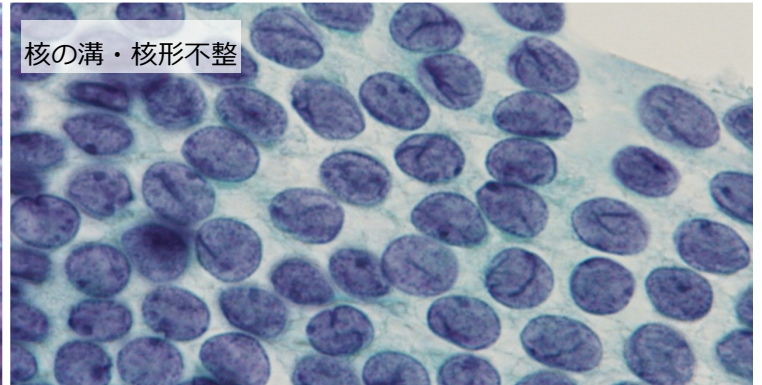
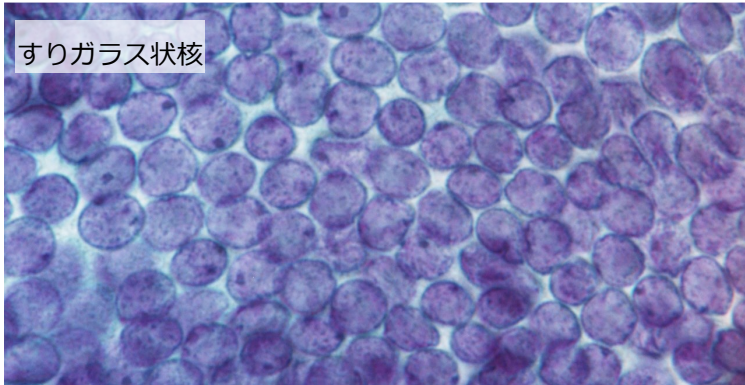
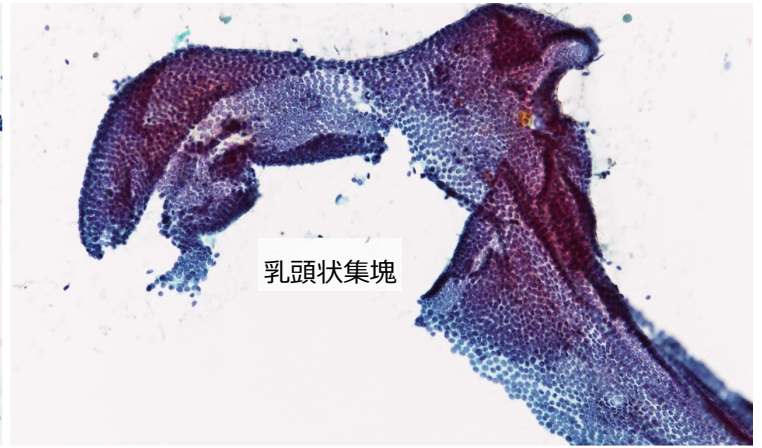
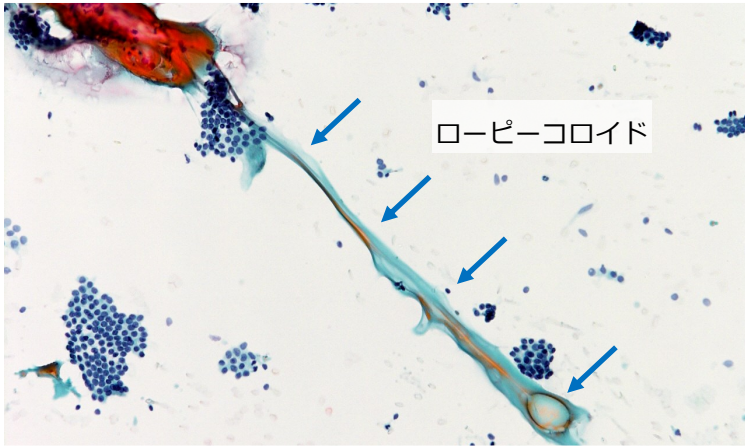
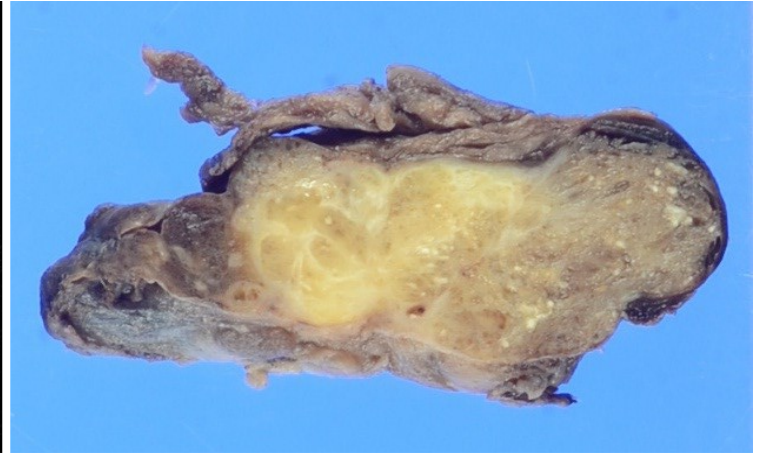
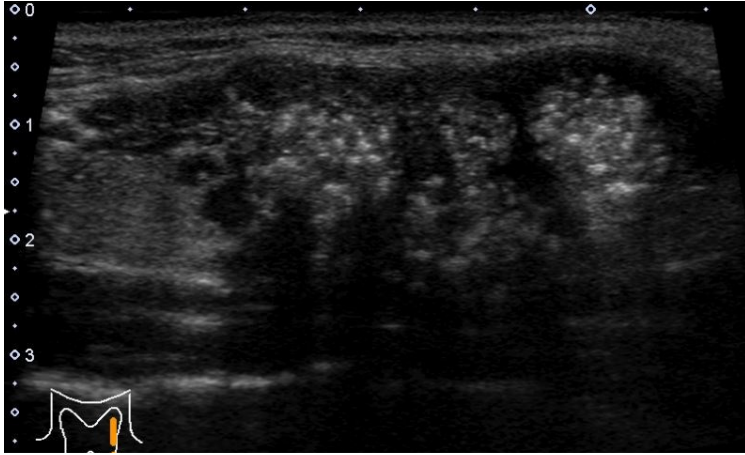
超音波：左葉に形状整、境界不明瞭、内部均質で等エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた褐色調の充実性結節である。

細胞診：中型のコロイド塊の周囲に濾胞状集塊が付着するように出現している。核内細胞質封入体（矢印）、核形不整、核の溝、紡錘形核などがみられる。

組織：被膜に囲まれ、濾胞状パターンを示す腫瘍で、定型的な乳頭癌の核所見がみられる。

11. 乳頭癌



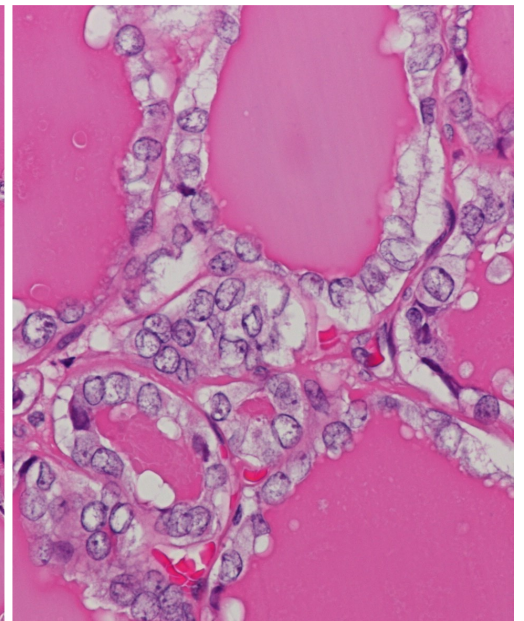
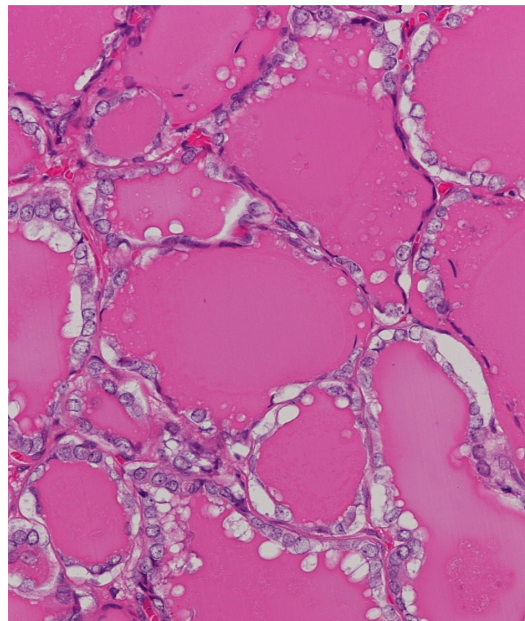
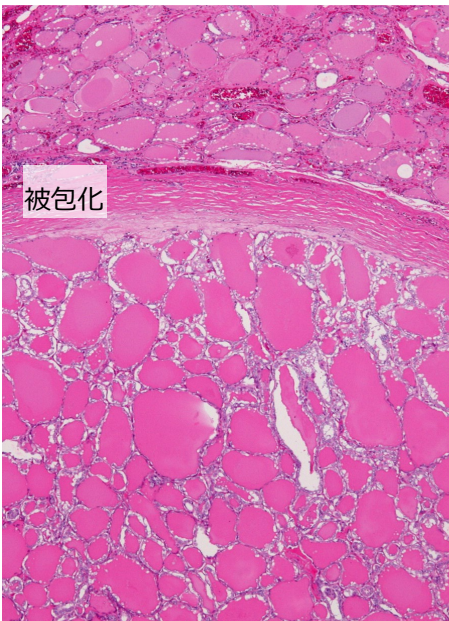
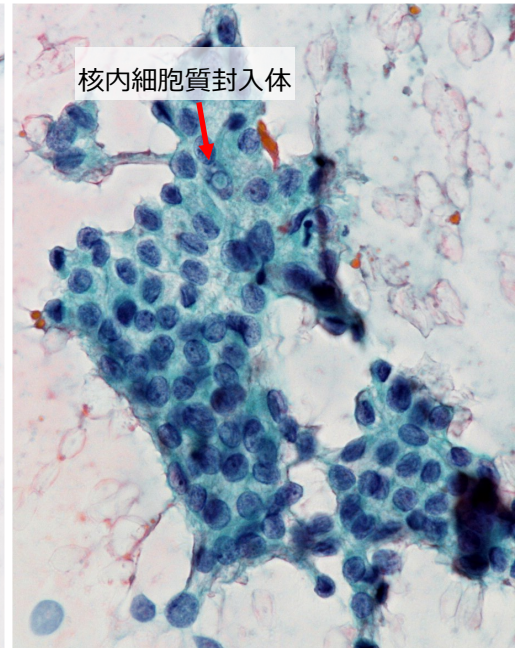
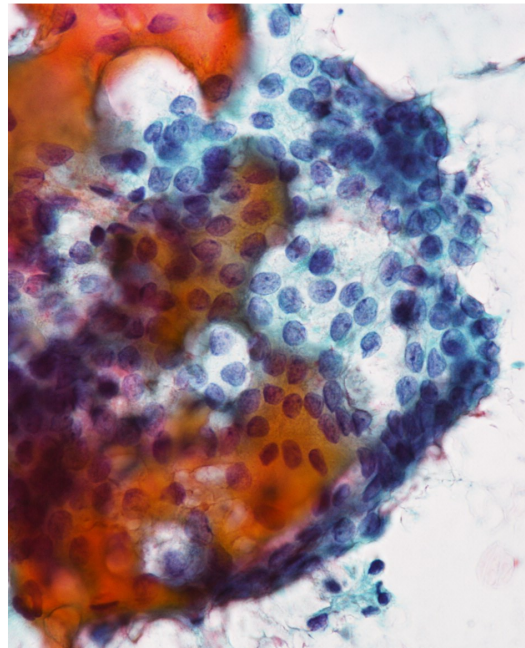
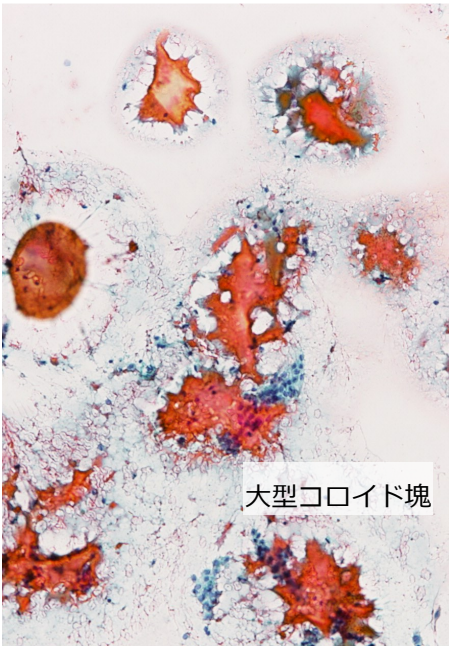
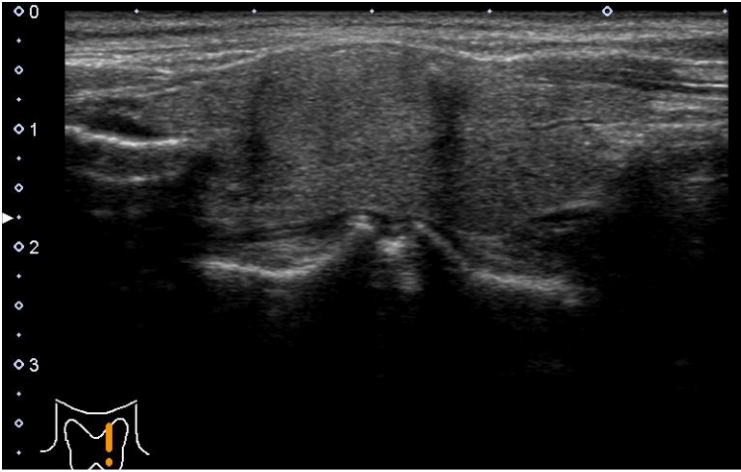
超音波：左葉に形状不整、境界不明瞭・粗雑、内部不均質・低エコー・微細多発高エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：石灰化を伴う黄色調結節がみられる。結節は浸潤性増殖を示す。

細胞診：背景にローピーコロイド（矢印）がみられる。乳頭状集塊が主体である。核クロマチンはすりガラス状で、核の溝や核形不整がある。

組織：増殖パターンは乳頭状・濾胞状で、間質には石灰化（砂粒体ではない）が目立つ。乳頭癌に特徴的な核所見（すりガラス状核、核の重畳、核の溝、核形不整）がみられる。

12. 乳頭癌 被包化 大濾胞型



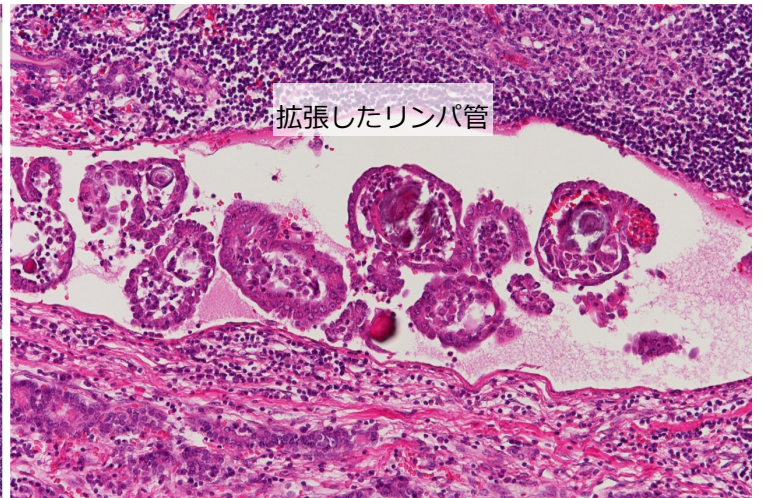
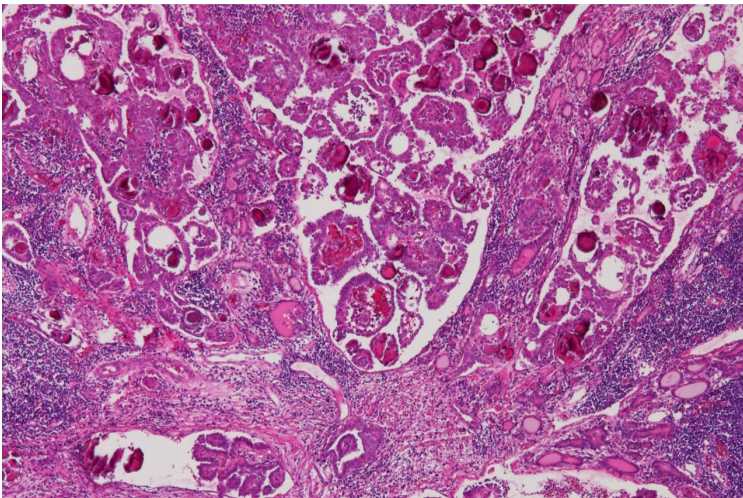
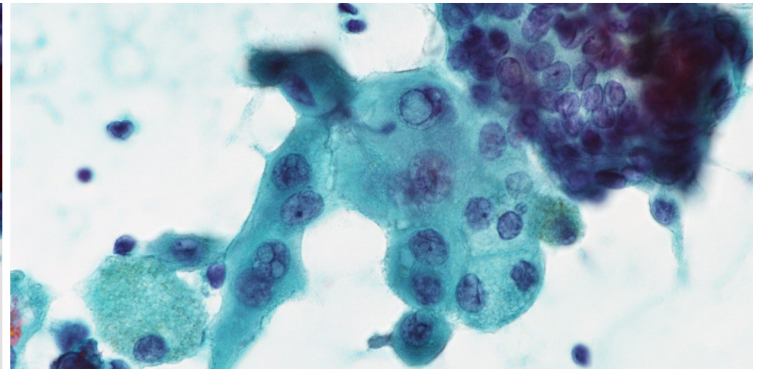
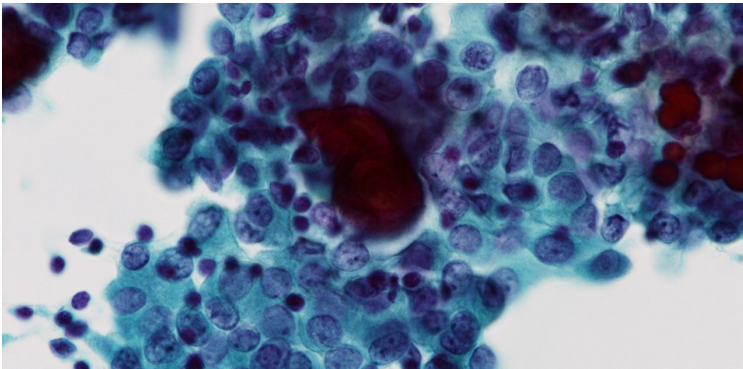
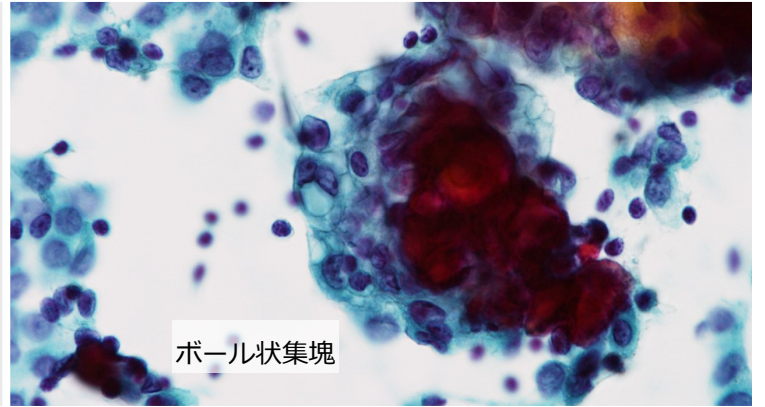
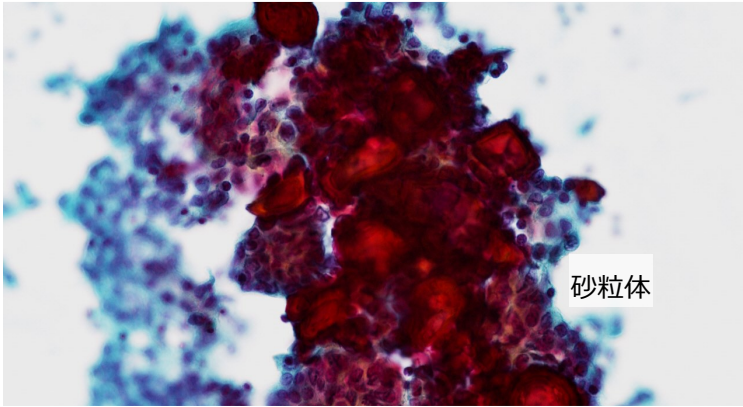
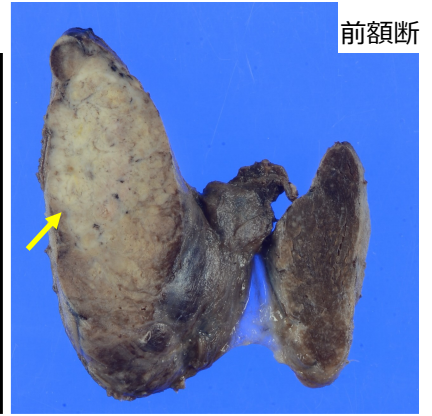
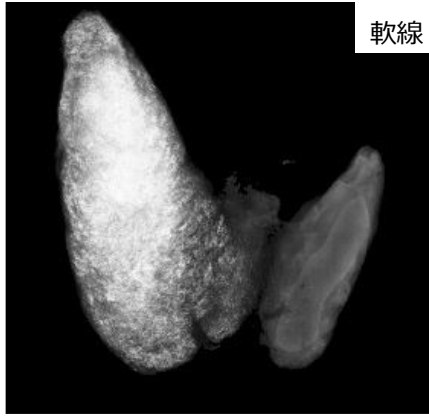
超音波：左葉上極に形状整、境界やや不明瞭、内部均質・等エコー、辺縁部に一部高エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた充実性結節である。断面は褐色調を呈する。

細胞診：大型のコロイド塊が目立ち、弱拡大では腺腫様結節のようにみえる。核腫大、核形不整、核内細胞質封入体、核の溝などの乳頭癌の所見がみられる。

組織：周囲の正常甲状腺の濾胞と比べて、濾胞が大きく、コロイドが濃く染まっている。被膜に囲まれているので、被包化乳頭でもある。周囲に微小癌（通常型乳頭癌）がみられる。

13. 乳頭癌 びまん性硬化型



超音波：腫大した右葉と峡部に内部微細多発高エコーを示す充実性病変がみられる。明らかな結節はみられない。

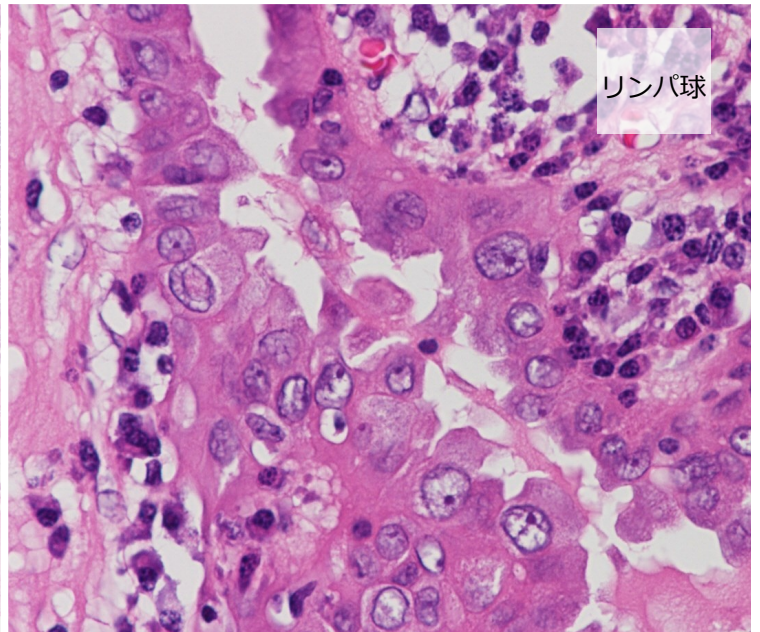
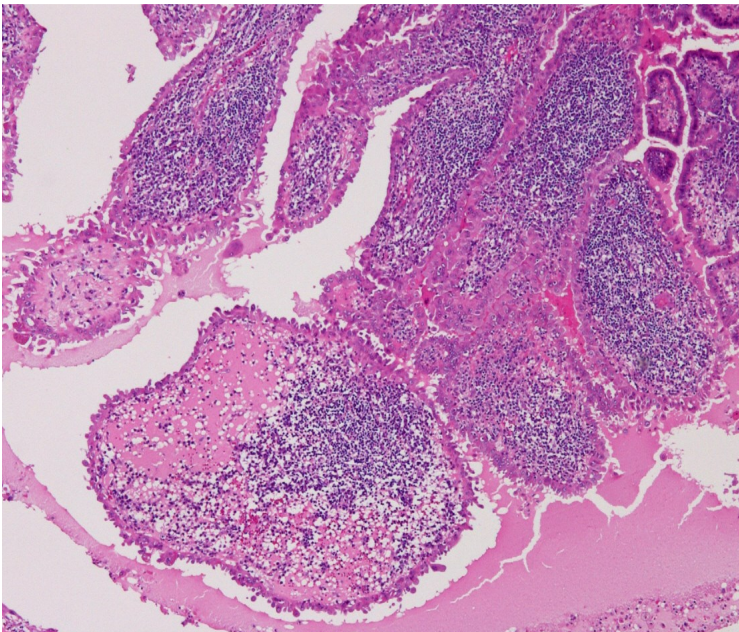
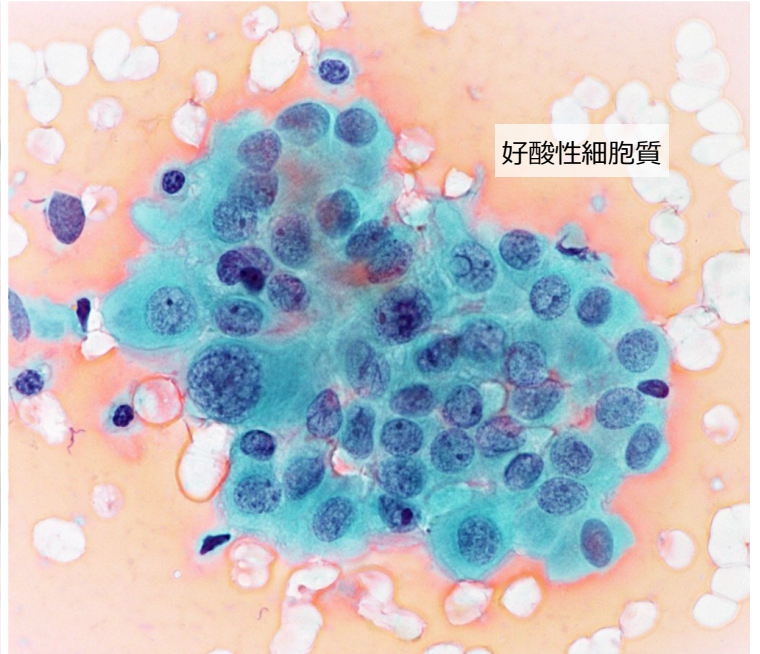
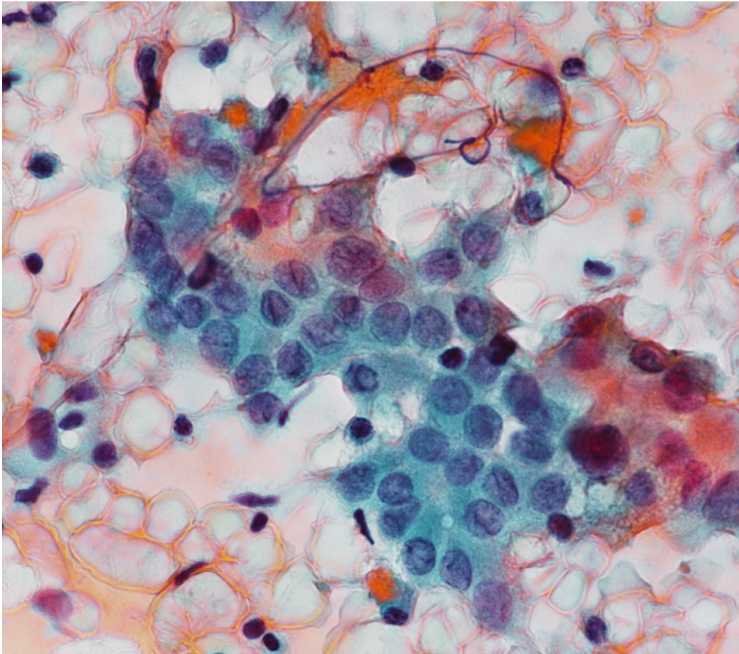
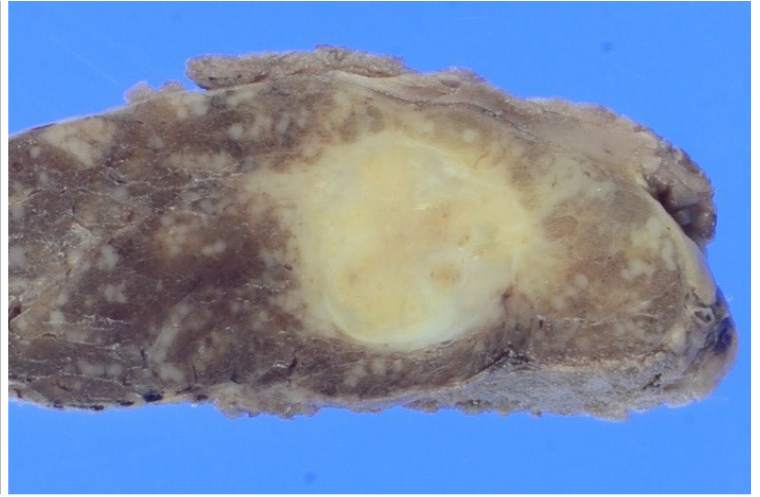
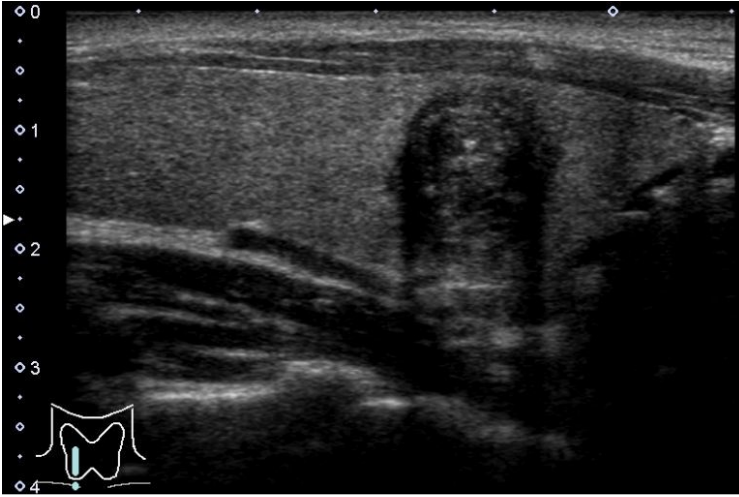
軟線：甲状腺右葉全体に、石灰化に似た微細な高濃度陰影が散在性に分布し、多発している。

肉眼：右葉全体が白色調を示しており、一部に、境界不明瞭な結節性病変（矢印）がみられる。

細胞診：背景に多数のリンパ球や砂粒体がみられる。腫瘍細胞は通常よりも大型で、ボール状に出現している。ボール状集塊内にもリンパ球や砂粒体が観察される。

組織：腫瘍細胞の多くは拡張したリンパ管内に浮遊するように存在している。砂粒体が非常に多い。この症例では扁平上皮化生は目立たない。背景には慢性甲状腺炎がみられる。

14. 乳頭癌 ワルチン腫瘍様



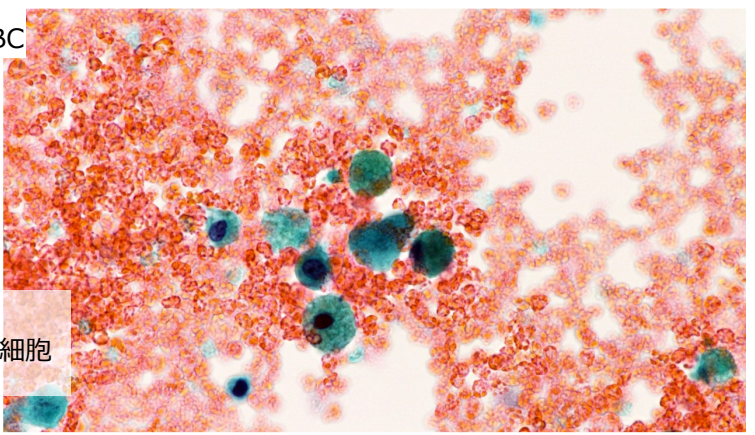
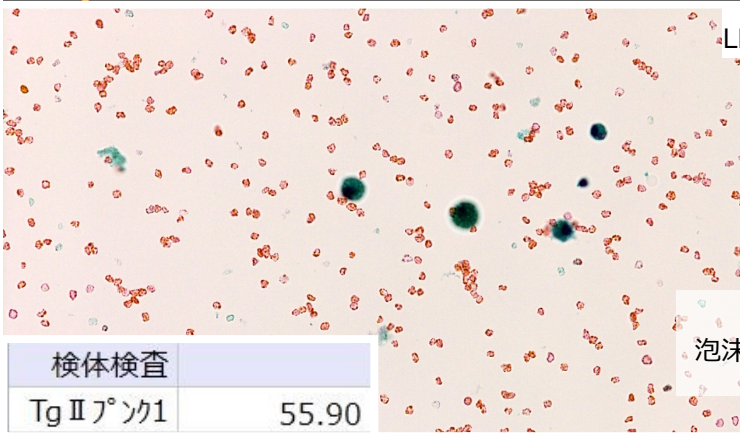
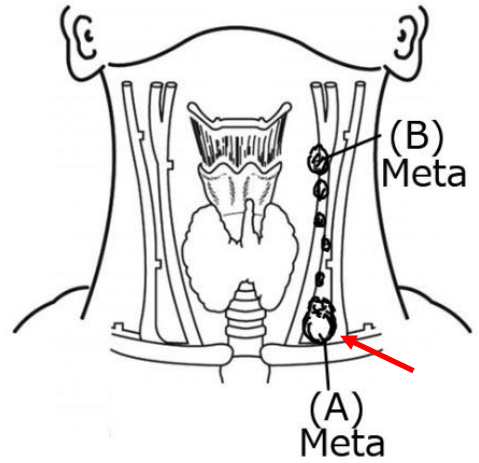
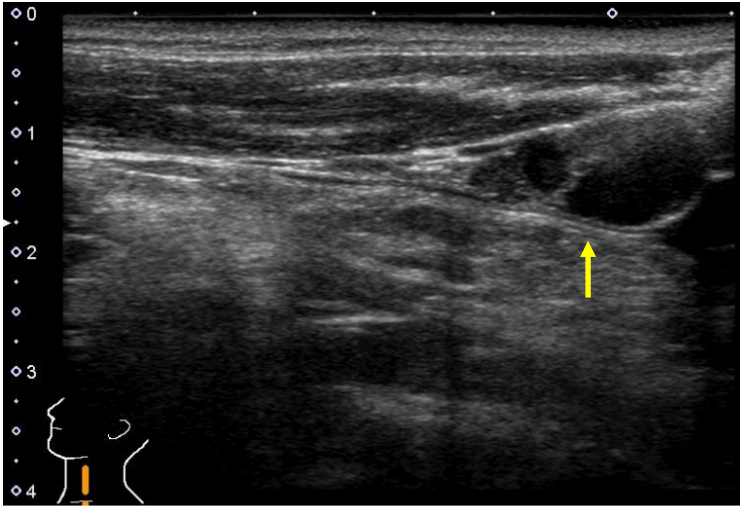
超音波：右葉に形状不整、境界やや不明瞭・粗雑、内部不均質・低エコー・微細高エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：境界不明瞭な白色調結節である。非結節部には慢性甲状腺炎がみられる。

細胞診：背景にリンパ球がみられる。乳頭癌細胞の細胞質は豊富で、厚く、好酸性である。

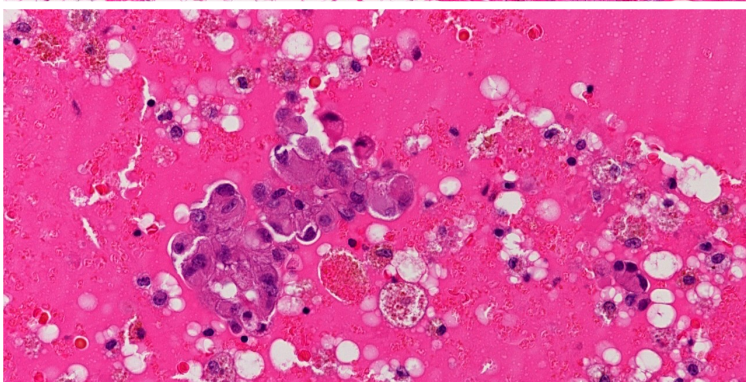
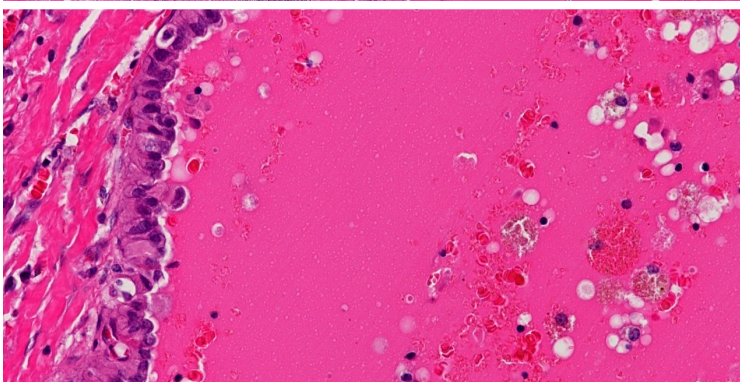
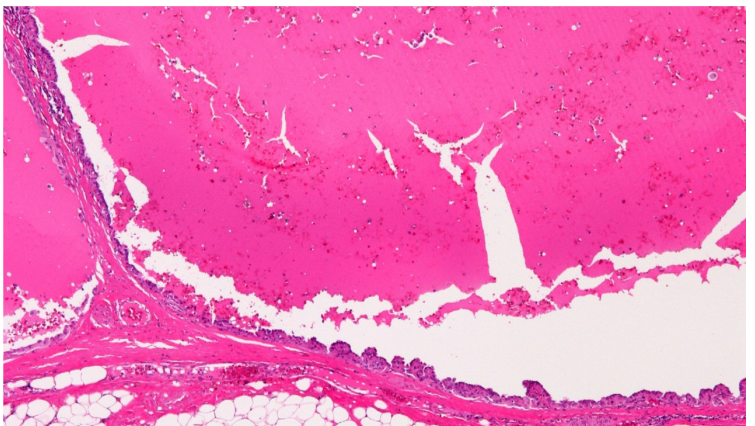
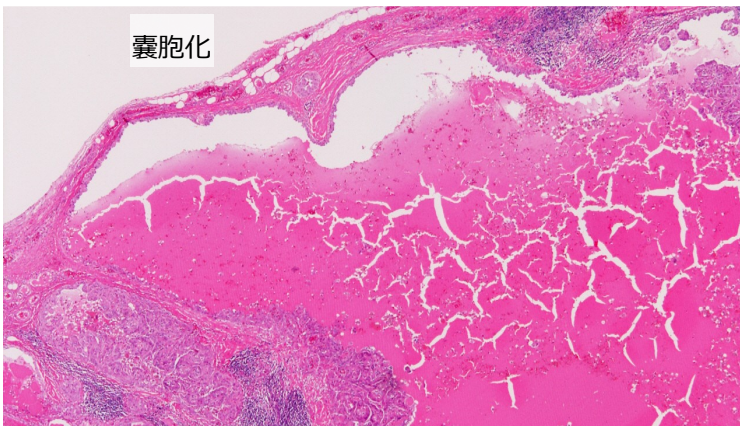
組織：好酸性細胞質を持つ乳頭癌細胞が乳頭状に増殖し、間質にはリンパ球、形質細胞が豊富である。周囲の甲状腺には、慢性甲状腺炎がみられる。

15. 乳頭癌 リンパ節転移



検体検査	
Tg II プンク1	55.90

泡沫細胞

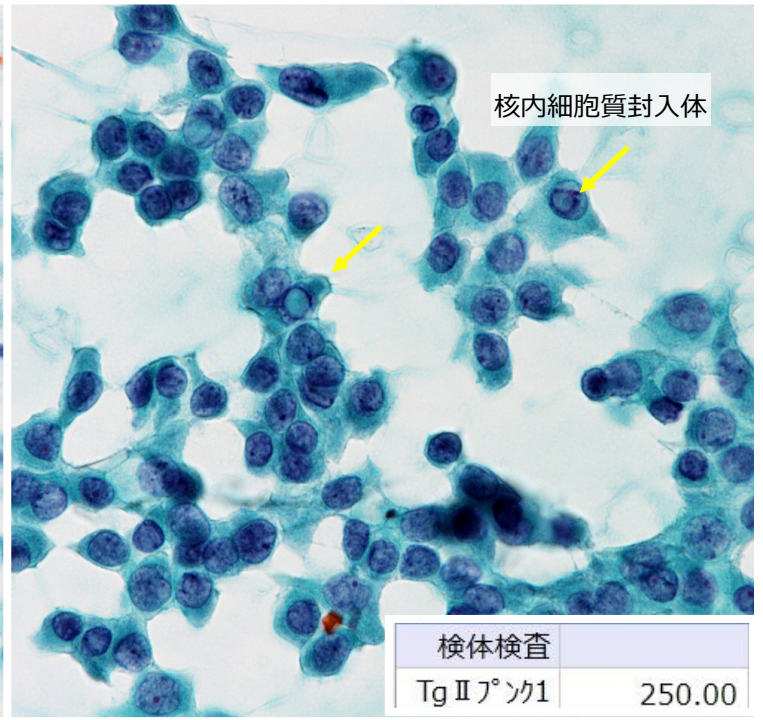
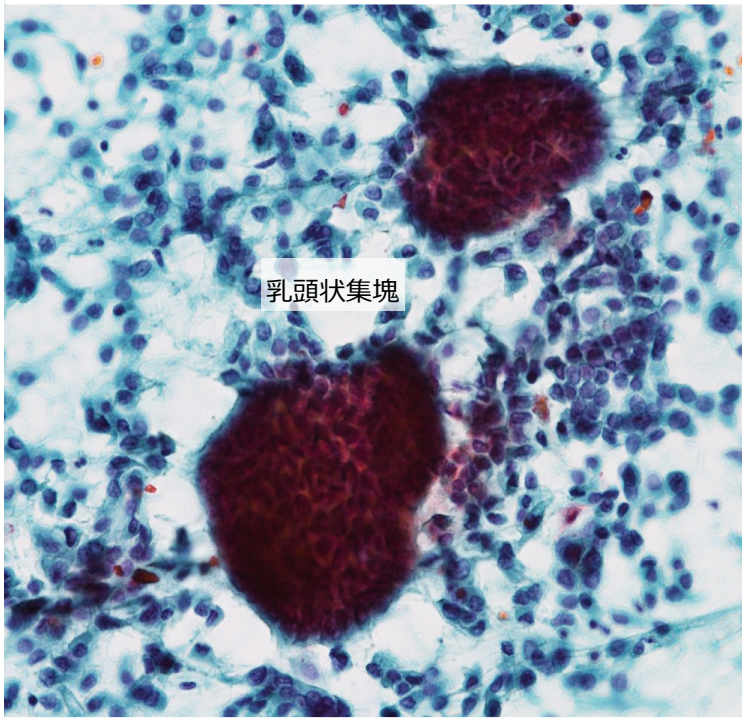


超音波：左頸部外側（矢印）に形状整、内部無エコーを示す嚢胞性結節がみられる。

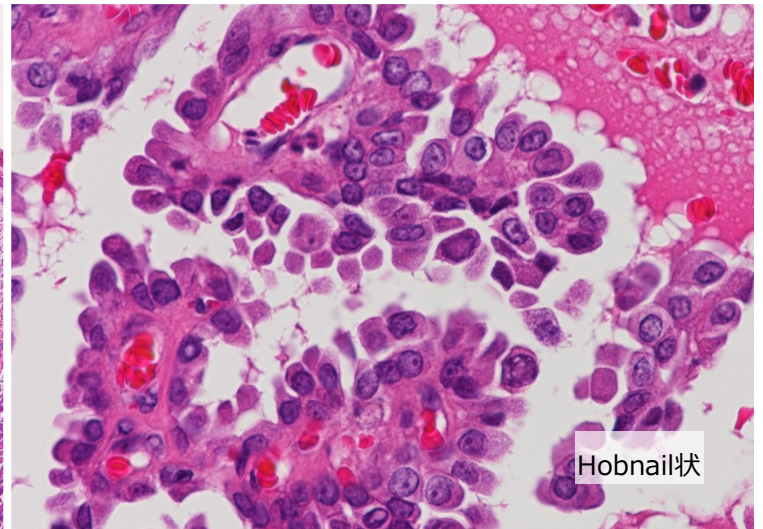
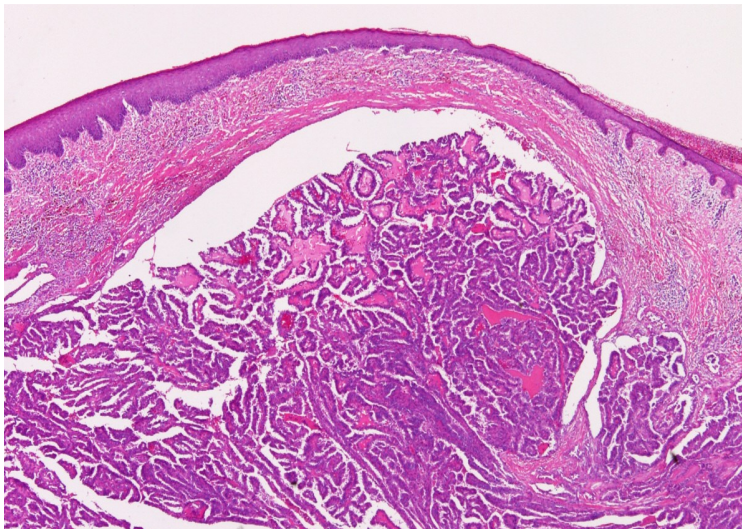
細胞診：矢印のリンパ節より採取した液状検体で、背景には多量の変性赤血球がみられる。泡沫細胞が散見される。乳頭癌細胞は確認できないが、リンパ節からこのような検体が採取された場合は乳頭癌の嚢胞化転移を強く示唆するので、良性と報告すべきではない。穿刺針洗浄液のサイログロブリン値は55.9ng/mLであり、生化学的にも乳頭癌の転移を強く疑う。

組織：リンパ節転移巣の一部が嚢胞状に拡張している。原発巣が嚢胞化していなくても、リンパ節で嚢胞化することは稀ではない。

16. 乳頭癌 穿刺経路再発



検体検査	
Tg II ⁷ α1	250.00



臨床：甲状腺乳頭癌切除5年後に、皮下結節が出現した。

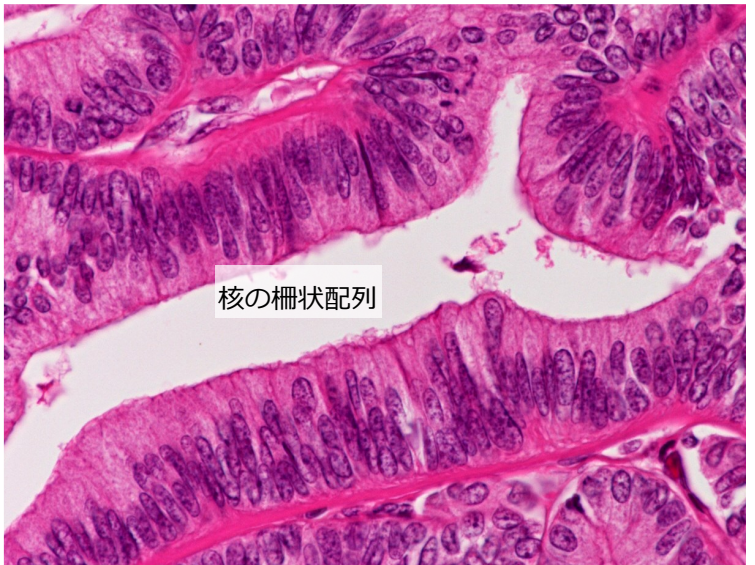
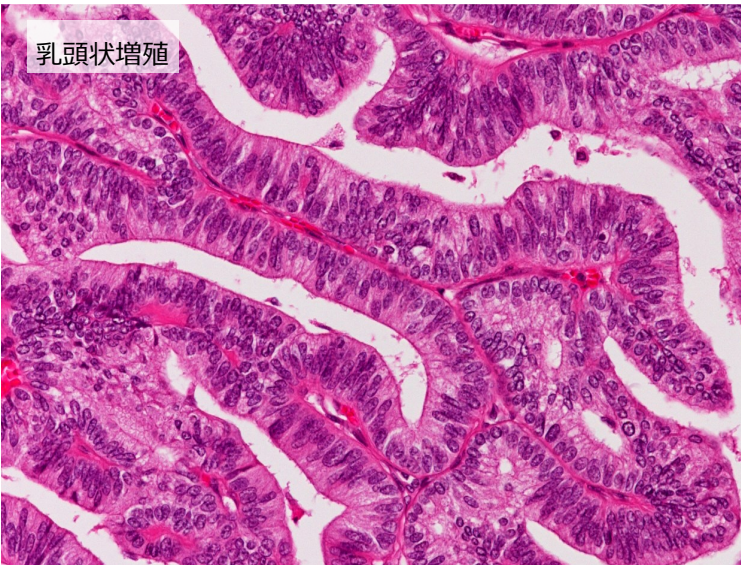
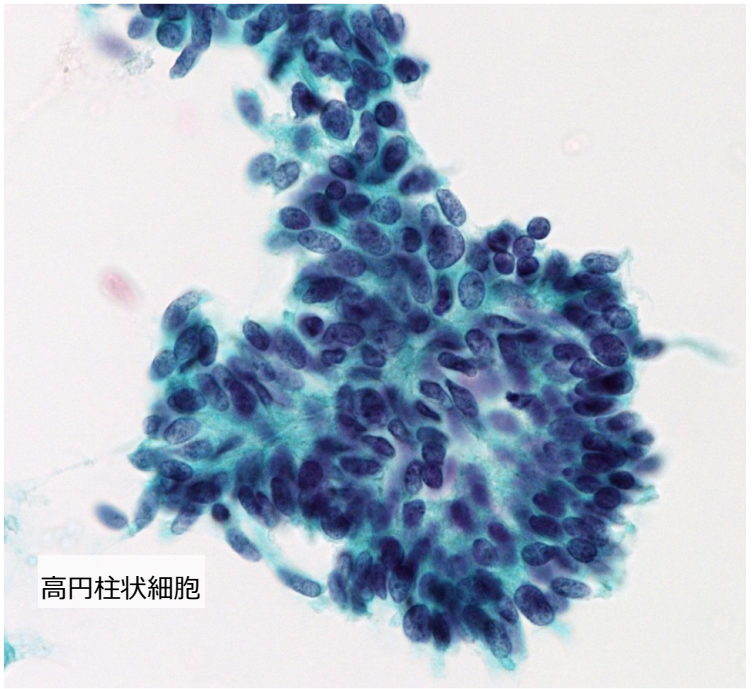
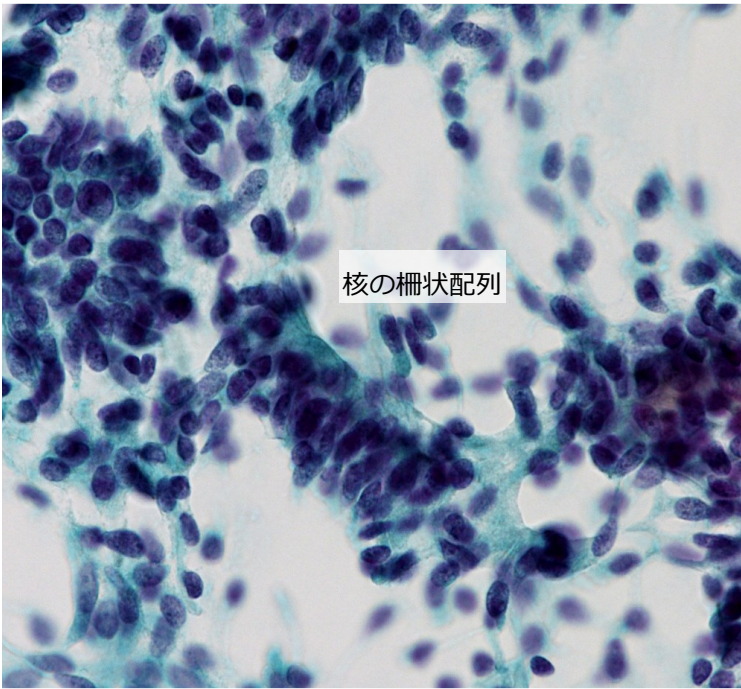
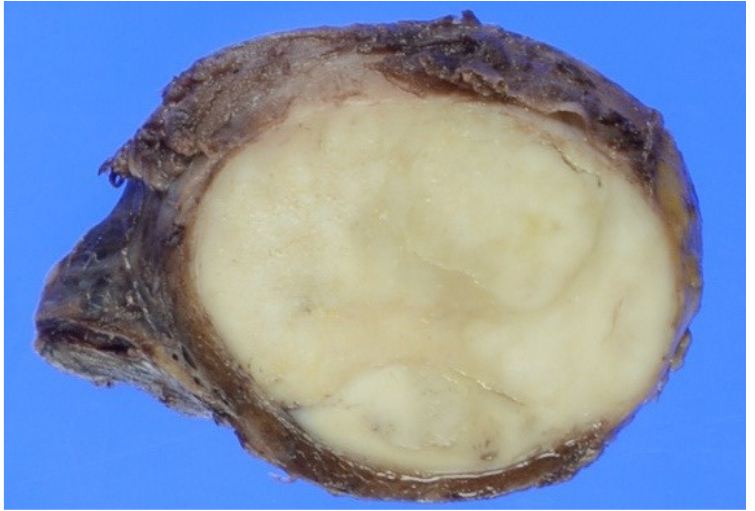
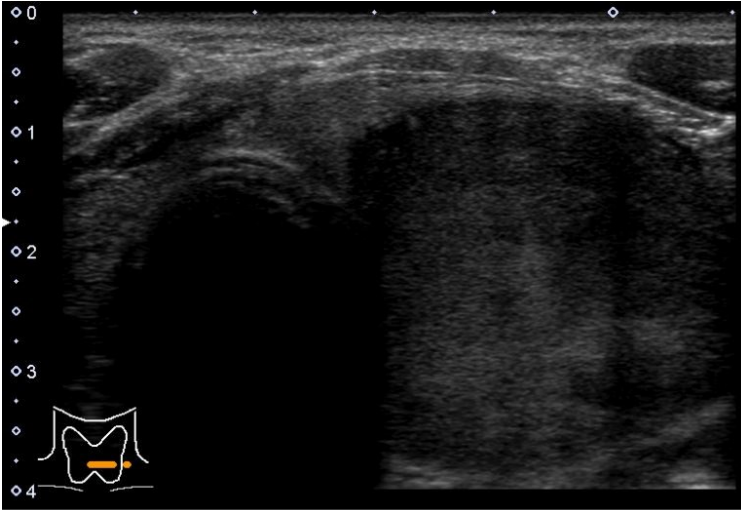
超音波：正中皮下に形状やや不整、内部低エコーの充実性結節がみられる。

肉眼：皮下に結節性病変がみられる。

細胞診：結合性のよい乳頭状集塊がみられる一方、結合性が弱く、孤立散在性に出現する高細胞も多数みられる。核内細胞質封入体（矢印）が目立つ。穿刺針洗浄液のサイログロブリン値は250ng/mLと高値である。

組織：皮下に乳頭癌の結節がみられる。隣り合わせの乳頭癌細胞が分離し、その一部はhobnail状である。

17. 円柱細胞癌



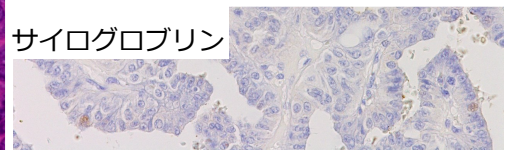
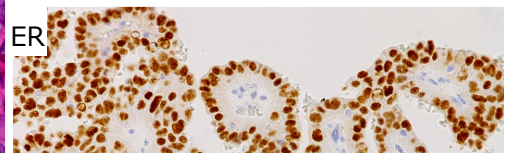
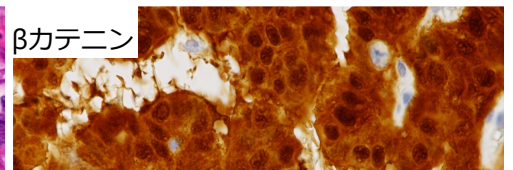
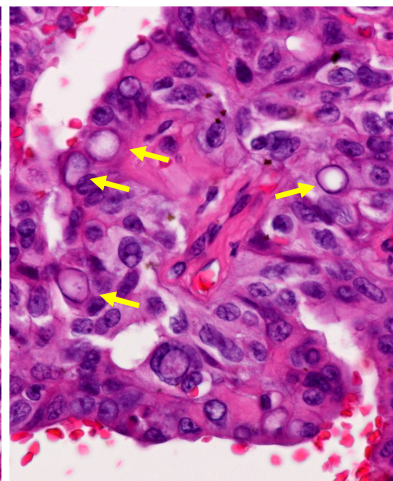
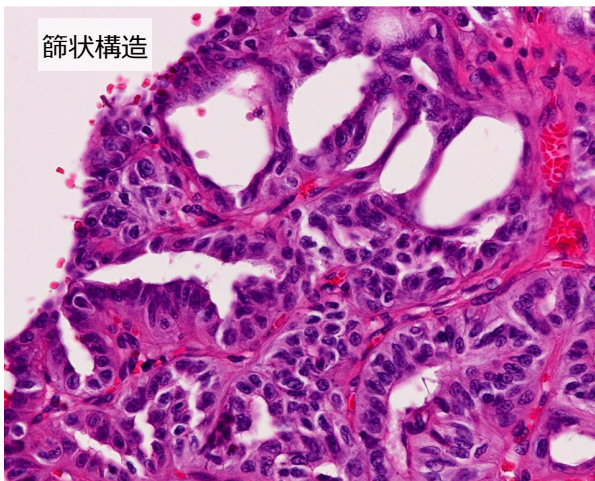
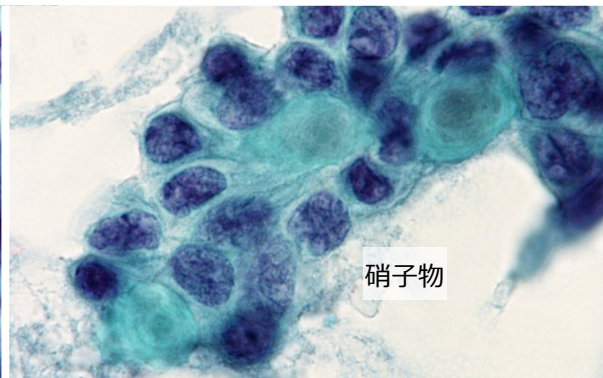
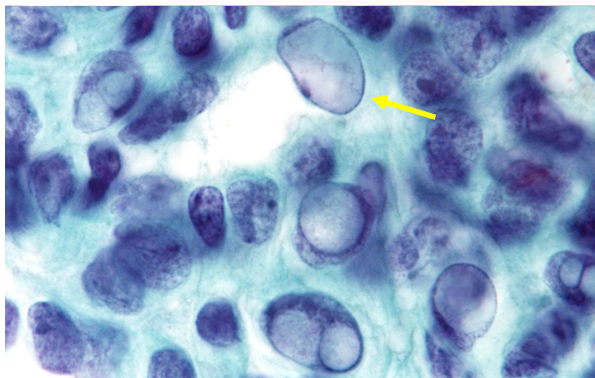
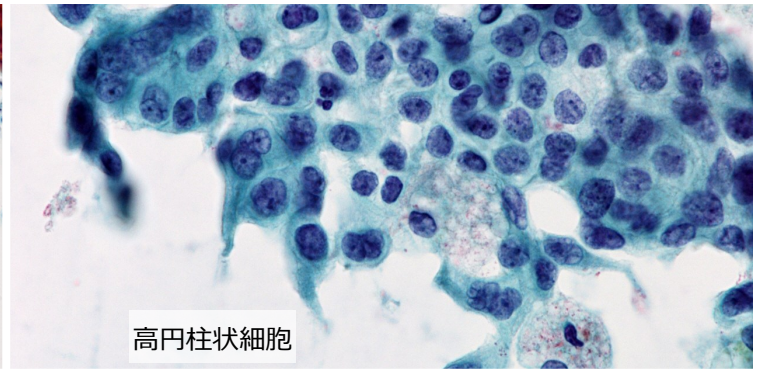
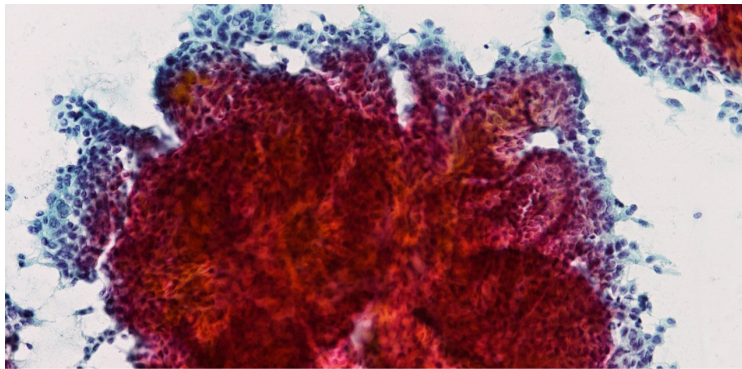
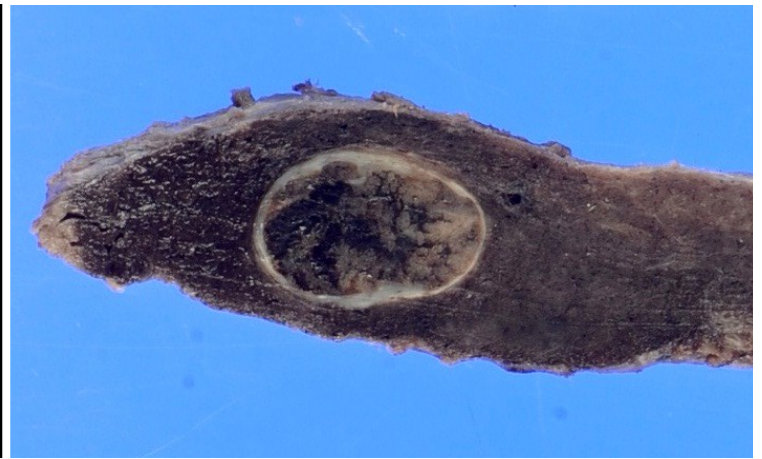
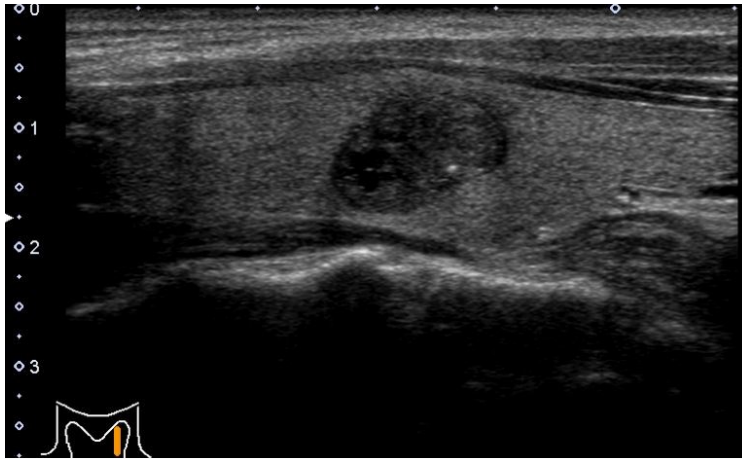
超音波：左葉に形状整、境界明瞭、内部均質・低エコーの充実性結節がみられる。

肉眼：境界明瞭な白色充実性結節である。

細胞診：核の柵状配列は高細胞であることを示唆する。過染性で、紡錘形の核は円柱細胞型に特有である。

組織：円柱状異型細胞が乳頭状、濾胞状、篩状、充実性、索状に増生している。核は過染性、紡錘形で、偽重層を示す。通常は浸潤性であるが、この症例は被膜に囲まれており、非定型的である。

18. 篩状モルラ癌



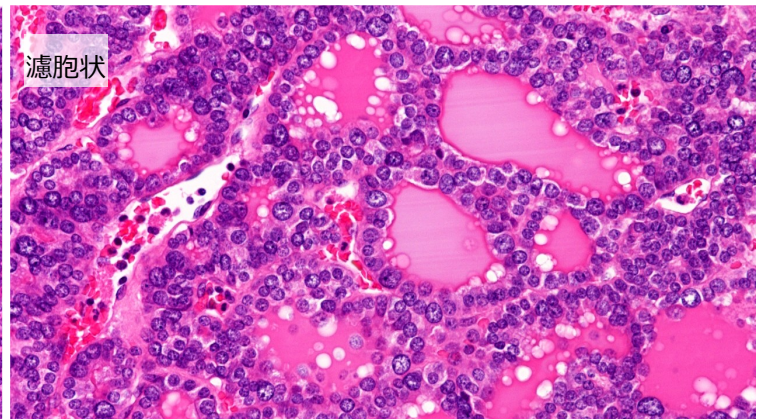
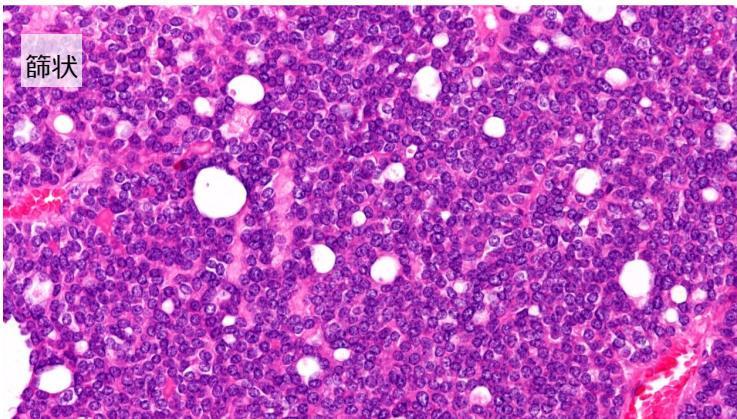
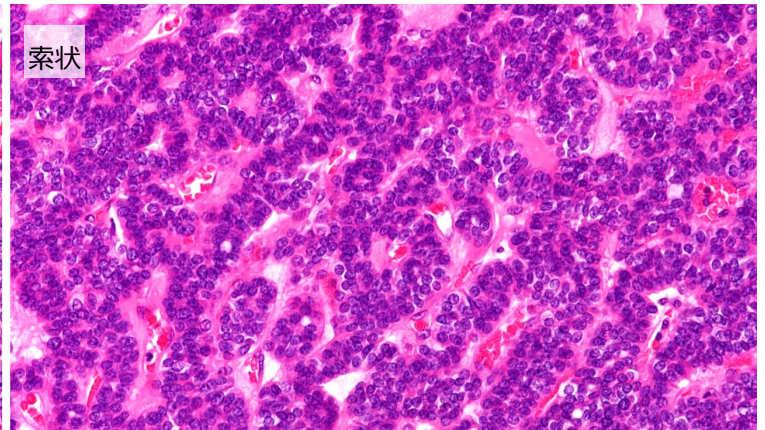
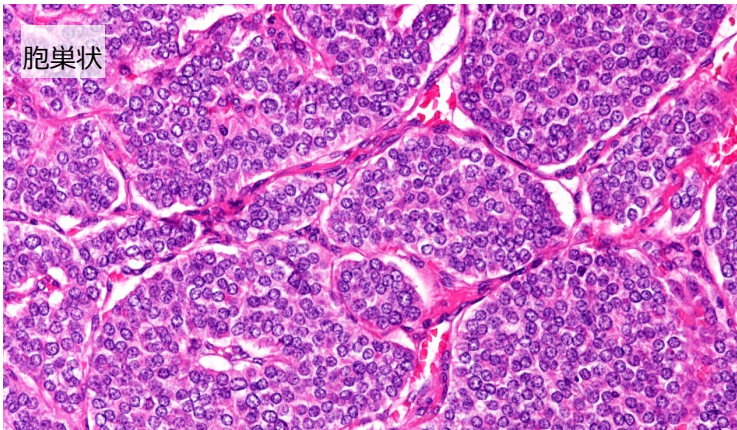
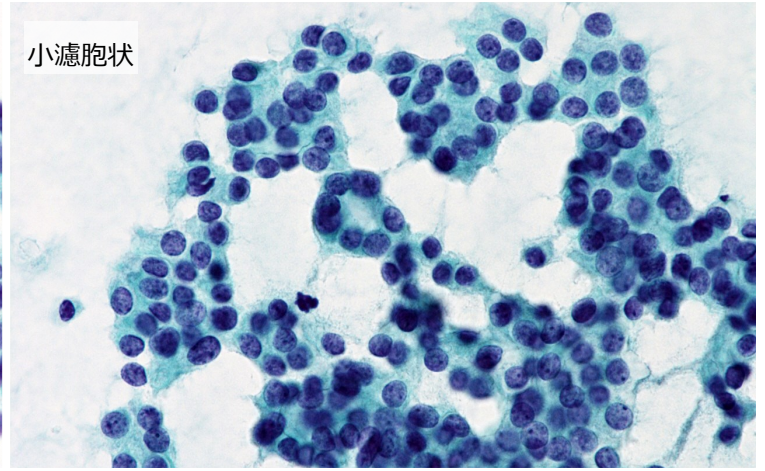
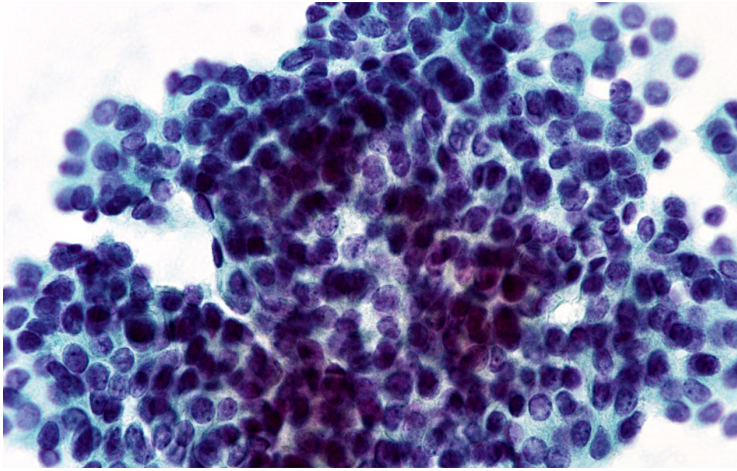
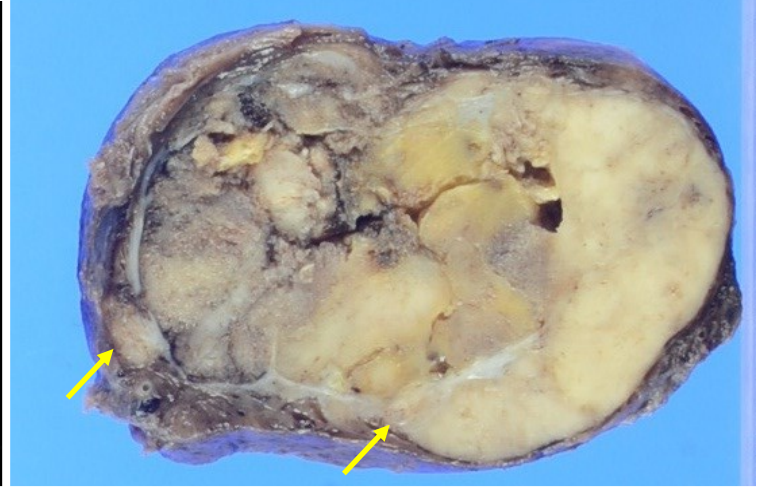
超音波：左葉に形状整、境界明瞭、内部やや低エコー・一部無エコー・微細高エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：被膜に囲まれた充実性結節である。

細胞診：背景に泡沫細胞がみられる。腫瘍細胞は高円柱状、紡錘形で、乳頭状パターンを示す。核内細胞質封入体が目立つが、peculiar nuclear clearing (矢印) もみられる。細胞集塊内に硝子物がみられる。

組織：被膜に囲まれている。高細胞からなる乳頭状増殖が目立ち、コロイドを含まない篩状構造は一部にみられるのみである。Peculiar nuclear clearing (矢印) が散見される。モルラは明らかではない。βカテニンは細胞質、核に陽性局在を示す。エストロゲンレセプター (ER) は陽性、サイログロブリンは陰性である。

19. 低分化癌



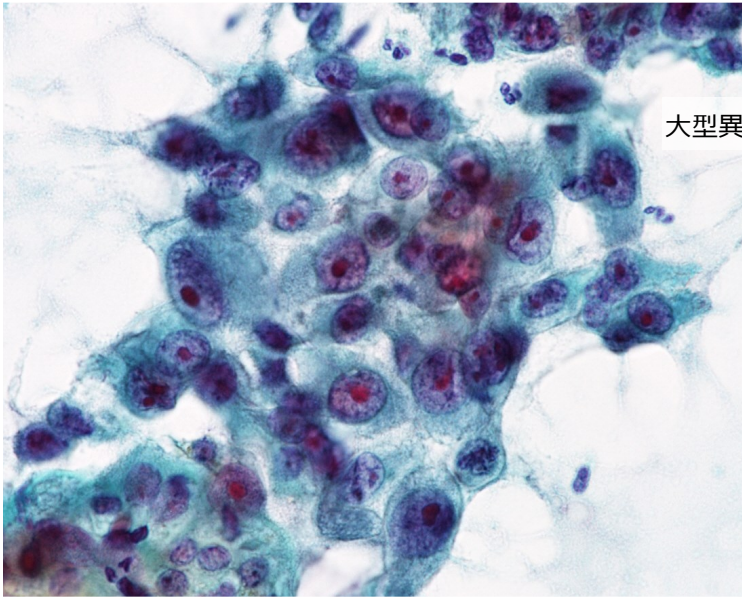
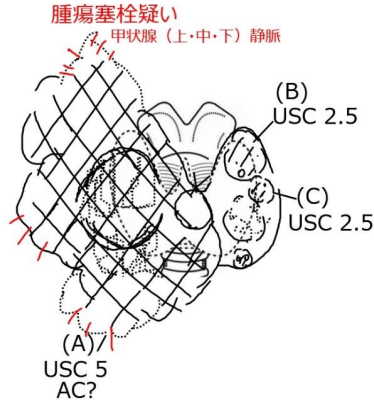
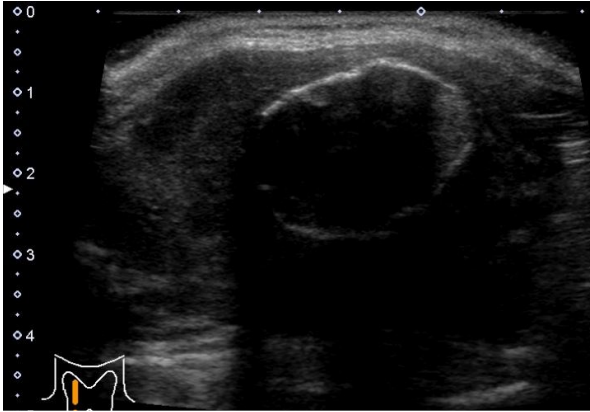
超音波：左葉全体を占める形状不整、内部不均質・分葉状を示す充実性結節がみられる。

肉眼：黄白色調の充実性結節である。肉眼的に被膜浸潤を認識できる（矢印）。

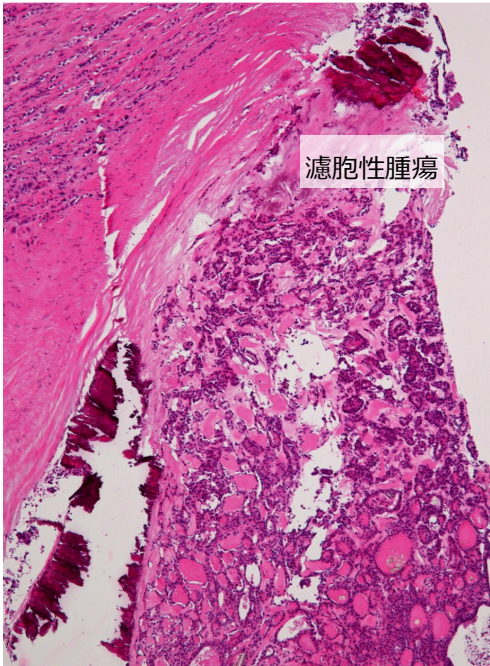
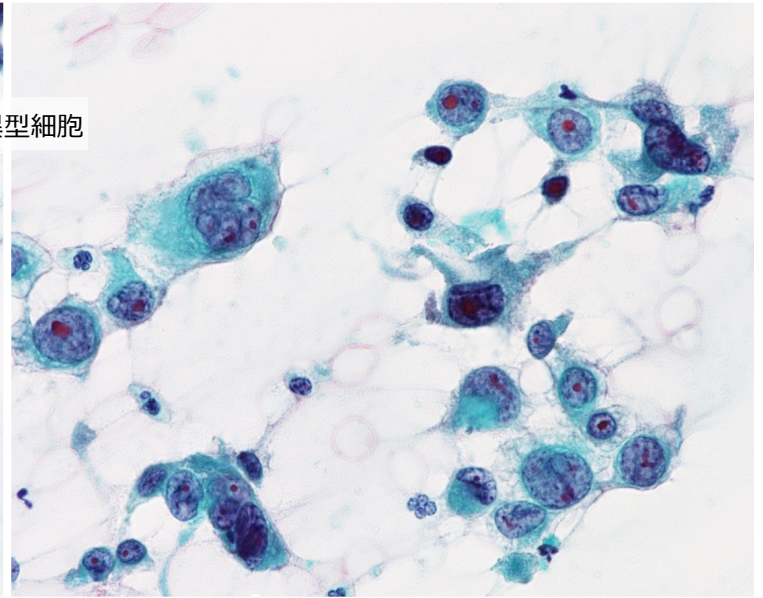
細胞診：腫瘍細胞は小型で、明らかなパターンを示さずに出現している。小濾胞状集塊が一部にみられる。

組織：胞巢状、索状、篩状、濾胞状パターンを示す浸潤性の腫瘍で、高分化成分と低分化成分が混在している。

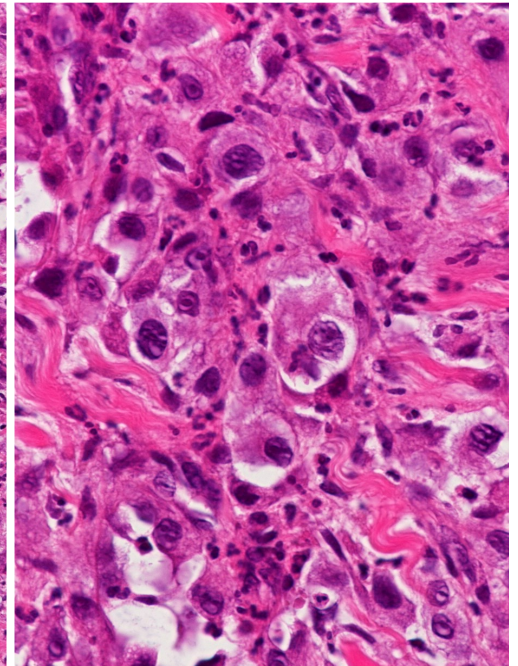
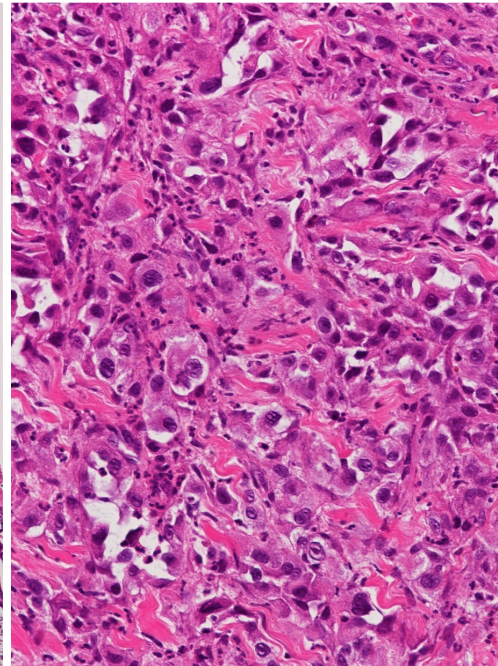
20. 未分化癌



大型異型細胞



濾胞性腫瘍



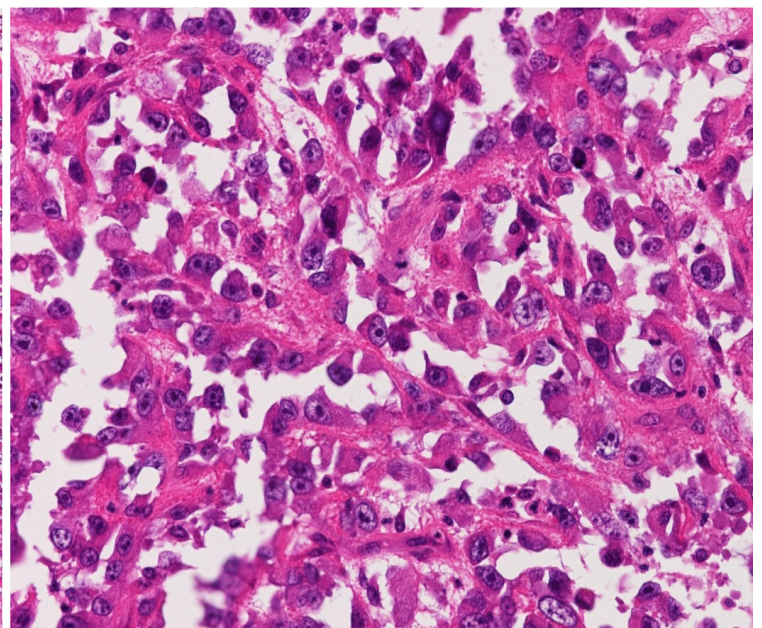
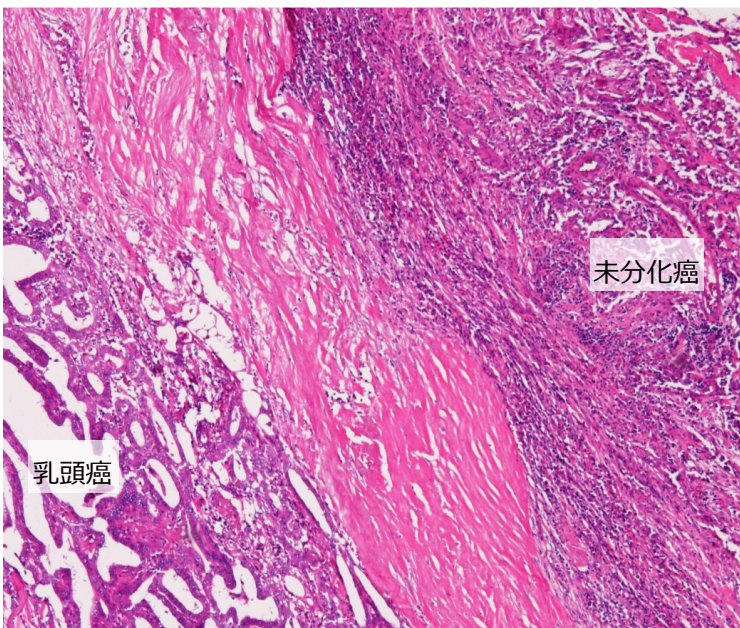
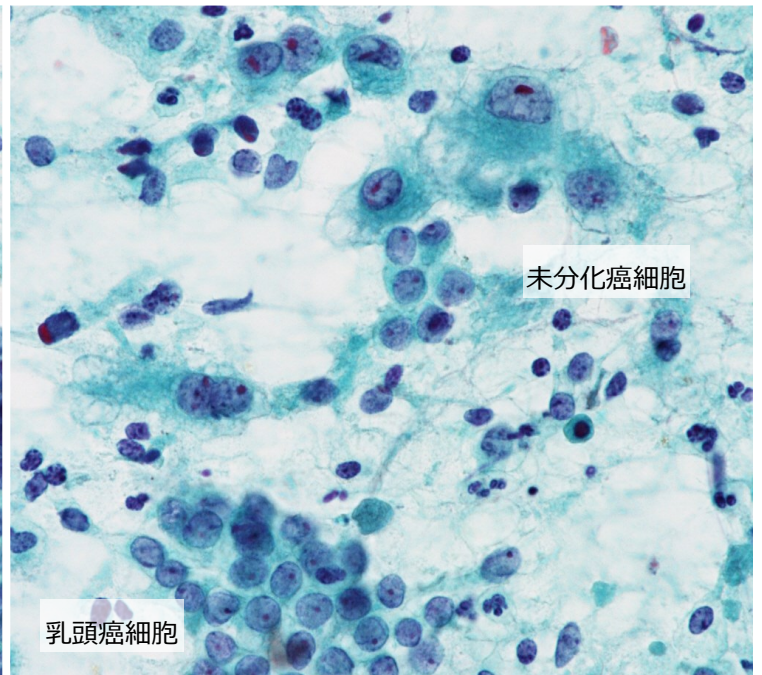
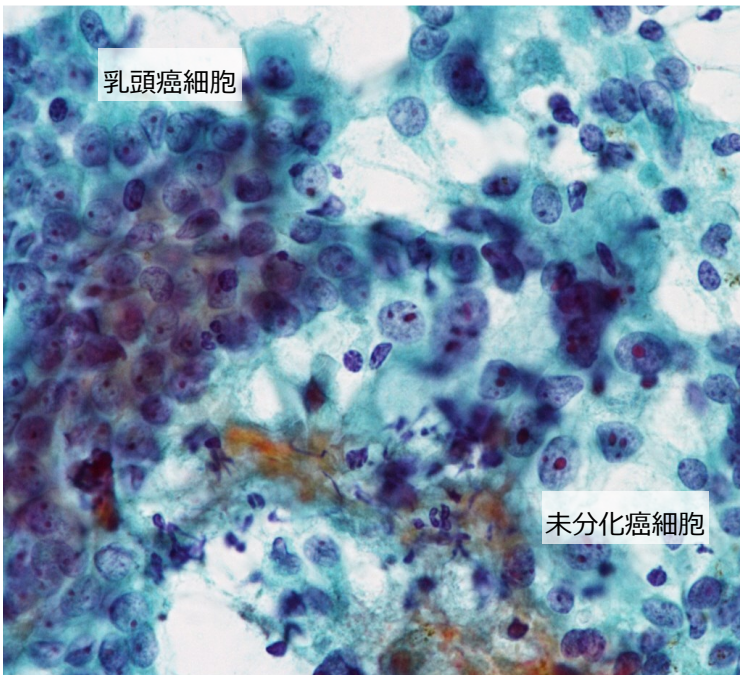
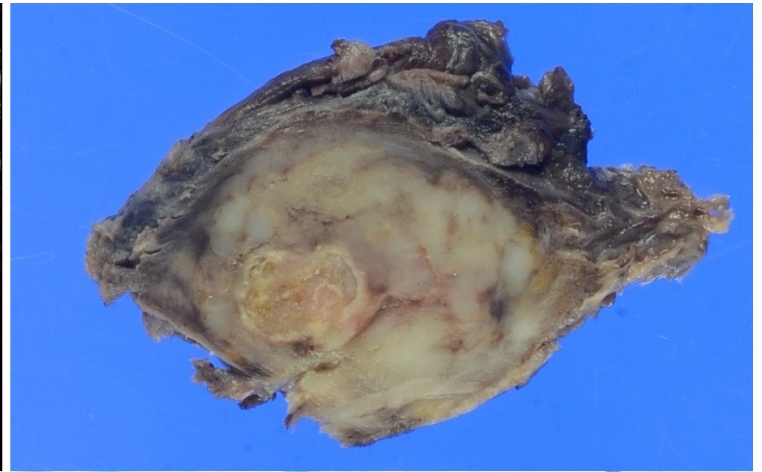
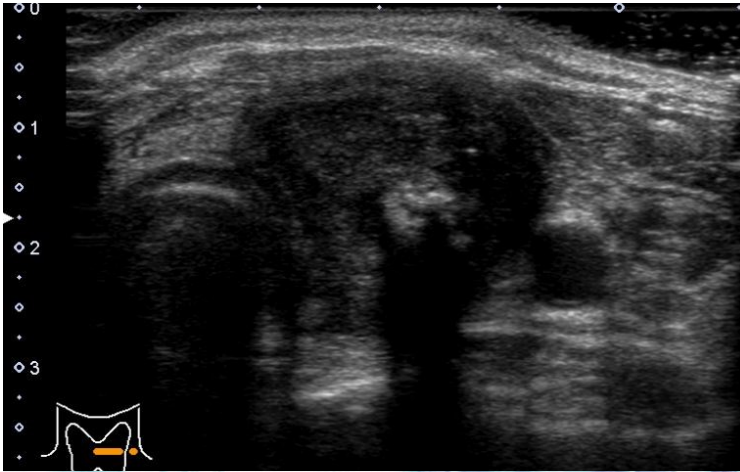
超音波：右葉に巨大な充実性結節がみられる。内部低エコー、卵殻状高エコーを示す。

CT：甲状腺右葉にある結節が、右総頸動脈を巻き込むように浸潤しており、気管を左に圧排している。造影効果は乏しく不均一。大きな卵殻様石灰化を伴い、気管・前頸筋・食道に接している。周囲臓器への浸潤や癒着は否定できない。また、解剖学的に右反回神経への浸潤を疑う。

細胞診：背景に好中球がみられる。結合性の乏しい大型異型細胞が出現している。Rhabdoid typeの腫瘍細胞もある。

組織：検体は針生検である。大型異型細胞が孤在性に、あるいは胞巣状に増殖している。壊死や好中球浸潤がみられる。石灰化した被膜に囲まれた濾胞性腫瘍があり、未分化癌の先行病変と考えられる。

21. 未分化癌



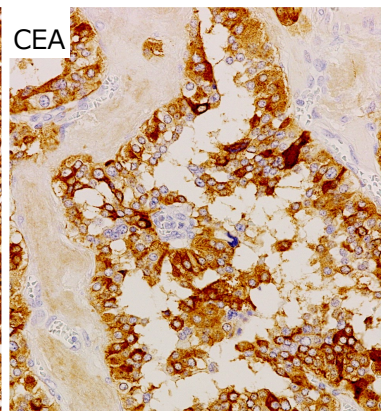
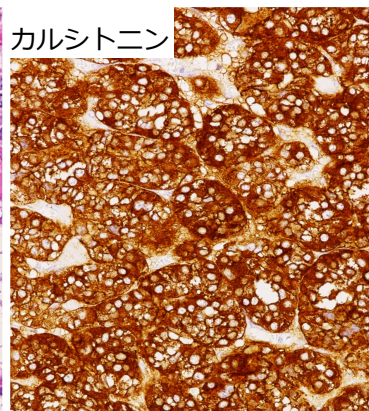
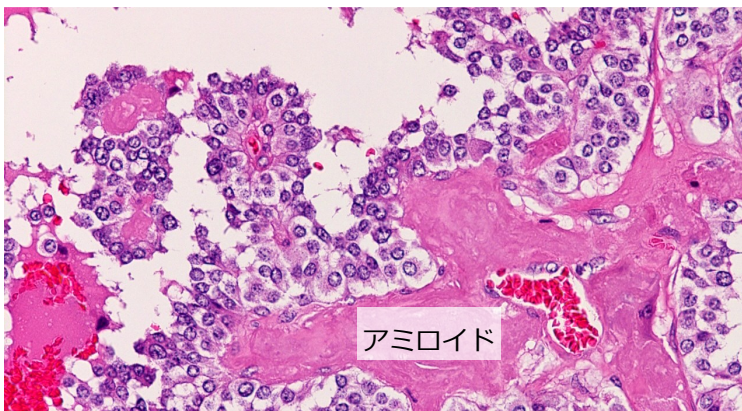
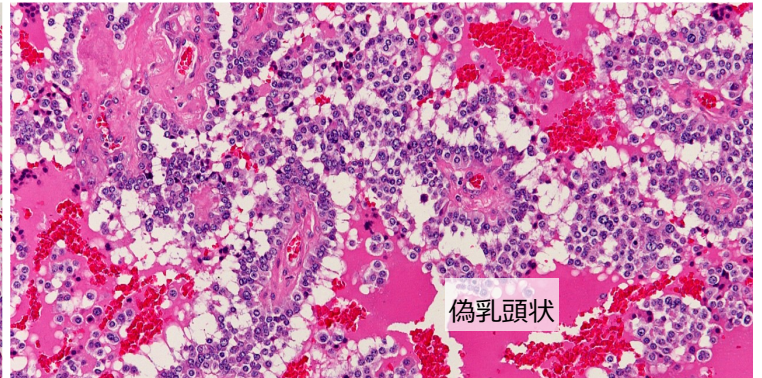
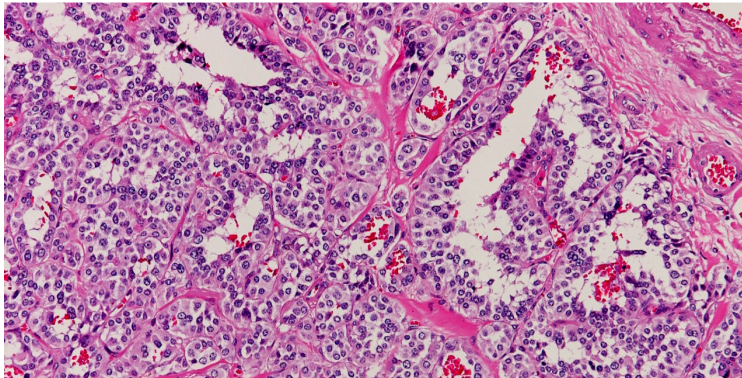
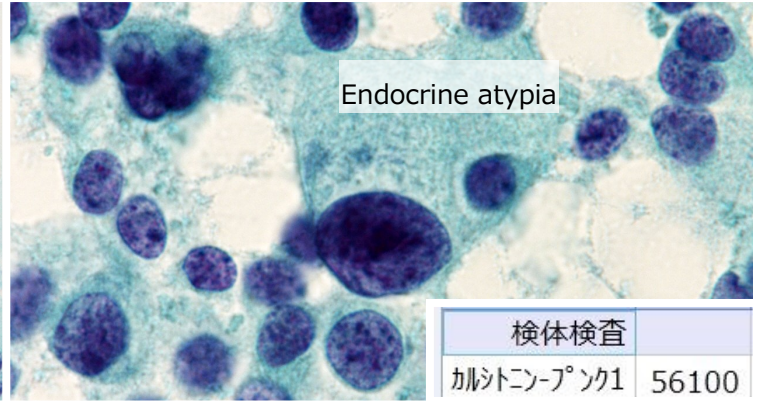
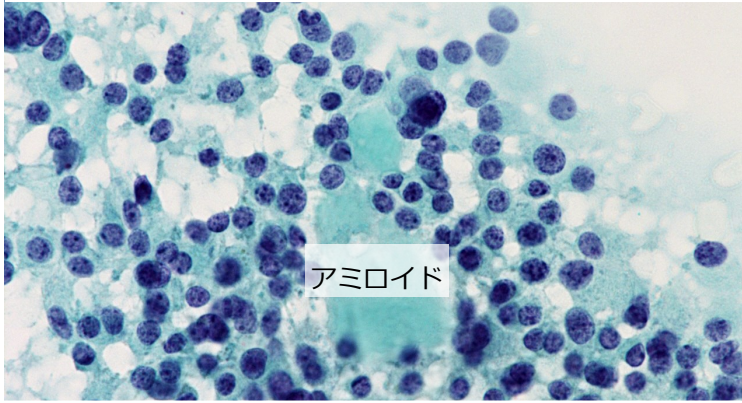
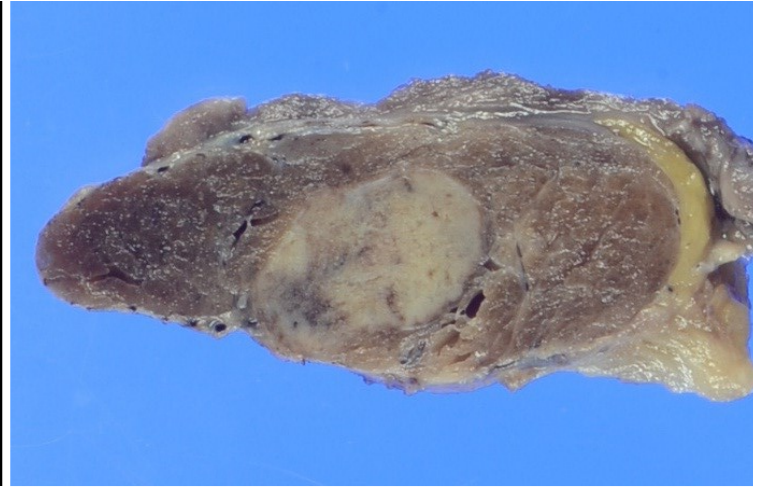
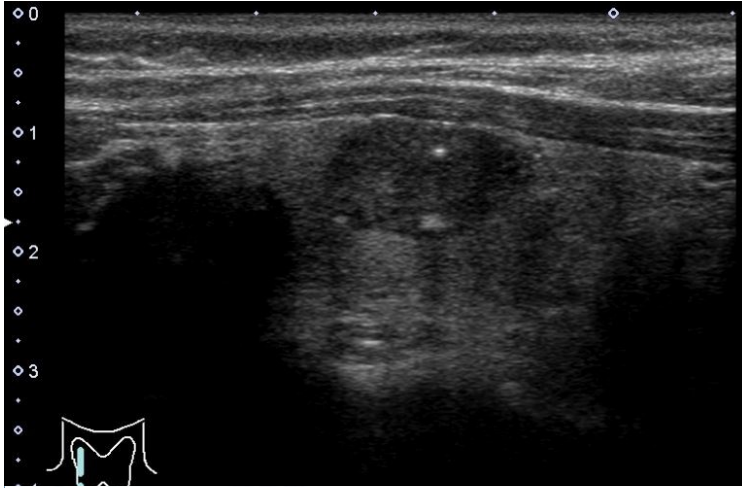
超音波：左葉全体を占める内部不均質・低エコー・塊状高エコーを示す充実性結節がみられる。気管に広く接し、浸潤の可能性がある。

肉眼：浸潤性増殖を示す充実性結節である。結節内部には石灰化領域がみられる。

細胞診：乳頭癌細胞と未分化癌細胞の両方がみられる。

組織：被膜に囲まれた乳頭癌を先行病変として発生した未分化癌症例である。

22. 髄様癌



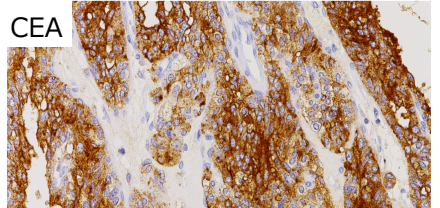
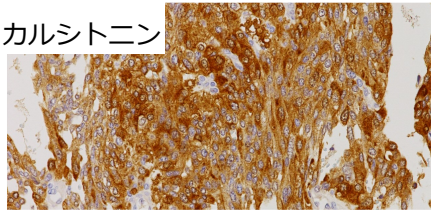
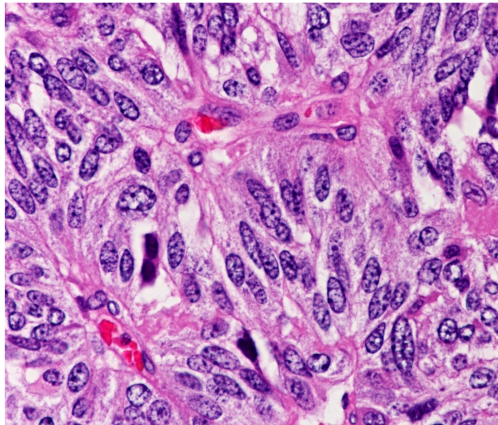
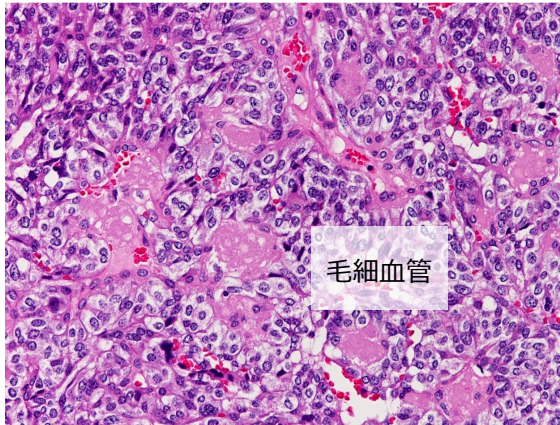
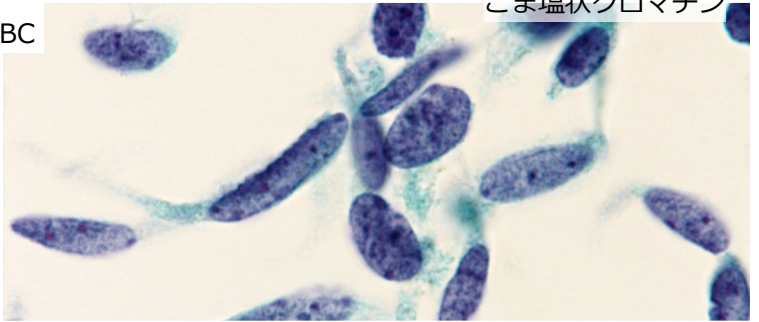
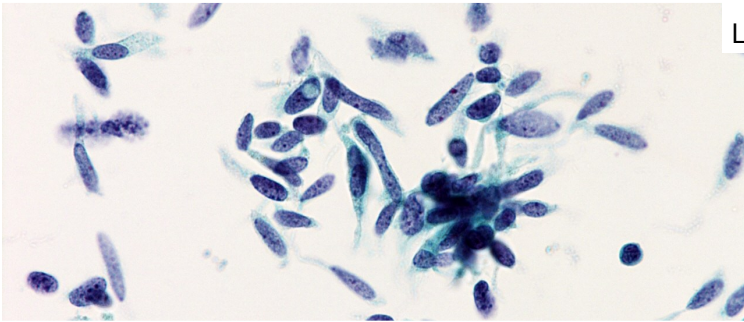
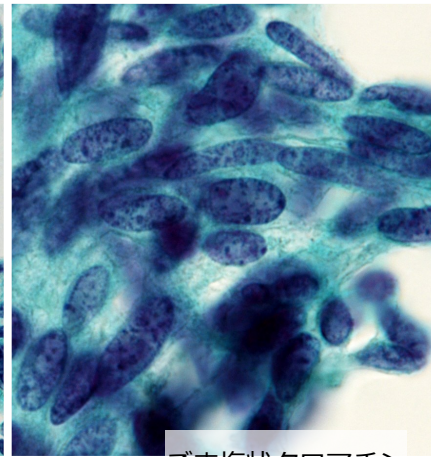
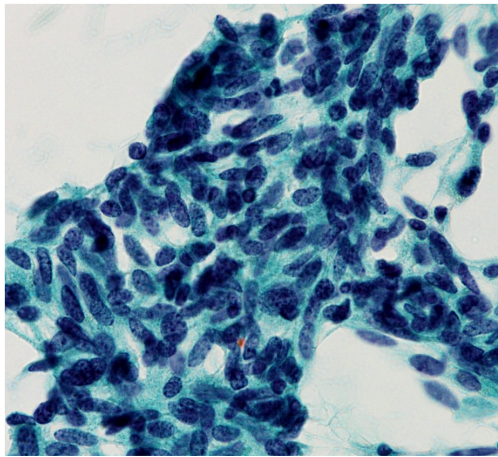
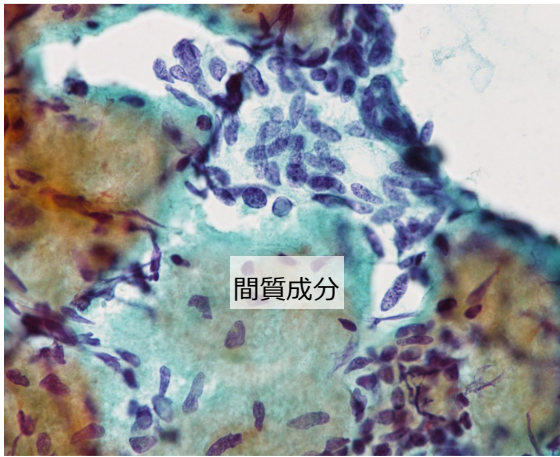
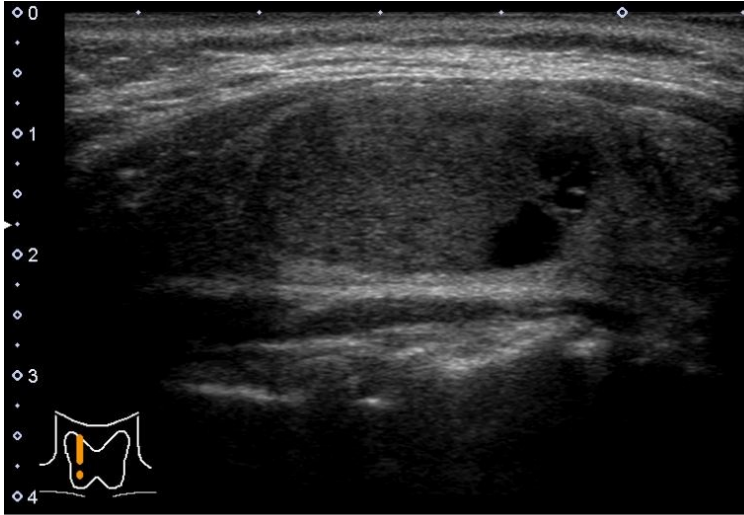
超音波：右葉に形状整、境界明瞭・平滑、内部均質・低エコー・小斑点状高エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：上極寄りに黄白色調の充実性結節がみられる。

細胞診：腫瘍細胞は結合性が弱く、主として孤立散在性に出現している。背景にアミロイドがみられる。細胞境界は不明瞭で、細胞質は淡染性、顆粒状である。核クロマチンはごま塩状である。過染性で大型核（endocrine atypia）や多核細胞が散見される。穿刺針洗浄液のカルシトニン値は56100pg/mLと高値である。

組織：充実性、胞巣状に増殖する腫瘍である。間質から離れた部分は離開しやすいため、偽乳頭状構造になる。間質にはアミロイドの沈着がみられる。免疫染色は、カルシトニン陽性、CEA陽性である。

23. 髓様癌 紡錘形



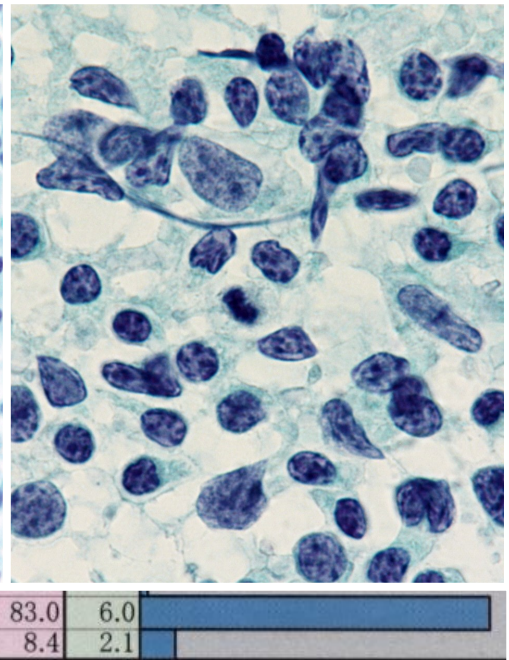
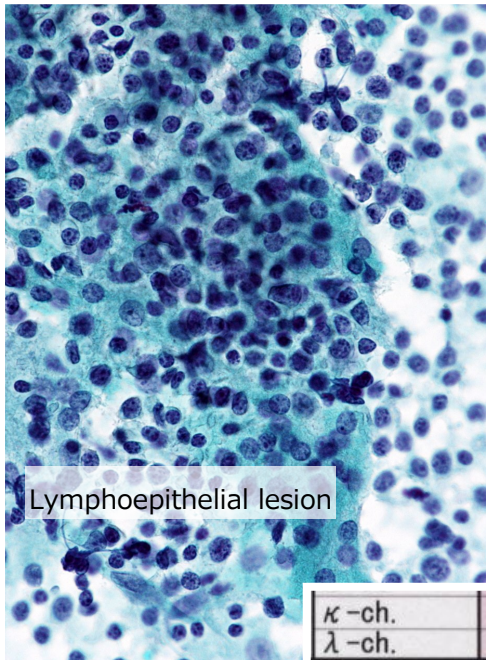
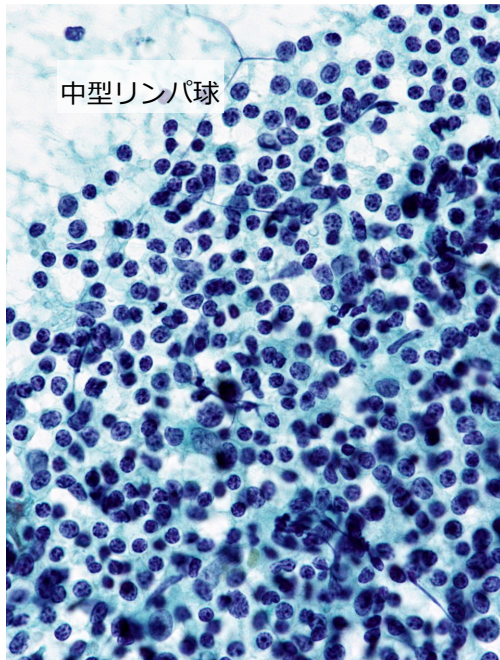
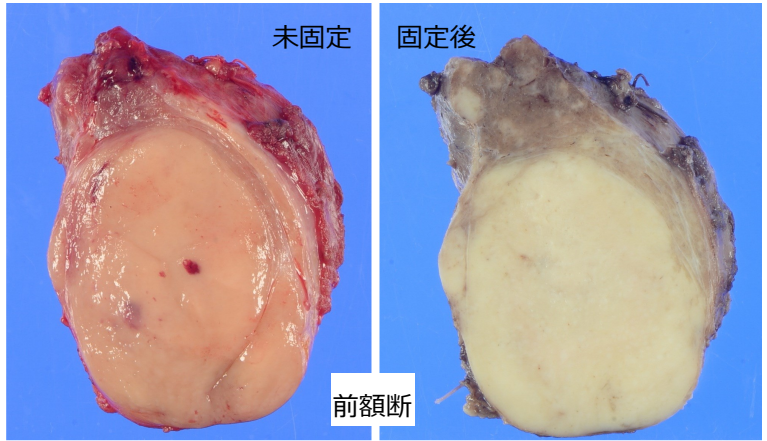
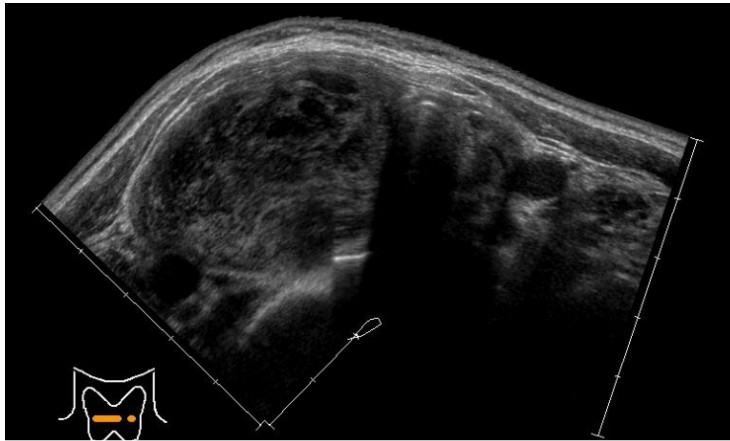
超音波：左葉に形状不整、境界粗雑、内部不均質・低エコー・粗大高エコーを示す充実性結節がみられる。前方に突出し浸潤を疑う。

肉眼：上極に、黄色調の分葉状結節がみられる。

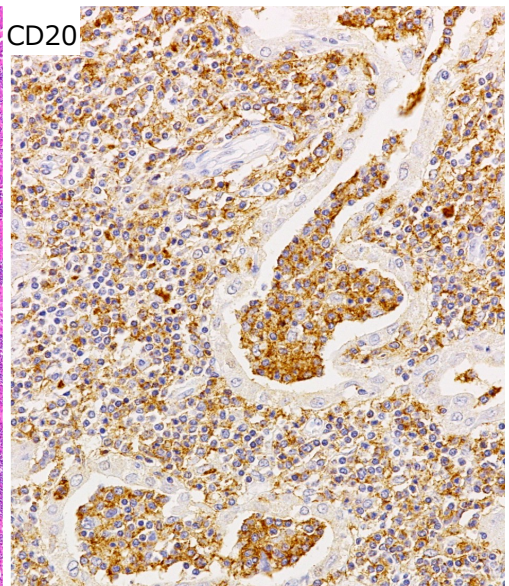
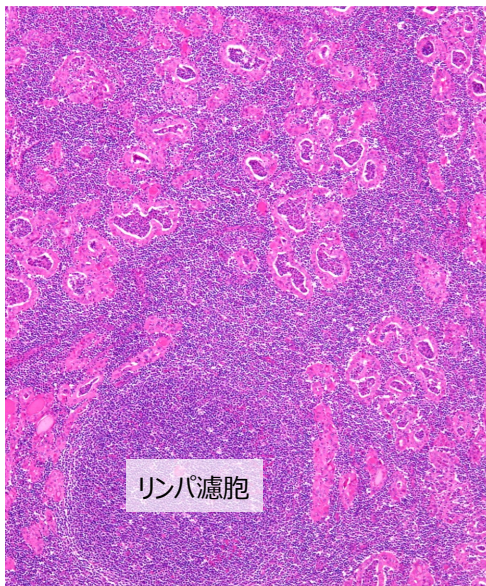
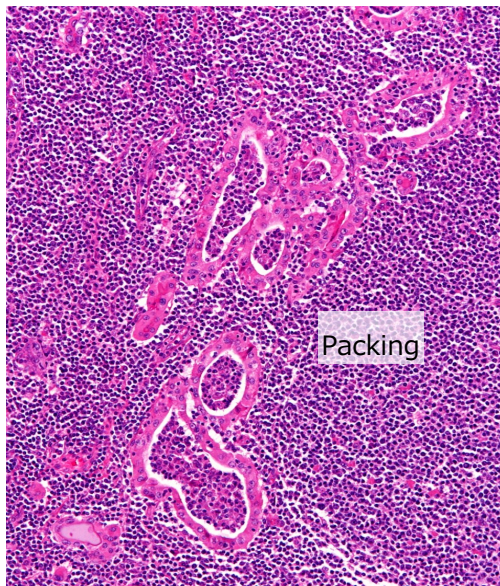
細胞診：背景に小さいアミロイド物質が多数みられる。コロイドとの区別が難しい。

組織：腫瘍細胞は小型で、類円形ないしラケット状（矢印）で、間質にはアミロイドが目立つ。

24. MALTリンパ腫



κ-ch.	83.0	6.0
λ-ch.	8.4	2.1



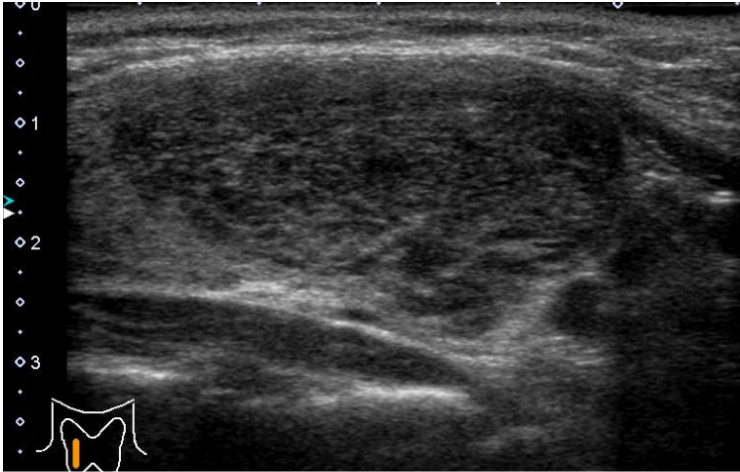
超音波：右葉に巨大な充実性結節がみられる。内部不均質・低エコーを示す。

肉眼：固定前の断面は白色調で光沢がある（fish-flesh appearance）。

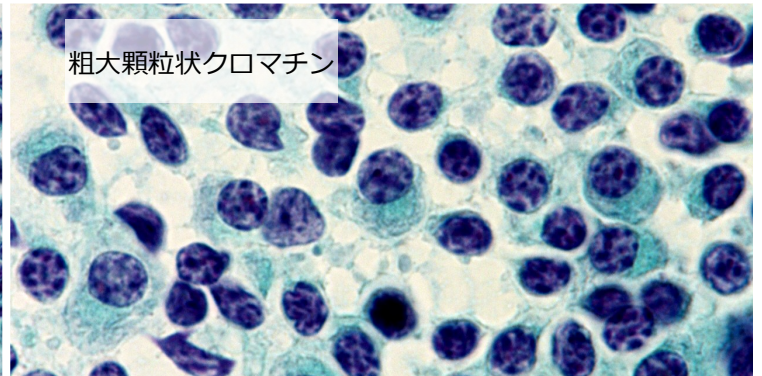
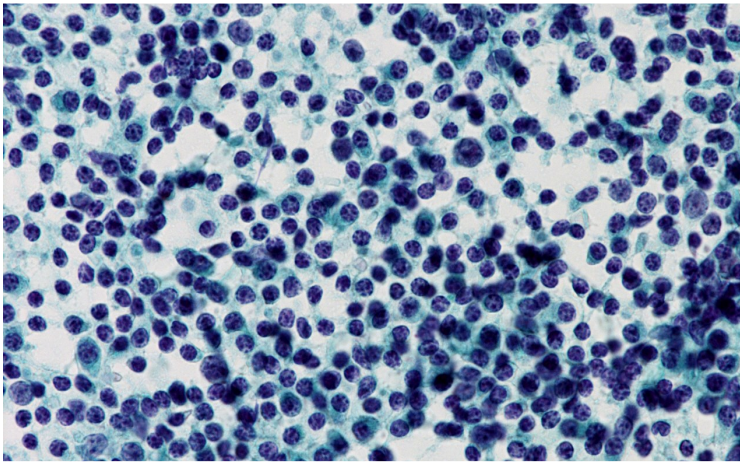
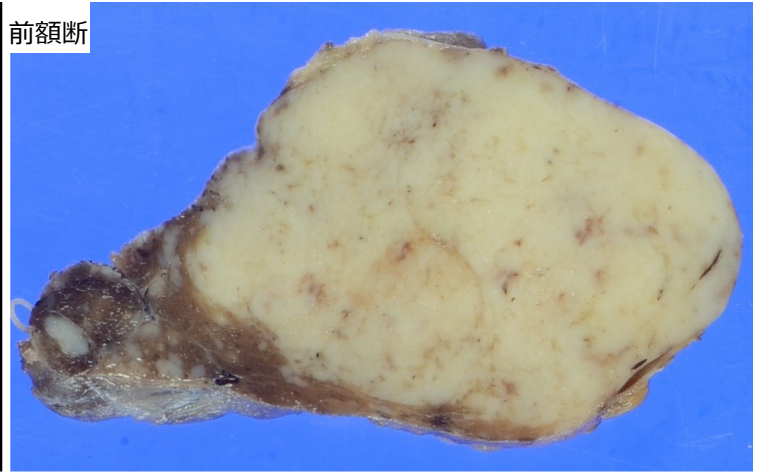
細胞診：多数の中型リンパ球と膨大細胞がみられる。膨大細胞の集塊内に中型リンパ球が混在している（lymphoepithelial lesion）。ただし、MALTリンパ腫の場合にみられる濾胞上皮細胞は、通常膨大細胞ではないことの方が多い。穿刺材料を用いたCD45ゲーティングの結果はκ/λ>9で、軽鎖制限がみられる。

組織：Packingが目立つMALTリンパ腫である。リンパ濾胞が発達しているが、胚中心の形態は円形で、follicular colonizationはないと判断される。

25. MALTリンパ腫 形質細胞への分化

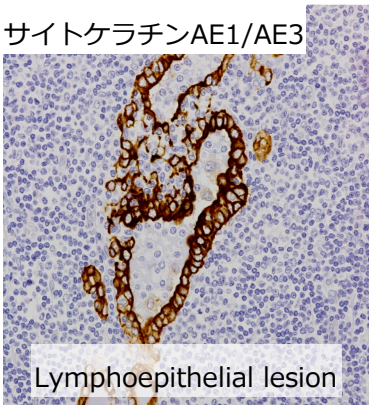
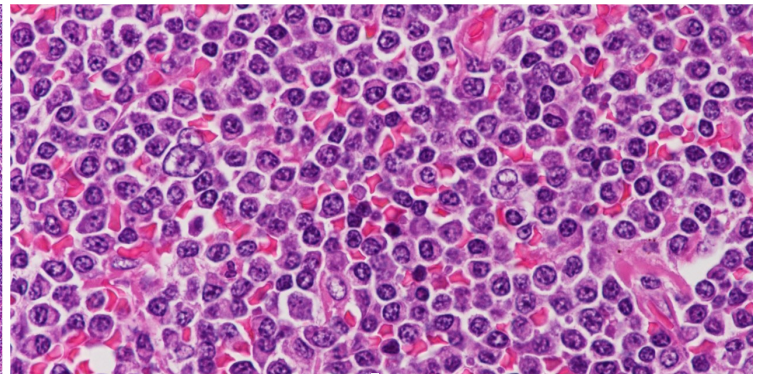
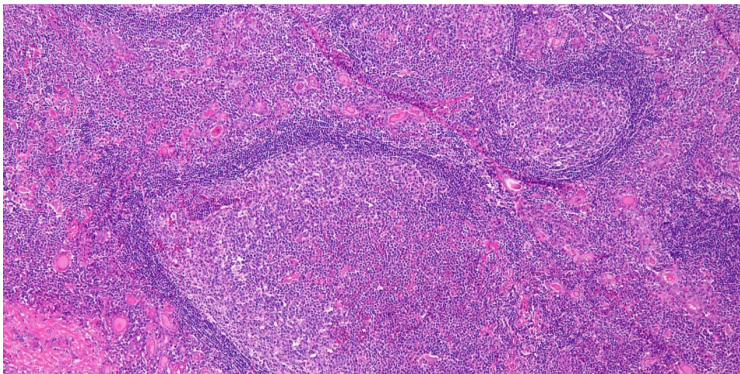


前額断

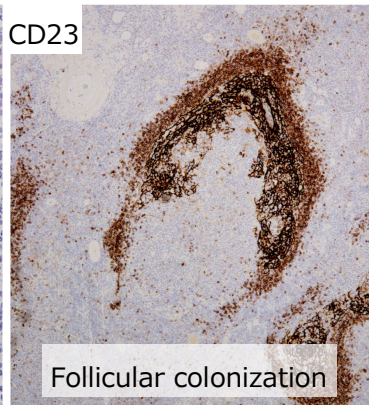


粗大顆粒状クロマチン

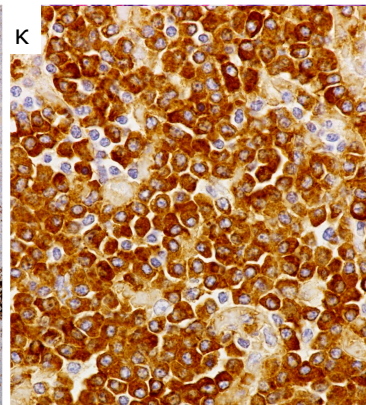
κ-ch.	88.4	22.3	
λ-ch.	28.6	2.1	



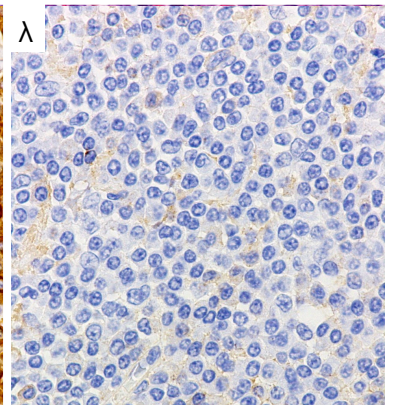
サイトケラチンAE1/AE3



CD23



κ



λ

Lymphoepithelial lesion

Follicular colonization

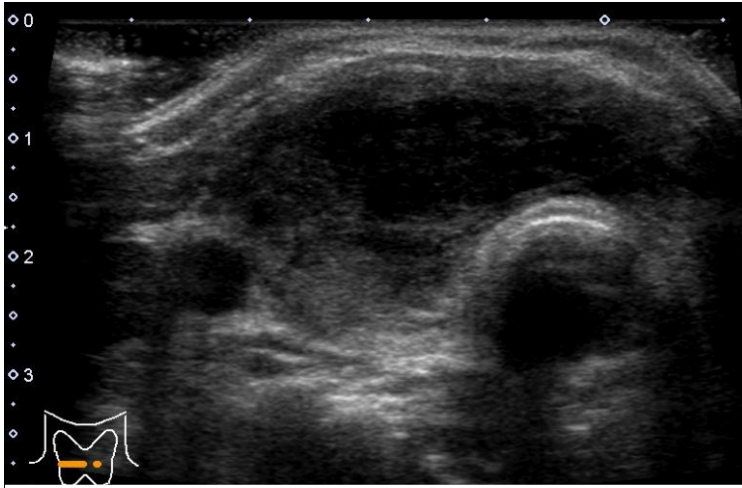
超音波：右葉に形状やや不整、境界やや不明瞭・粗雑、内部不均質・低エコー（虫食い像）を示す充実性結節がみられる。

肉眼：境界不明瞭な白色調の充実性結節である。非結節部には白色部が斑状にみられ、慢性甲状腺炎の存在を示唆する。

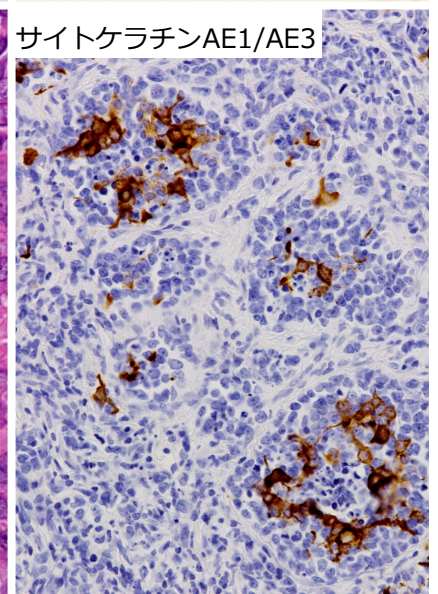
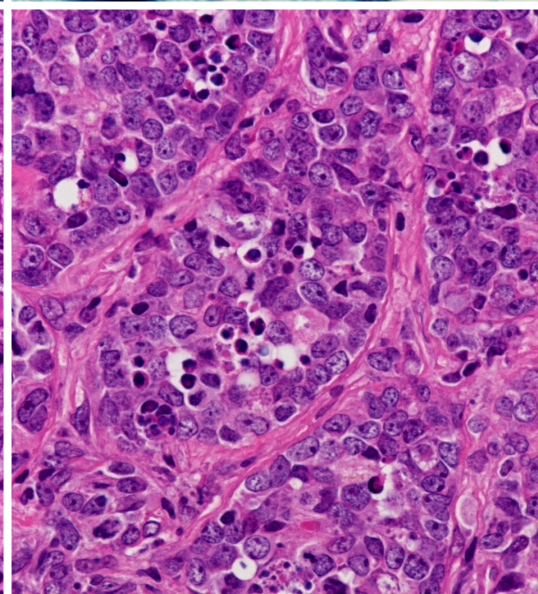
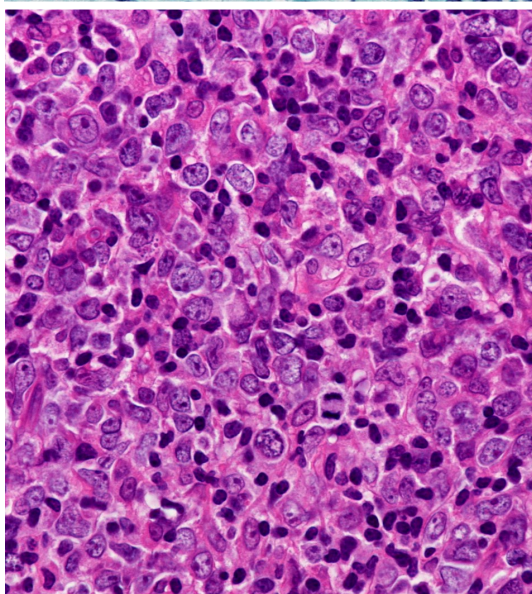
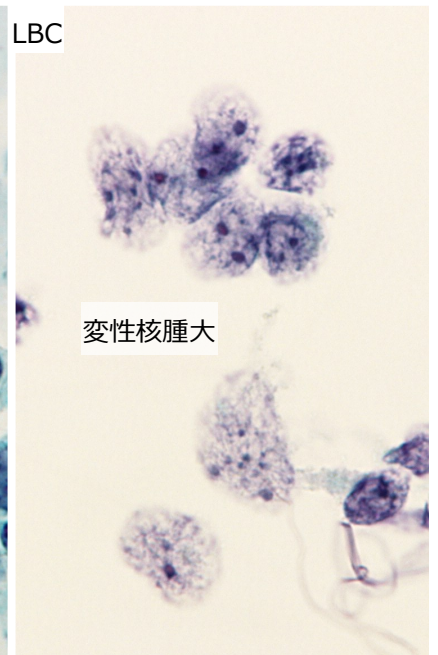
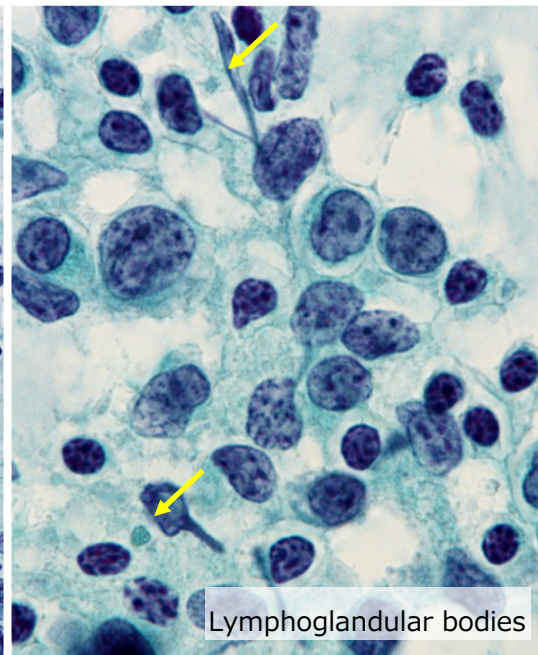
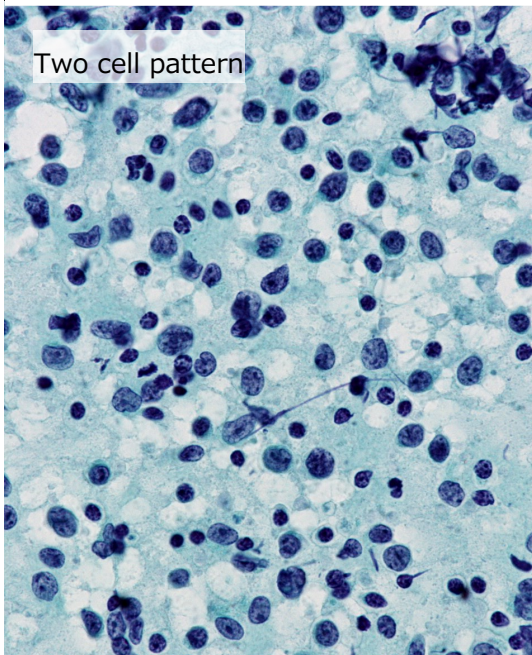
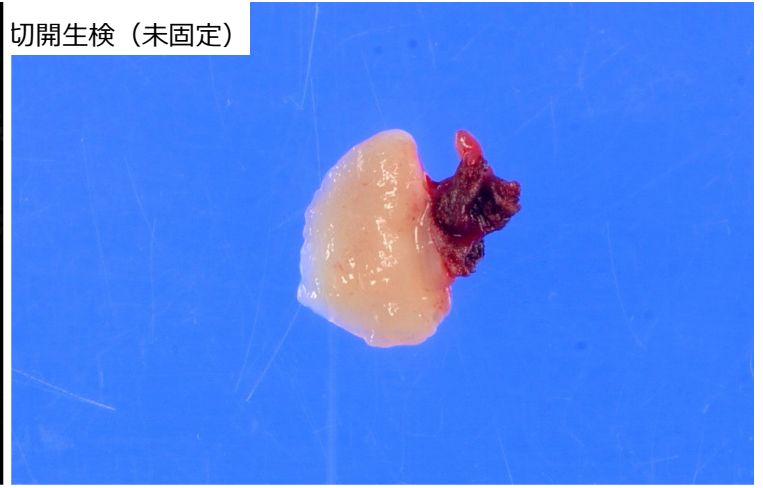
細胞診：MALTリンパ腫の細胞と比べて、粗いクロマチンを持つ偏在性の核とライトグリーン好性の細胞質が目立つ。穿刺材料を用いたCD45ゲーティングの結果はκ/λ>3で、軽鎖制限がみられる。

組織：形質細胞類似のリンパ腫細胞（κ陽性、λ陰性）が増生している。Lymphoepithelial lesionやfollicular colonizationがみられる。

26. リンパ腫 大細胞型



切開生検 (未固定)



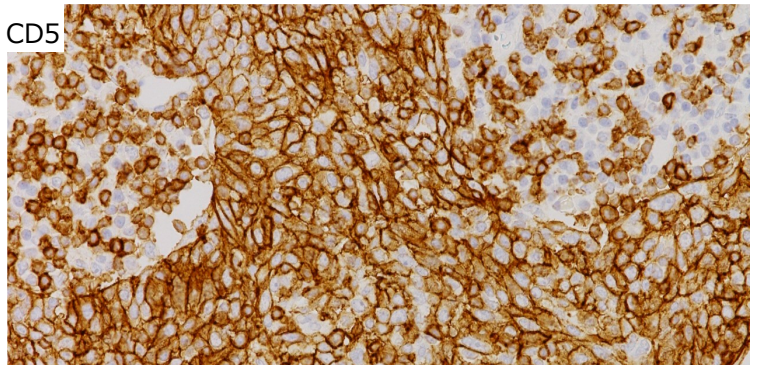
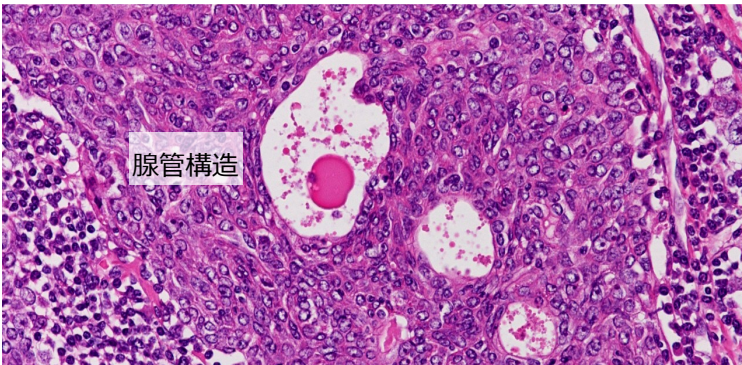
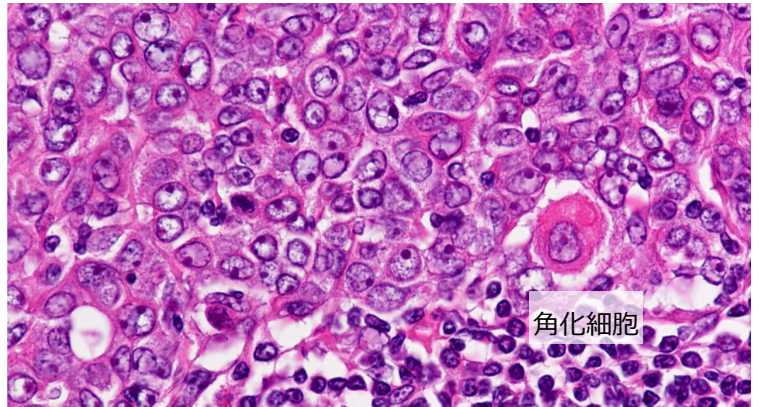
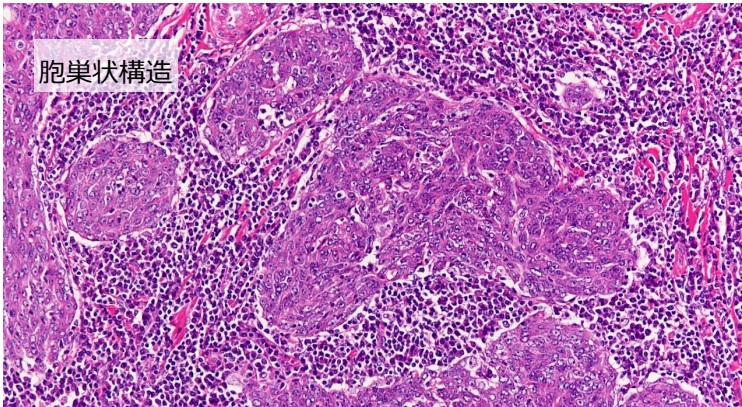
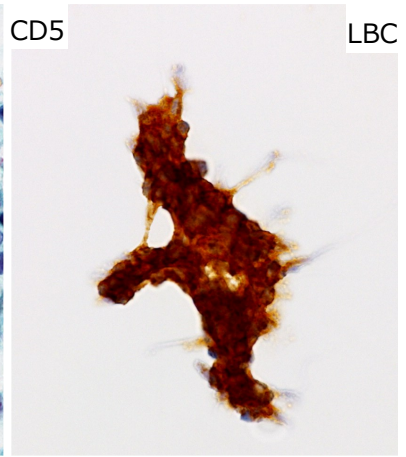
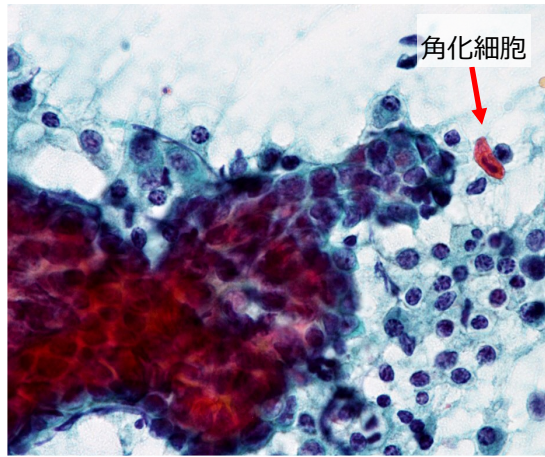
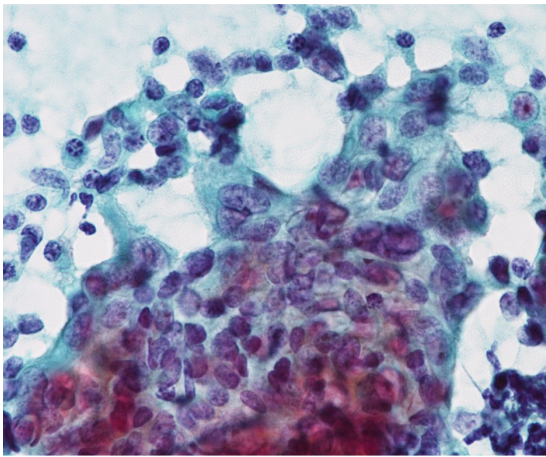
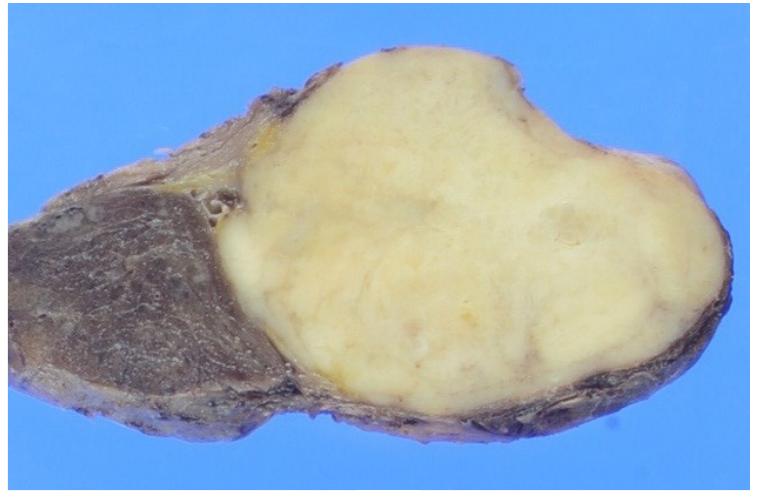
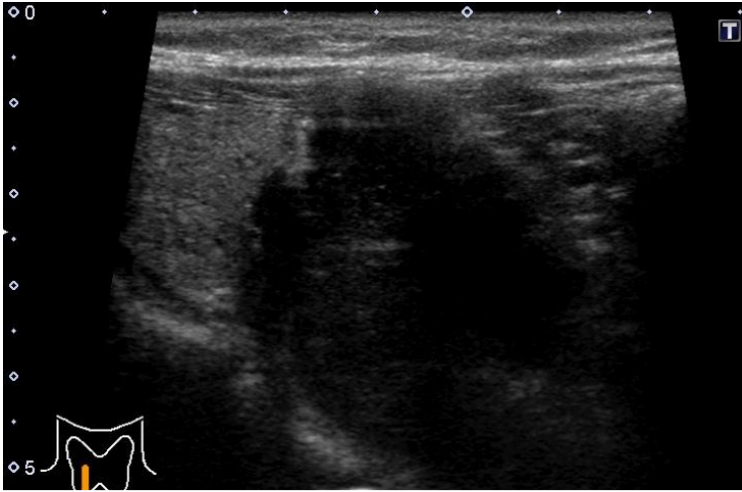
超音波：右葉から峡部にかけて、びまん性低エコーと後方エコーの増強がみられる。

肉眼：診断のための切除生検である。光沢のある白色の結節性病変である（fish-flesh appearance）。

細胞診：大型リンパ腫細胞と小型リンパ球のtwo cell patternがみられる。リンパ腫細胞の核には変形が目立ち、細胞質は淡明で、明瞭な細胞膜がみられる。背景には、lymphoglandular bodies (矢印) がみられる。LBC標本では、リンパ腫細胞は裸核状で、リンパ腫細胞に特徴的な変性核腫大がみられる。

組織：びまん性に増殖する大型リンパ腫細胞がみられる。リンパ腫細胞が甲状腺濾胞を置換するように浸潤している。

27. 甲状腺内胸腺癌



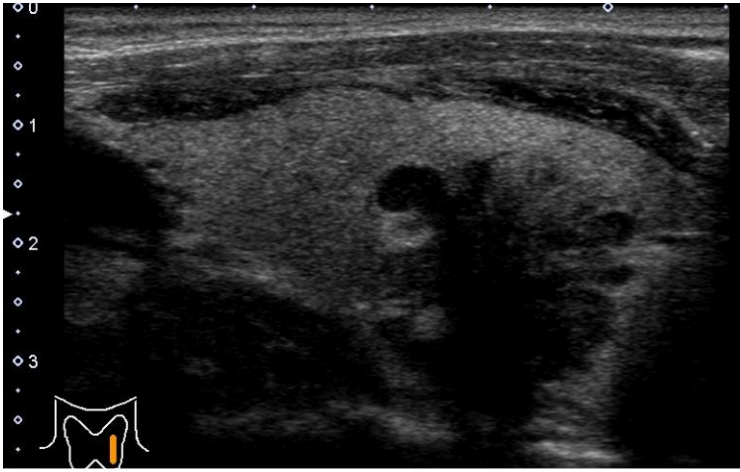
超音波：右葉下極に形状不整、境界不明瞭・粗雑、内部均質・極低エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：下極寄りに、黄白色調の充実性結節がみられる。

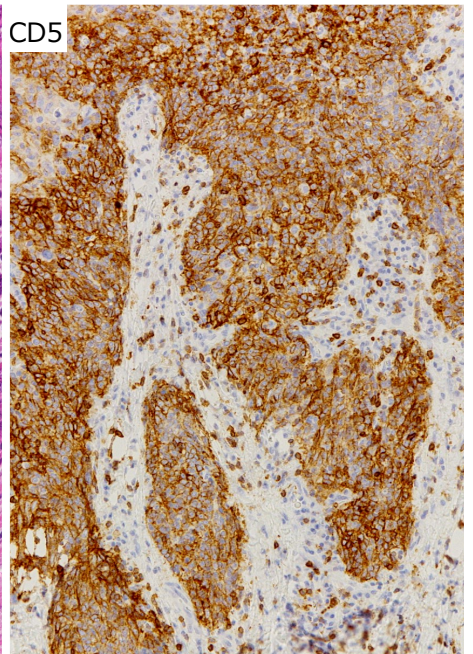
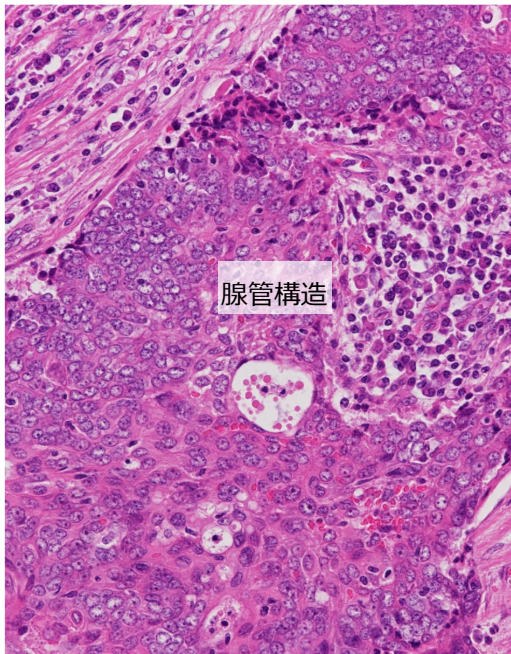
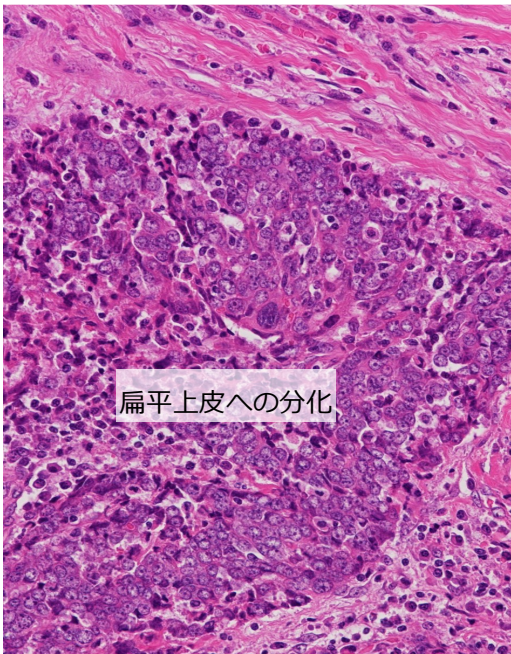
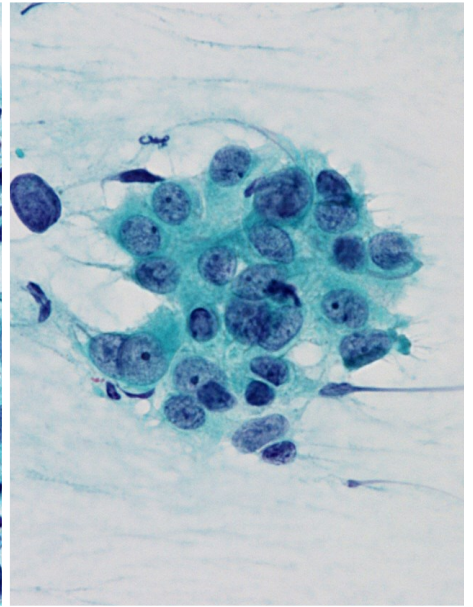
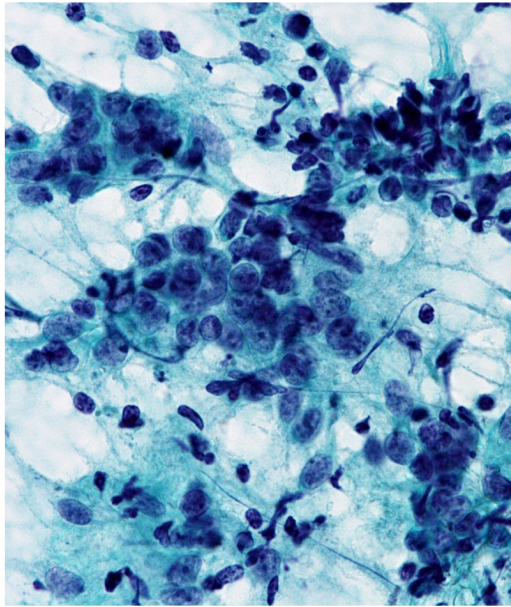
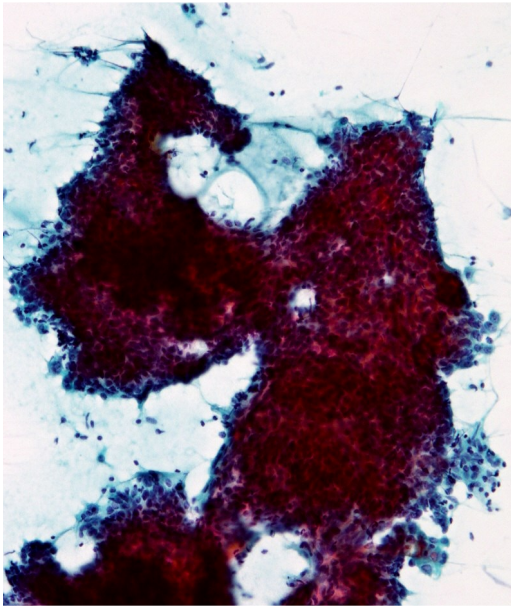
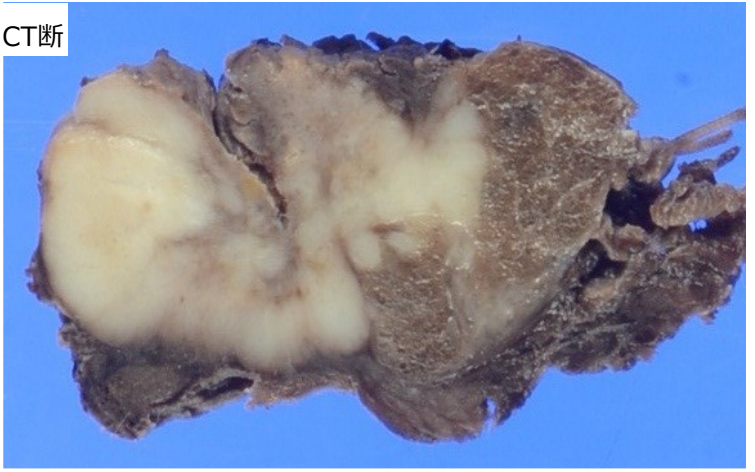
細胞診：大型集塊の周囲に多くのリンパ球、形質細胞がみられる。腫瘍細胞は類円形から紡錘形で、細胞質が厚い。角化細胞が少数認められる。

組織：腫瘍細胞は類円形から短紡錘形で、大きな胞巣を形成して増生し、間質にはリンパ球や形質細胞が目立つ。リンパ球は腫瘍胞巣内にも浸潤している。角化細胞や腺管構造もみられる。腫瘍細胞およびリンパ球はCD5陽性である。

28. 甲状腺内胸腺癌



CT断



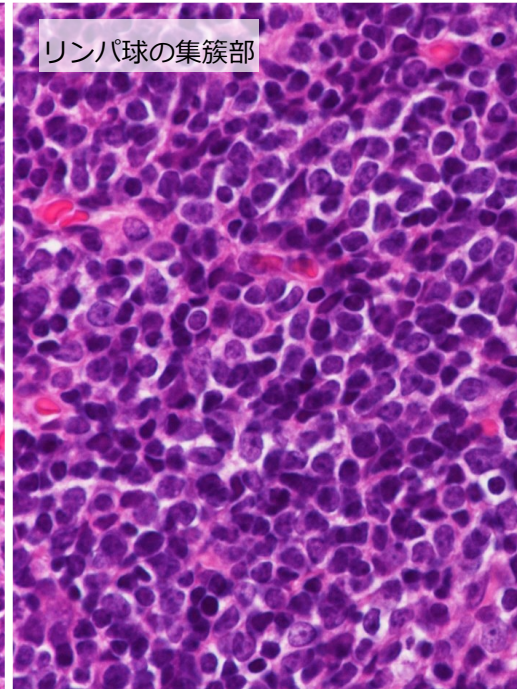
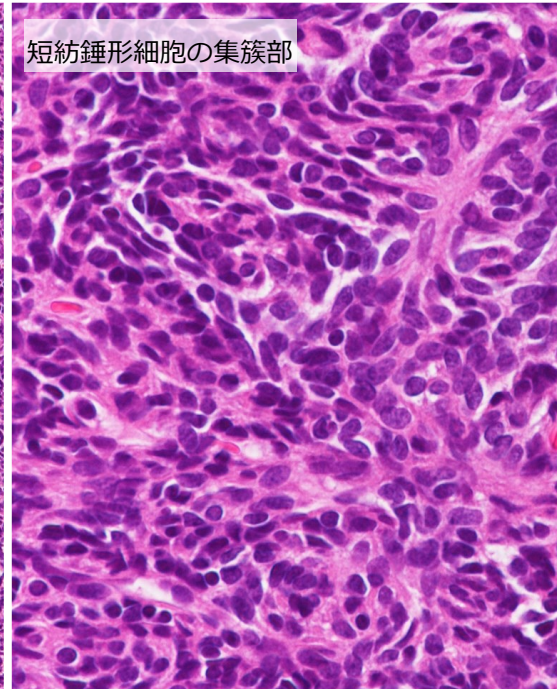
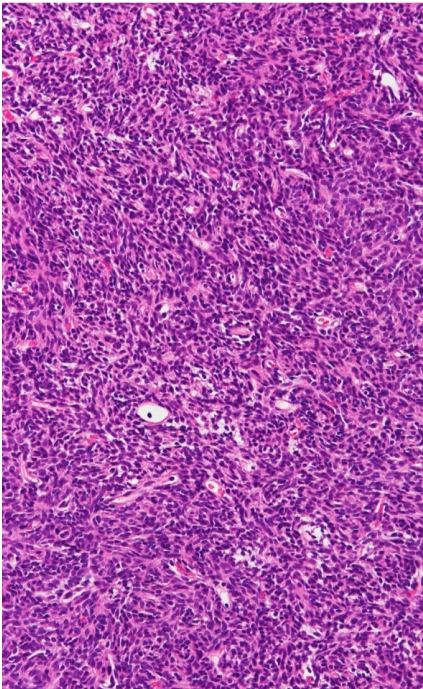
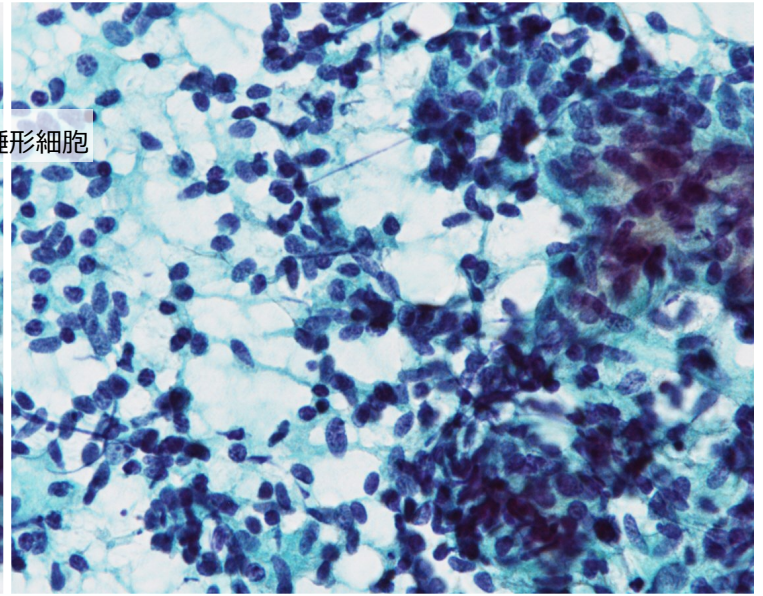
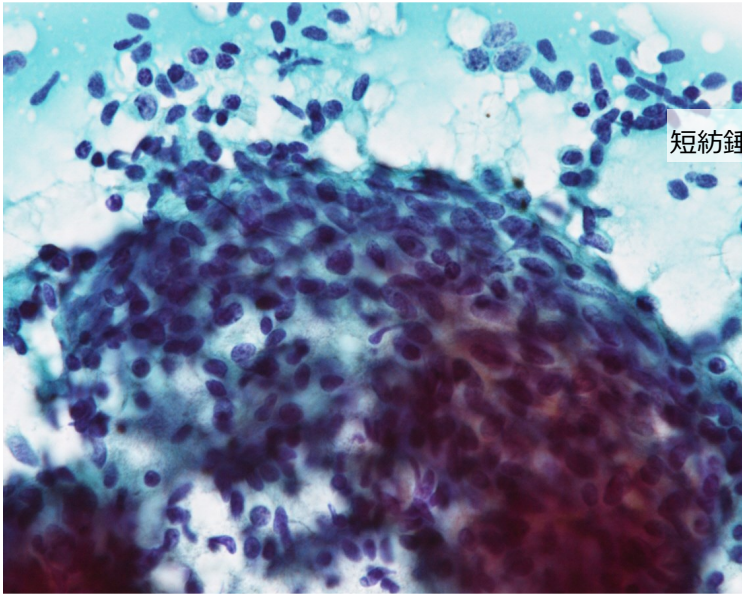
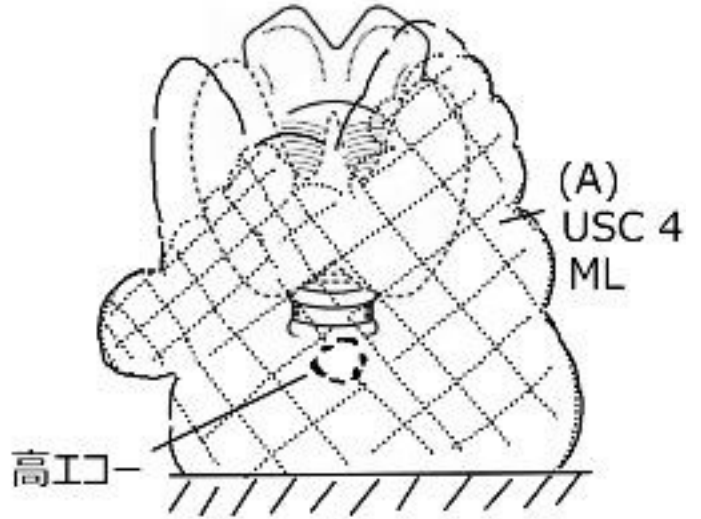
超音波：左葉下極に形状不整（分葉状）、境界不明瞭・粗雑、内部均質・極低エコーを示す充実性結節がみられる。

肉眼：浸潤性増殖を示す白色調結節である。

細胞診：背景にはリンパ球、形質細胞がみられる。腫瘍細胞は大型充実性細胞集塊として出現している。細胞集塊内にもリンパ球がみられる。細胞質は厚く、扁平上皮癌様であるが、クロマチンは微細で腺癌様である。

組織：大型胞巣状に増殖する腫瘍で、間質には慢性炎症細胞浸潤がみられる。リンパ球は胞巣内にも浸潤している。扁平上皮への分化や腺管構造がみられるが、腫瘍細胞がCD5陽性であることから、粘表皮癌と鑑別する。

29. 胸腺腫

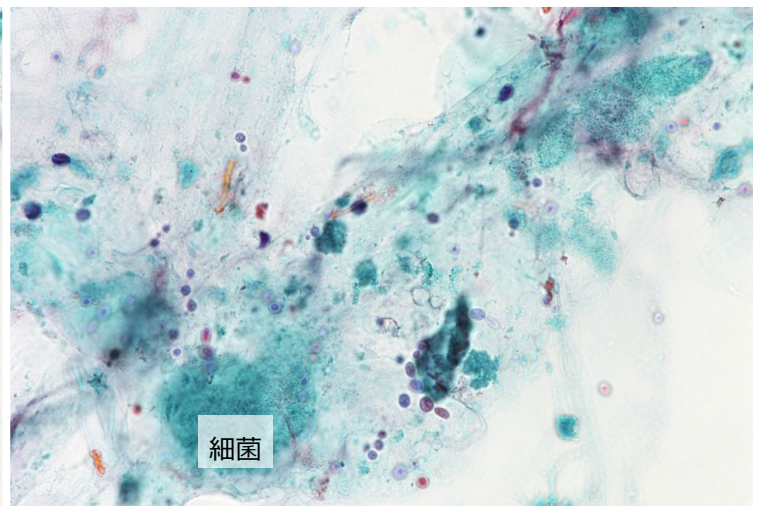
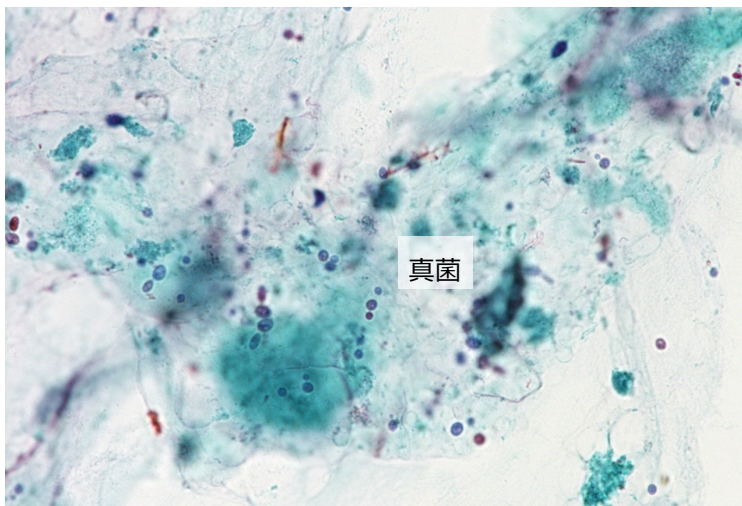
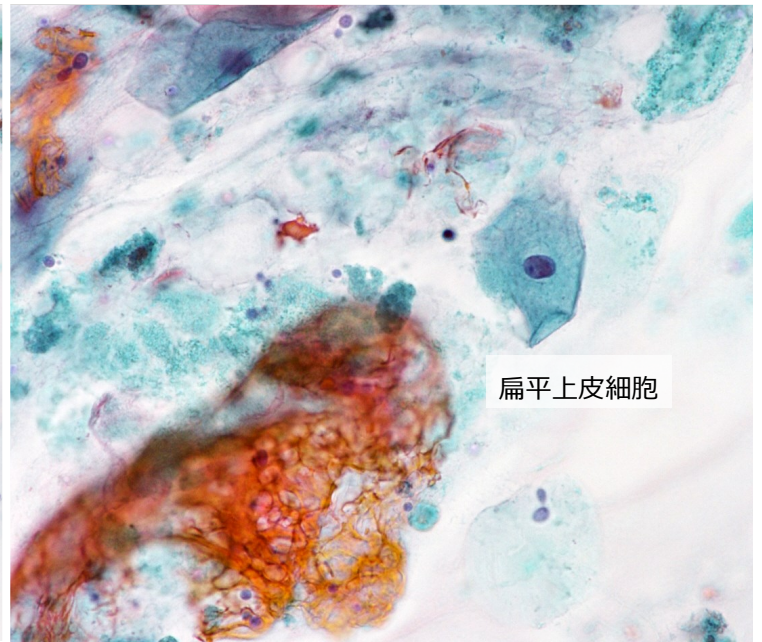
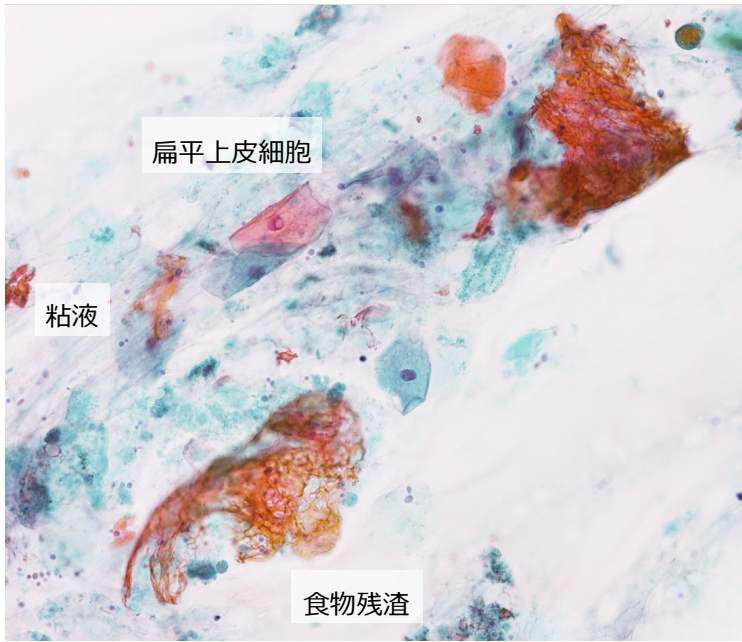
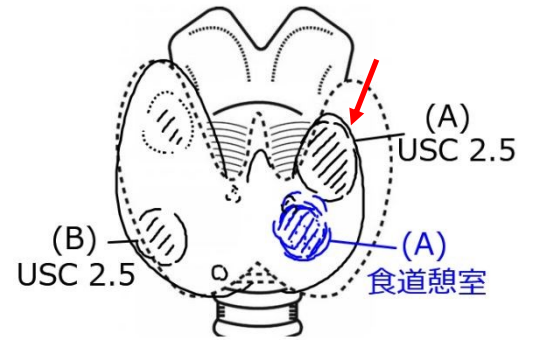
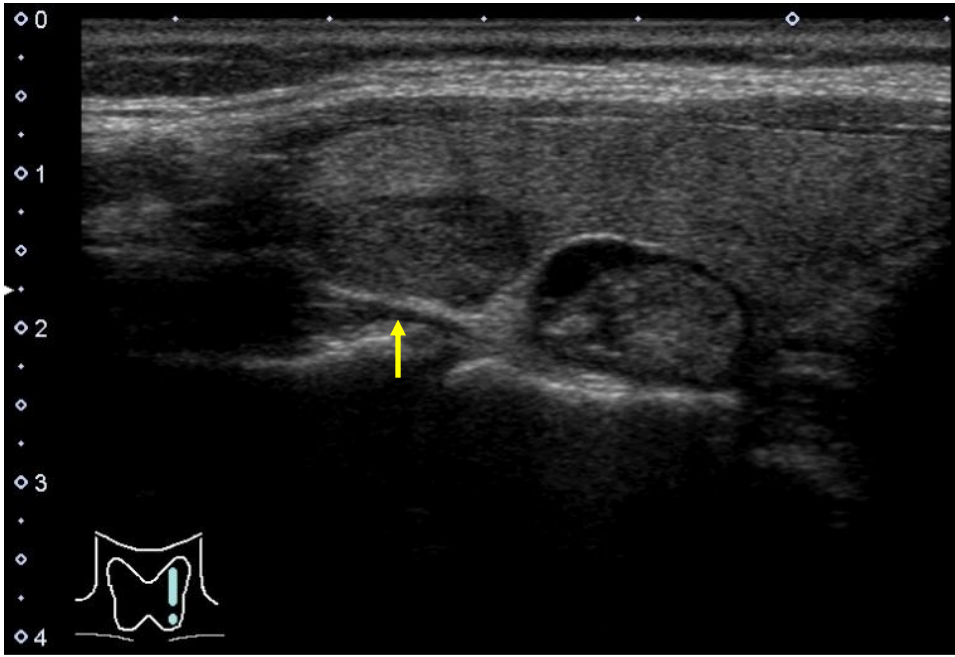


超音波：左葉に巨大な充実性結節がみられる。形状不整（分葉状）、境界不明瞭、内部均質・極低エコーを示す。

細胞診：裸核状の短紡錘形細胞が集簇性ないし孤在性に出現している。クロマチンは濃く、密で、核小体はみられない。

組織：検体は針生検である。短紡錘形細胞が密に増殖する部分と、リンパ球が集簇する部分がみられる。

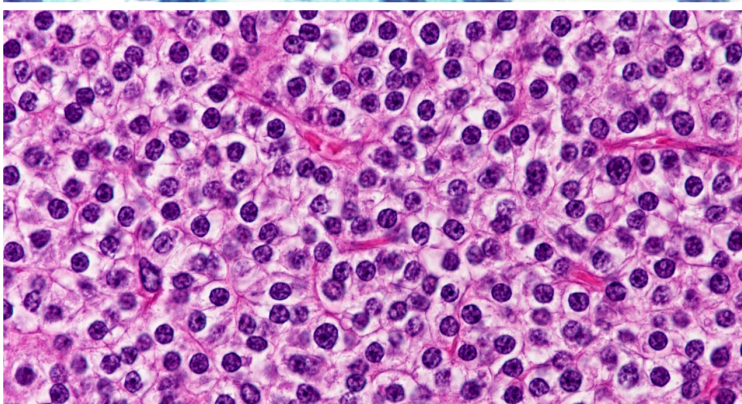
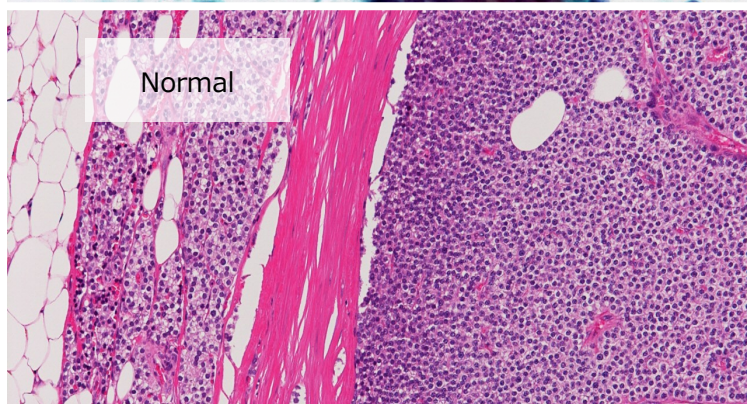
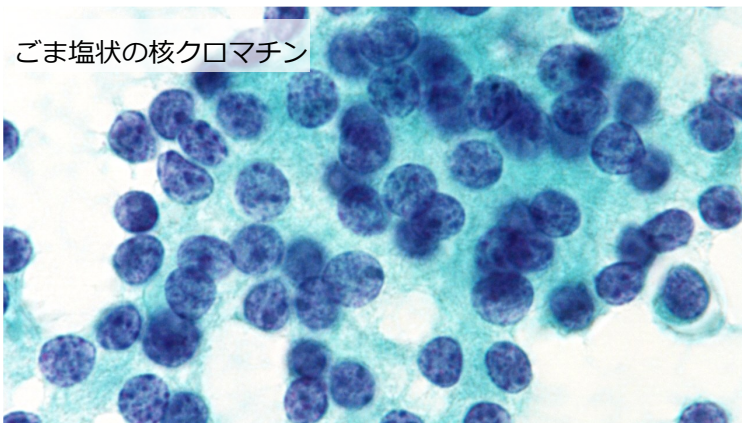
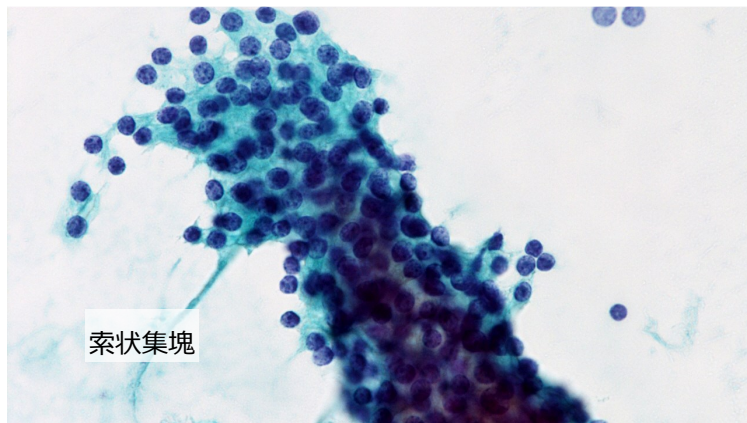
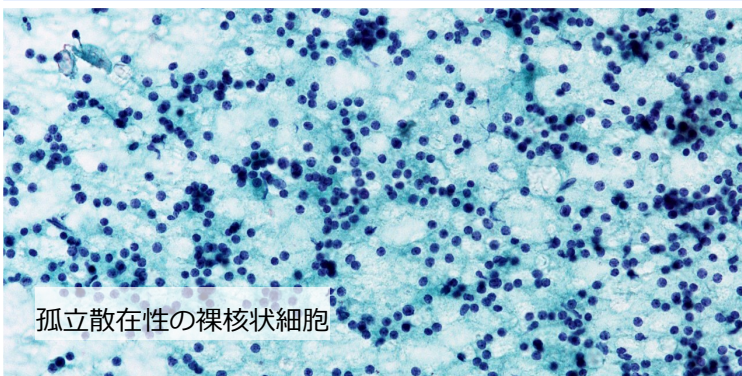
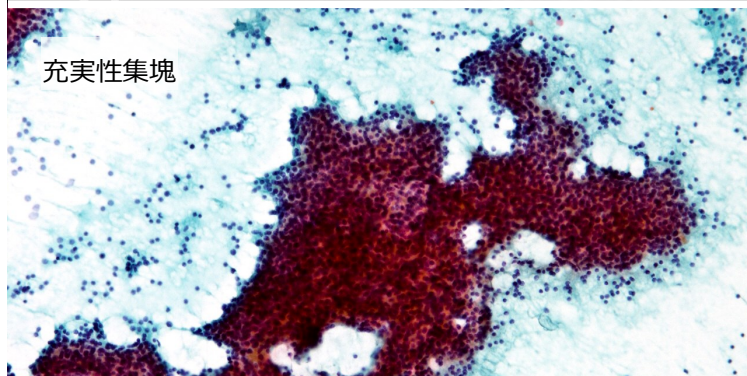
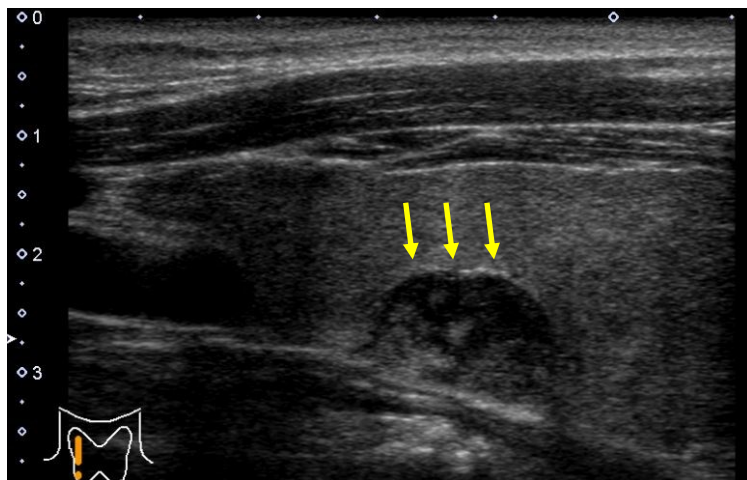
30-1. 食道憩室



超音波：左葉上極の背側に、形状整で境界明瞭、内部均質な充実性結節がみられる。この結節は超音波では甲状腺結節として報告された。下極側に隣接する結節は、超音波で食道憩室が疑われた。

細胞診：左葉上極の結節（矢印）より採取された標本である。異型性のない扁平上皮細胞、食物残渣、真菌、細菌、粘液などが混在している。

30-2. 副甲状腺腺腫



超音波：右葉背面に形状整、境界明瞭・平滑、内部均質・低エコーを示す充実性結節がみられる。超音波では甲状腺結節として報告されたが、見直してみると、甲状腺との境界に、甲状腺外を示唆する線状高エコー（矢印）がみられる。

肉眼：白色調の充実性結節である。

細胞診：超音波で甲状腺結節として観察されたため、穿刺吸引細胞診が施行された。比較的平面的な充実性集塊で出現している。索状集塊もみられる。結合性は比較的乏しく、孤立散在性の裸核状細胞も多くみられる。N/C比は低く、クロマチンは粗い。

組織：主細胞からなる結節で、周囲にnormal parathyroid rimがみられる。